

14. 5-775



1200501218607

14.5

75



始



145

775

（調查資料第四輯（昭和十三年十二月））

# 山東棉業調查報告

滿鐵・北支事務局調查部

北支調查資料第四輯(昭和十三年十二月)



山東棉業調查報告



滿鐵・北支事務局調查部

發行所寄本

14.5  
775

凡 例

- 一、本報告書は山東棉業調査報告(民國二十四年調査、金城銀行總經理處天津調査分部編)を翻譯せるものである。
- 二、從來山東棉花に關する資料の極めて乏しき折柄本報告書の刊行は斯界に裨益する所少からざるを信するものである。
- 三、本報告書は曩に刊行せる北支經濟資料第三十九輯天津棉花運銷概況—河北省棉花事情—の姉妹篇をなすものである。
- 四、翻譯者 調査部農産係 片山英夫  
尙術語及技術方面の譯出には當部員江上利雄の校訂を煩した。

昭和十三年十二月

滿鐵・北支事務局調査部

凡 例

241  
677

# 山東棉業調查報告

## 目次

第一編 概 述.....一

第一章 調查經過.....一

第二章 山東棉業の重要性.....三

第二編 棉花の生産.....九

第一章 棉田面積.....九

第二章 棉花の産量.....一二

第三章 棉花の品種及品質.....一九

    (一) 緒 言.....一九

    (二) 國內の主なる棉花品種.....一九

    (三) 棉花の分級及選擇の重要性.....二三

目次

(四) 山東省の中米棉種……………二九

(五) 品種の改良及推廣……………三六

第四章 耕種狀況……………三九

(一) 氣候……………三九

(二) 土質……………四〇

(三) 栽培方法……………四一

一、整地……………四一

二、施肥……………四二

三、播種……………四三

四、間引……………四五

五、中耕……………四五

六、灌溉及排水……………四六

七、整株……………四七

八、收花……………四八

九、留種……………四九

第五章 生産費及價格……………五三

(一) 棉作經濟と普通作物經濟の比較……………五三

(二) 肥料同價試驗……………五五

(三) 米國棉花の生産費……………五八

(四) 各縣の棉花價格……………五九

第六章 棉花の調製……………六三

(一) 繰棉……………六三

(二) 包裝……………六四

第七章 生産資本……………六六

第三編 棉花の運銷……………六九

第一章 棉産區域……………六九

第一節 魯北區……………七〇

(一) 概況……………七〇

(二) 棉花の生産と分佈……………八〇

甲、面積……………八〇

乙、産量……………八二

丙、栽培法……………八二

目次

丁、棉農收支の比較……………八二

戊、農民金融……………八三

(三) 棉花の運送販賣……………九〇

甲、集散情況……………九〇

乙、運送方法及運賃……………九二

第二節 魯西區……………九五

(一) 概況……………九五

(二) 棉花の生産及分佈……………九八

甲、面積……………九九

乙、產量……………九九

丙、栽培法……………一〇〇

丁、農民收支の比較……………一〇二

戊、農民金融……………一〇二

(三) 棉花の運送販賣……………一〇三

甲、集散情況……………一〇三

乙、移出數量……………一〇五

丙、運送方法及運賃……………一〇六

第三節 魯南區……………一〇八

第三節 魯南區……………一〇八

(一) 概況……………一〇八

(二) 棉花の生産……………一二二

甲、面積……………一二三

乙、產量……………一二四

丙、栽培法……………一二六

丁、棉農收支の比較……………一二七

戊、農民金融……………一二七

(三) 棉花の運送販賣……………一二六

甲、集散情況……………一二六

乙、移出數量……………一二七

丙、運送方法及運賃……………一二八

第二章 市場……………一二九

(一) 濟南棉花市場……………一二九

一、市場の歴史……………一二九

二、濟南棉花市場發達の由來……………一三〇

1 位置の優越……………一三〇

2 交通の便利……………一三一

三、棉花出廻経路及品質數量……………一三一

四、棉花の販路及數量……………一三一

五、市場の組織……………一三一

1 經紀人……………一三一

2 花行……………一三三

3 洋行……………一四三

4 紗廠……………一四五

5 打包廠……………一四七

6 倉庫業……………一四八

7 保險業……………一四九

8 運輸公司……………一五四

9 金融機關……………一五六

10 檢驗機關……………一六二

六、取引情況……………一六八

七、運送販賣狀況及諸費用……………一七三

(二) 張店棉花市場……………一七五

一、緒言……………一七五

二、市場の組織及取引狀況……………一七六

三、棉花運輸方法及運賃諸掛……………一七九

四、棉花移出統計……………一八〇

(三) 青島棉花市場……………一八二

一、棉花の出廻経路及品質……………一八二

二、棉花の販路及輸移出數量……………一八二

三、市場の組織……………一八四

1 經紀……………一八四

2 花行……………一八五

3 洋行……………一八五

4 紗廠……………一八五

5 打包廠……………一八七

6 倉庫業……………一八八

7 保險業……………一八九

8 運輸公司……………一九〇

9 金融機關……………一九〇



10 檢驗機關.....一九三

四、取引情況.....一九三

五、運輸狀況及諸經費.....一九四

第四編 山東棉業運銷合作

一、緒言.....一九五

二、鄒平米棉運銷合作社.....一九六

甲、概述.....一九六

乙、組織.....一九八

(一) 村社.....一九九

(二) 聯合會.....一九九

(三) 辦事處.....二〇一

丙、事業經營.....二〇一

(一) 棉種子.....二〇一

(二) 貸款.....二〇三

(三) 棉花の集貨.....二〇七

(四) 加工.....二一〇

(五) 棉花の販賣.....二二二

(六) 購買の兼營.....二二五

丁、年度決算.....二二六

戊、章程.....二二三

(一) 村社通用簡章.....二二三

(二) 該社聯合會章程.....二二五

(三) 村社棉花蒐集簡則.....二二八

(四) 村社繰棉簡則.....二二九

(五) 村社職員考査獎勵暫行辦法.....二二九

三、齊東米棉產銷合作社.....二三一

第五編 調査の意見

(一) 生産方面.....二三三

甲、棉種の改良と推廣.....二三三

乙、耕作の改良.....二三五

丙、棉田水利工作.....二三六

(二) 運銷方面.....二三六

甲、棉花檢驗の嚴格なる辦理……………一三六

乙、公共練棉打包廠の設立……………一三七

丙、倉庫の設立と倉庫金融の兼營……………一三九

丁、運銷合作社の組織推廣と中間人の搾取排除……………一四〇

(三) 棉花運銷合作方面……………一四〇



# 山東棉業調查報告

## 第一編 概 述

### 第一章 調查經過



民國十四年本行に調査部が設置されるや、農業係をして山東の棉花、小麦、落花生、葉煙草、絲繭等の生産運銷狀況を調査せしめた。調査期間は四個月とし、出發前二週間に費して調査大綱を決定し、各種農産物の生産、運銷圖表を作成し、調査士参考の資とした。

本年二月の六日夜、調査員一行三名は天津を後に先づ濟南に向ひ、濟南滞在三週間の後、魯北(山東省北部)の鄒平、齊東、蒲臺、利津、高苑、長山、桓臺、濱縣、霑化等九縣を通過し、一旦濟南に引返し、この間二五日を費した。濟南に於て調査打合せをなし、四月上旬再び魯南(山東省南部)へ向けて出發し、泰安、滋陽、濟寧、嘉祥、鉅野、曹縣、鄆城、荷澤等の各縣を歴訪した。該區は棉花、小麦、落花生等産出の重要區域にして、調査は相當繁雜、而も交通不便なる爲、旅行期間も稍々長く四二日を要した。最後に魯西(山東省西部)一帶の棉花を調査する爲、一八日を費して、禹城、高唐、清平、夏津、臨清等五縣を廻つた。濟南に歸着後一週間滞在して、同市場に關する資料を補足蒐集し、一先づ天津に引上げた。十月八日青島に赴き同一五日に歸津した。前後合計二三縣、一特別市を廻り、三個月

半の日子を費したのである。

棉花は今次調査の農作物中重要部分を占むるもので、調査大綱の内容は、棉花の生産、棉花の運銷、棉花の價格の三部分に分れてゐる。而して生産の項は更に、產地概況、棉田面積、棉花の產量、栽培狀況、生産資本廻轉狀況、棉作と他種農作物との收益比較等の細目に分れてゐる。運銷の項も、棉花市場の組織、棉花の集散狀況、市場の中間人、各棉花商の組織及營業狀況、梱包工場、倉庫業、保險業、運送業、金融機關、檢驗機關、紡績工場の組織及營業狀況等に細分されてゐる。又棉花の價格の項も、價格決定の標準、價格變動の原因、價格變動の影響等の細目に分れてゐる。調査に當つては、この大綱に基き、資料の蒐集に努めたのである。

調査の對象となつたものは頗る多いが、左に重要なものを列記してみやう。

- 1 產地方面に於ては、縣政府建設科、商會、棉業公會、運送會社、倉庫、合作社、商店及農民等である。
- 2 濟南市場方面では、棉業公會、中棉歴史記、復成信花行、中國打包公司、申新打包公司、魯豐紗廠、成通紗廠仁豐紗廠、中國銀行、上海銀行農業貸款部、太平保險公司、捷運轉運公司、匯通轉運公司、交通・中國・上海三行聯合倉庫、濟南青島商品檢驗分局、省政府建設廳、膠濟鐵路局等である。
- 3 張店市場では、棉業公會、花行、花棧、商會、錢莊及張店驛等である。
- 4 青島市場では、棉業公會、華新紗廠、工商學會、華商交易所、花行、港務局、打包公司、市政府社會局、膠濟鐵路局、各銀行、倉庫、保險公司等である。

## 第二章 山東棉業の重要性

支那に於ける主要產棉地域は、江蘇、湖北、山東、河北、河南、陝西、山西、浙江、安徽、湖南、江西等の各省である。山東省は、東部は黃海に臨み、黃河の下流に位し、氣候溫和にして、土質は砂壤土多く、且肥沃である。米棉を移植して以來、棉田面積は年と共に増加し、六、〇〇〇、〇〇〇畝を突破してゐる。殊に産額の激増は、飛躍的なものがあり、通常一、〇〇〇、〇〇〇擔以上にして全國中第三、四位を占めてゐたが、民國二〇年には一躍して首位を占むるに至つた。山東に於ける產棉地域は、魯北、魯西、魯南の三大區域に畫分される。各棉區の產量は、魯西首位を占め、魯北之に次ぐ。產出棉花の品質は魯北が最も優秀にして、魯西之に次ぎ、更に魯南之に次ぐ。魯北の齊東及魯西の臨清には各々棉作改良場が設置せられ、品質は年々改良せられ、産額も逐年増加しつつある。

山東省の棉田面積は非常に廣大である。中華棉業統計會の調査に據れば、民國二〇年の全國棉田總面積（河北、山東、山西、河南、陝西、江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、奉天等一二省を包括）は、三二、七〇〇、〇〇〇餘畝である。山東省は七、九〇〇、〇〇〇餘畝を有し、全國總面積の二五・二%を占め、第一位に位してゐる。民國二一年棉田總面積（民國二〇年包括範圍より奉天省を除く）は、三七、〇〇〇、〇〇〇畝にして、江蘇省が八、五〇〇、〇〇〇畝を有し第一位を占めてゐる。同年湖北省は七、六〇〇、〇〇〇畝を有し第二位を占め、山東省は六、八〇〇、〇〇〇畝にして、全國棉田總面積の一八・四五%に當り、第三位に落ちた。民國二二年の全國棉田總面積（包括範圍は前年に同じ）は、四〇、四〇〇、〇〇〇畝にして、江蘇省が九、八〇〇、〇〇〇畝を有し第一位は占めてゐる。湖北省之に次ぎ、八、一〇〇、

〇〇〇畝は有し、第三位は河北省にして六、〇〇〇、〇〇〇畝である。山東省は五、〇〇〇、〇〇〇畝を有し、全國棉田の二二・八一%を占め、第四位に轉落した。民國二三年の總面積は四四、九〇〇、〇〇〇畝である。同年も江蘇省が一、二、〇〇〇、〇〇〇畝を占め依然として第一位を保持し、湖北省が七、八六〇、〇〇〇畝にして第二位に位し、河北省が七、八〇〇、〇〇〇畝にして第三位となつた。山東省は五、四九〇、〇〇〇畝にして依然第四位に位し、全面積の二二・一%を占めてゐる。二四年の全國棉田總面積は三五、〇〇〇、〇〇〇畝(前年一省に四川省を加ふ)にして、江蘇省一〇、二〇〇、〇〇〇畝を有し第一位を占め、河北省は六、三〇〇、〇〇〇畝にして第二位に躍進した。湖北省は水災の影響を受け産量激減し、棉田面積は四、五〇〇、〇〇〇畝となり第三位となつた。陝西省は三、六〇〇、〇〇〇畝にして第四位、四川省は一、九〇〇、〇〇〇畝にして第五位である。山東省は黄河の水禍を被り、棉田は一、八〇〇、〇〇〇畝となり、全面積の四・八%を占め、遂に第六位となつた。

棉花の産量に關し、中華棉業統計會の調査に據れば、全國の繰棉總産額は普通八、〇〇〇、〇〇〇擔前後である。山東省の産額は、民國一八年以前は一、〇〇〇、〇〇〇擔上下に過ぎず、全國産量の二〇%を超える事は出来なかつた。最低は民國九年の二%である。一八年以後、産量は漸増した。一九年には二、〇〇〇、〇〇〇擔を突破し、總産額の二四・六四%を占め、全國第二位となつた。二〇年には總産額の三三・六七%を占め、遂に待望の首位を獲得するに至つたのである。二一年は、産量稍減じ、二、〇〇〇、〇〇〇擔を割り、總産額の二二・八三%を占め第二位となつた。二二年は、水災のため産量は僅か一、三〇〇、〇〇〇擔となり、一四・一二%を占むるに過ぎなかつた。二三年、全國産量は一一、二〇〇、〇〇〇擔で、山東省は一、三〇〇、〇〇〇擔にして、總産額の一一・五%を占め、第四位となつた。二四年は、旱害水害交々至つて、棉田は全滅的打撃を被り、棉産は激減した。播種期の當初は、棉田は尙増加の趨勢に

あつたが、豈計らんや、播種期より七月下旬に至るまで、旱天續きにて全く降雨無く、砂風屢々起つて、非常な被害を及ぼし、多數の棉田は播種不能に陥り、或は播種後發芽せず、又は發芽しても枯死する等の慘狀を呈した。極めて少數の灌漑可能地を除き、大多數は空しく廢田と化し、或は降雨後他の作物を植えた。而して旱害の最も甚しかつた地方は、主要棉區に屬する地方にして、臨清、館陶、夏津、堂邑、冠縣、恩縣、清平等七縣の如きは、前年は棉田合計二、六〇〇、〇〇〇畝を有し、棉産は六三〇、〇〇〇擔に達したが、本年は、棉田は二〇〇、〇〇〇畝に滿たず、棉産二〇、〇〇〇擔に達せざる状態である。災患の作物に及ぼす影響が如何に大きいか、之によつてはつきりと分るであらう。魯北方面は旱害なく、棉田は前年より少し増加した。魯南曹縣の旱魃は、魯西の如く甚しくはなかつたが、同地方は秋季黄河が氾濫し、棉田にも浸水し來り、時恰も開花季なりしたため、被害甚大なるものがあつた。一般に棉作は、發芽、發育に大なる障碍を受けたが、この障碍を排してよく生長し得た棉花は、七月初旬降雨の後、發育良好にして、目下の棉作狀況より推想すれば、全省平均一畝當の收穫量は繰棉一七・五斤位であらう。本年全國棉産豫想は八、一〇〇、〇〇〇擔にして、山東省は僅かに四〇〇、〇〇〇擔、總産額の五・一%である。實に近年稀有の現象を呈したのである。

黄河流域の棉産地帯は、原來灌漑の便悪しく、氣候冷涼にして、雨量一定せず、中棉(在來棉)の栽植に不適當であつた。然るに、米棉が移植せらるゝや長足の進歩をとげた。米棉の山東省に於ける移植來歴を考察するに、清末に始めて移植せられ、民國七年山東省政府は臨清に第一棉業試驗場(現在棉作改良分場と改稱さる)を設立し、脱里司棉(トライス)を選育し、又山東在留日商は朝鮮金氏棉(キング)の種子を購入して、鄒平、張店、高密等各處に分配した。民國一〇年、天津の全國棉業整理籌備處は、山東省に棉場を設立し、經費を支辨して脱字棉及金氏棉を種植した。翌

年實業廳は、米棉種子の購入を開始し農民に分配した。一五年、山東省は齊東に第二棉業試驗場（現在省立建設廳棉作改良場と改稱す）を設立し、米棉を馴育し、中棉の改良をなした。一八年農鑛廳は棉業改良計畫を規定し、一九年青島商品檢驗局に商品研究場を附設し、米棉の馴育並に中棉の改良を研究し、又濟南には棉花檢驗分處を設立した。二〇年商品檢驗局は棉花出口檢驗を添設した。農鑛廳は引き続き北平より多量の米棉種子を購入し、各縣に分配した。近年華新紗廠は日商の辦法に倣ひ、上海、朝鮮より米棉種子を購入し、清平、濱縣等各處に配布し、農民に栽培させて、收穫後之を買収した。かくの如く山東棉産の推廣と改良は、十數年の長きに亘つて各方面の刻苦努力の結果、始めて今日の地位を確立し得たのである。

全省出産の棉花は自家用に供せられる外、尙相當の餘剰が生ずるので、各地方に運送販賣される。魯西地方、即ち臨清、館陶、夏津、高唐、恩縣、清平、武城等各所より産出される棉花は、一應臨清に集中せられ、同地經由濟南、天津等に搬運される。魯北地方、即ち濱縣、蒲臺、利津等各地の産出棉花は、殆んど濟南及張店に集まる。小清河流域、即ち齊東、章邱、高苑等各地の棉花は、先づ張店に集中され、青島、濟南方面に轉運される。魯南地區、即ち曹縣、菏澤、鉅野等各地の棉花は、濟寧、棗州等に収集せられ、隴海線を経て河南省鄭州に運出せられたる後、漢口及上海等に轉運せられるか、又は運河により天津へ轉運せられ、濟南を經由しない。

山東に於ける農村合作事業は、最近非常な躍進をとげ、農業生産上極めて大なる貢獻をなしつつあり。二一年秋、鄒平鄉村建設研究院は、各村落に米棉運銷合作社を組織し、名稱を「梁鄒米棉運銷合作社」と定め、總社を孫家鎮に設け、毎年棉苗貸款及運銷貸款をなした。

一三年、山東建設廳合作事業指導委員會の指導の下に、齊東米棉産銷合作社が正式に成立し、近年來棉實の推廣に頗る成功を見せてゐる。建設廳は更に二三年度推廣施行計劃に於て、章邱、齊東、青城、高苑、博興、蒲臺、濱縣、惠民、邱縣、高唐、清平、夏津、高密、歷城、商河十五縣を推廣縣となした。而して全省の指導員八〇餘名を動員して各縣に派遣し、昨年一月より工作を開始し、本年三月に一段落を告げた。全省の合作社は齊東舊社を合して一、二三五社となり、社員は三四、六八六名、作付畝數は二六九、五八〇畝、貸與棉實は一、五七〇、五六二斤に達した。

## 第二編 棉花の生産

### 第一章 棉田面積

棉花は山東省に於ける重要農産物の一である。二三年實業部國際貿易局の調査に據れば、山東全省の耕地面積は一〇四、四九四、三三五畝にして、棉田面積は常に七、〇〇〇、〇〇〇畝前後に達し、全耕地の七%弱を占め、麥粟等の作物面積より少い。民國八年當時、全省棉田は三、二一八、〇〇〇畝であつたが、九年に北方諸省は旱災に悩まされ、棉田の播種不能に陥るもの續出し、これがため山東の棉田は四二八、三三〇畝に激減し、僅かに民國八年の八分の七となつた。一〇年、山東省農民は擧つて植棉面積を増し、昨年の損失を挽回すべく努力したので、棉田は二、三三三、一九〇畝に増加した。爾來棉田は續々と恢復され、一一年には三、五三四、七〇七畝となつた。同年棉價が騰貴したため翌年棉田は前年より更に一四二、五七〇畝増加した。然るに、一三年には一、〇〇〇、〇〇〇餘畝も減少し、二、一八四、三五八畝となつた。一四年より一七年至る間、棉田は常に三、〇〇〇、〇〇〇畝より三、三〇〇、〇〇〇餘畝の間にあつた。一四年は三、〇九九、一一二畝、一五年は三、二八四、五五〇畝、一六年は三、一七二、六三〇畝、一七年は三、三二七、二二〇畝、漸次舊狀に復して來た。民國一八年以後棉田面積は年と共に増加した。一八年には四、二三〇、〇〇〇畝となり、一七年より一、〇〇〇、〇〇〇畝増加した。一九年には六、五四〇、〇〇〇畝となり、一八年より更に約二、〇〇〇、〇〇〇畝増加した。二〇年には更に一九年より一、四〇〇、〇〇〇畝増加し、將に八、〇〇〇、〇〇〇畝に達せんとし、山東歷年棉田面積の最高記録を作つた。二二年には、六、八四〇、〇〇〇畝となり、二二年には黄河の氾濫のため

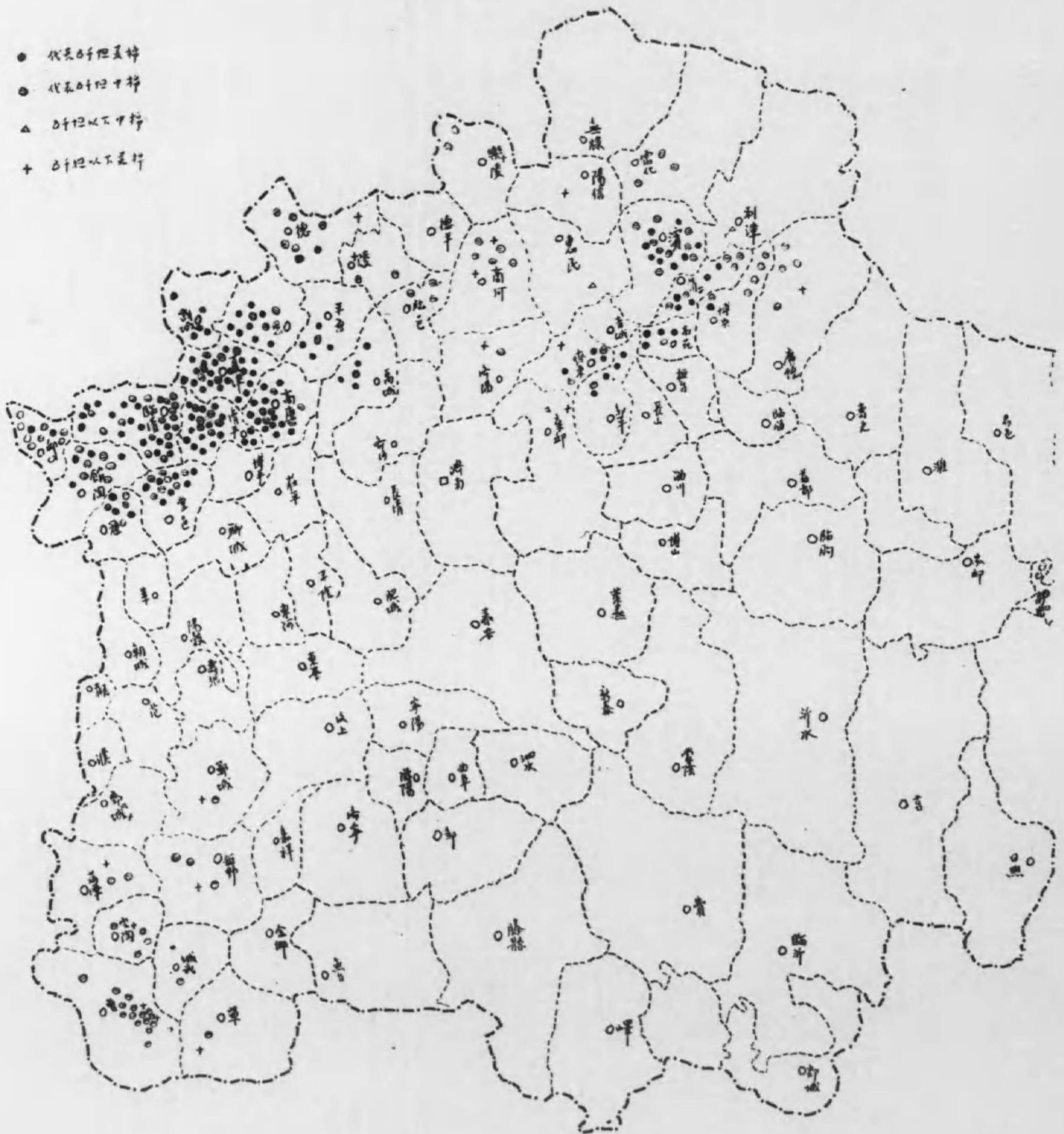
魯南産棉各縣が大損害を被り、棉田は五、〇〇〇、〇〇〇畝に減じた。之を前年に比較すれば、約二、〇〇〇、〇〇〇畝の減少である。植棉當時の面積は相當廣大なりしも、發芽せる棉田にして、河水のため淹没せるもの三八〇、〇〇〇畝に達した。水害の最も甚大なりしは、荷澤、曹縣、鄆城等の各縣である。

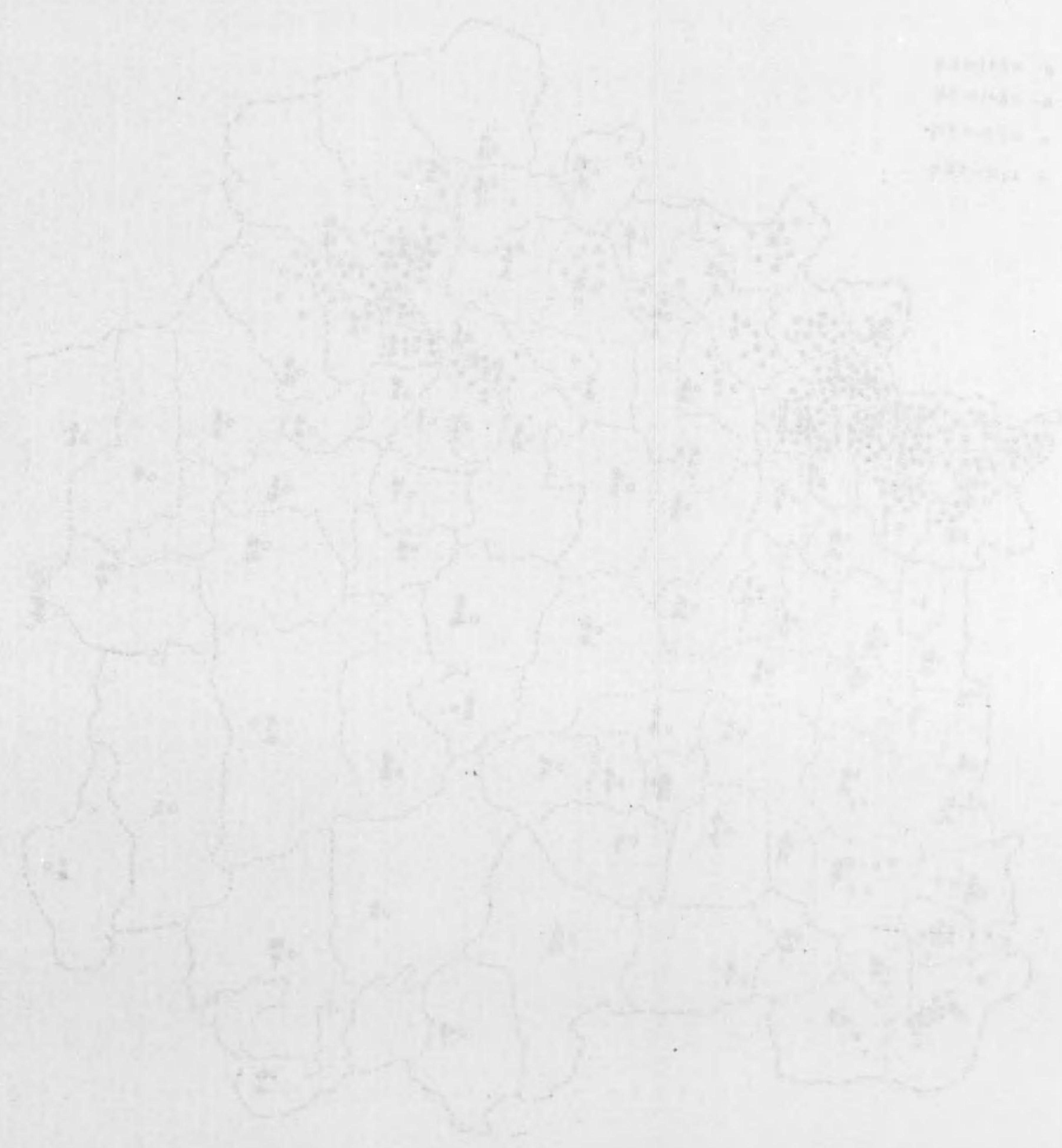
棉田面積の各縣分配狀況に關し、中華棉業統計會及上海華商紗廠聯合會の調査に據れば、全省棉田面積（四六縣を包括）は、二二年第二次見積にて四、六五〇、〇〇〇畝（四〇縣を包括）である。棉産各縣の内、災害による特殊の凶年を除けば、棉田面積は曹縣が最多にして、棉産増加の速度も同縣が最も早い。同縣の棉田面積は、民國一七年以前は僅か三〇〇、〇〇〇畝前後であつたが、一八年には三六〇、〇〇〇畝となり、一九年には一躍して一、一九〇、〇〇〇畝となつた。其後の増減は極めて僅かで、増減差額は四、〇〇〇畝程度を超へない。但し二〇年は水害のために、收穫の出來た棉田は僅々二一、〇〇〇畝に過ぎなかつた。臨清の棉田面積は、從來各縣の最上位を占めてゐたが、民國一九年以來曹縣の棉田が激増してより第二位に落ちた。同縣の棉田面積は、歷年の増減額極めて小さく、民國一五年には五四〇、〇〇〇畝であつたが、一九年には始めて六〇〇、〇〇〇畝に達した。二二年には六二〇、〇〇〇畝となり、同縣未曾有の大記録を作つた。第三は清平にして、棉田面積は五〇〇、〇〇〇畝以上、高唐、夏津等之に次ぎ各四〇〇、〇〇〇畝以上である。堂邑は三〇〇、〇〇〇畝以上、荷澤、邱縣、濱縣、蒲臺、館陶等各縣は皆二〇〇、〇〇〇畝以上である。

山東省に於ける米棉の栽培は、中棉の如く一般に普及してゐないが、併し可成重要な地位を占めてゐる。民國一六年前、米棉作付面積は尙一、〇〇〇、〇〇〇畝に満たず、一七年以後この數字を突破した。二〇年に至るや一躍三、〇〇〇、〇〇〇畝に達し、歷年來の最高記録を作つた。最近減少してゐるが、依然として二、〇〇〇、〇〇〇畝以上であ

### 山東省各縣棉花產地分佈圖

- 代表〇千担以上
- 代表〇千担以下
- ▲ 〇千担以下
- +





る。山東の各植棉縣中、東平、東阿、博平、嘉祥、魚臺、鄆城等を除く外、皆米棉を栽培せざるなく、恩縣、高唐、臨清、平原、高苑、鄒平、夏津、清平、禹城等各縣の如きは、米棉作付面積が中棉作付面積の二倍或は三倍となつてゐる。米棉作付面積の最大なるものは清平縣にして、同縣に於ける米棉々田は年々増加し、目下四〇〇、〇〇〇畝以上である。夏津、臨清等之に次ぎ、米棉作付面積は常に三〇〇、〇〇〇畝以上に達す。次は高唐及曹縣にして、米棉作付面積は二〇〇、〇〇〇畝以上である。其他恩縣、堂邑、濱縣、禹城等各縣も一〇〇、〇〇〇畝以上である。



### 第二章 棉花の産量

山東省の棉産量は、近年常に一、〇〇〇、〇〇〇擔以上に上り、この内中棉が約五五%を、米棉が約四五%を夫々占めてゐる。中華棉業統計會及華商紗廠聯合會の調査に據れば、山東所産繰棉は民國七年、七二〇、七八七擔、八年、八九四、五五八擔である。九年は、旱害のため棉苗の枯死するもの多く、收量激減し、繰棉一二六、〇七〇擔を産したのみである。一〇年、棉農は昨年同様の損失を挽回せんものと、猛然奮起し植棉面積を擴張したが、播種後久しく旱天打續き、加ふるに秋に入りてより陰雨に見舞はれ、早生の萌は殆んど脱落して了つた。同年の繰棉産量は僅かに三〇四、〇七七擔である。一一年、棉田は迅速に恢復し、且つ氣候適宜なりしたため、産量は急増し、繰棉一、〇〇五、二二三擔の生産があつた。之を昨年に比較すれば三倍の増産にして、棉産の大豊作と謂ふべきである。一二年、農家は昨年同様の好成績に刺激され、棉田を擴張した所、好天に恵まれ收量頗る豊富にして、毎畝の收量は、中棉は平均實棉一〇〇斤を、米棉は最高一五〇斤を得、全省の繰棉産出總額は一、三八七、六六六擔に達した。一三年以降の繰棉産量を表示せば次の如し。

年	次	繰棉産量(單位擔)	増減原因
民國	一三年	九三七、二二四	
同	一四年	九九五、六〇三	播種期缺雨生長期雨水過多
同	一五年	五一〇、〇〇〇	棉作稍佳良
同	一六年	七〇〇、〇〇〇	播種期缺雨
同	一七年	六二〇、四一三	

同	一八年	一、二一〇、〇〇〇	棉田激增
同	一九年	二、一七〇、〇〇〇	棉作大豊作
同	二〇年	二、一五〇、〇〇〇	棉田百餘萬畝増加せるも天氣不良
同	二一年	一、七二〇、〇〇〇	天候不良
同	二二年	一、三八九、八五九	黄河決潰

北方各地に於ける毎畝當收獲量は南方より多い。華商紗廠聯合會棉産統計部及中華棉業統計會の調査に依れば、全國各棉産省の毎畝當最高收獲量は、民國一四年陝西の五八・八斤(繰棉)で、民國一八年河北の四一・九斤及民國八年山西の四一・五斤之に次ぐ。山東の毎畝當最高收獲量は、陝西、河北等には及ばないが、歴年毎畝當平均收獲量は二六・四斤で、河北の三〇・五斤より稍劣るのみである。山東の棉田は、特殊の米棉に不利なる災害を蒙つた時以外は、米棉の收獲量が中棉收獲量より多く、普通毎畝當の差は一〇斤乃至三〇斤位である。民國一九年、濶澤に於ける米棉の毎畝收量は、中棉より四五斤(實棉)も多かつた。但し氣候の激變により、米棉の生長に障害を及ぼした際には、米棉と中棉の收獲量差は殆んどなく、寧ろ中棉に劣るものさへあつた。米棉の毎畝當最高收獲量は、民國一九年夏津の一八〇斤(實棉)である。普通作で一〇〇斤以上、收獲量一〇〇斤未滿なれば凶作である。

中棉の毎畝當最高收獲量は、民國二〇年の夏津縣、及二一年の陵縣及章邱縣等の一四〇斤(實棉)である。普通作で一〇〇斤前後、七〇斤未滿なれば凶作である。二二年、米棉は章邱縣の一四〇斤が最高にして、一〇〇斤以上一三〇斤未滿のものに高苑、青城、濱縣、商河、臨清、濶澤、齊東、陵縣、濟陽等各縣があり、其他各縣は九〇斤以下にして、曹、邱兩縣の如きは僅かに六〇斤であつた。同年、中棉の收獲量は、高苑、濱縣、鄒平、青城、章邱等諸縣が最高にして、毎畝當實棉一一〇斤乃至一二〇斤を收獲した。其他の各縣(德縣、城武、單縣、陽信等を除く)の收獲量は

七、八〇斤である。

山東の米棉は、全國米棉生産中極めて重要な地位を占めてゐる。その産量は湖北について第二位を占め、全國米棉總産額の一八%乃至二二%を占む。民國二〇年には湖北の産量を凌駕し、總産額の四四%を占めて首位に上つた。茲に最近四年間の山東省各縣に於ける中、米棉別棉田面積及産量を表示しやう。

山東省各縣棉田棉産統計表 (自民國二十年至二十三年)

縣別	二十一年		二十二年		二十三年	
	中棉	米棉	中棉	米棉	中棉	米棉
恩縣	230,000	260,000	260,000	230,000	270,000	240,000
高唐	290,000	330,000	310,000	280,000	350,000	320,000
臨清	150,000	180,000	160,000	140,000	190,000	170,000
館陶	180,000	210,000	190,000	170,000	220,000	200,000
堂邑	80,000	100,000	85,000	75,000	110,000	95,000
荷澤	290,000	330,000	310,000	280,000	350,000	320,000
鉅野	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
定陶	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
曹縣	970,000	1,100,000	1,000,000	900,000	1,200,000	1,100,000
臨邑	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
武城	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
平原	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
合計	1,000,000	1,100,000	1,000,000	900,000	1,200,000	1,100,000

縣別	二十一年		二十二年		二十三年	
	中棉	米棉	中棉	米棉	中棉	米棉
廣饒	330,000	370,000	350,000	320,000	400,000	380,000
博興	270,000	310,000	280,000	260,000	330,000	300,000
利津	110,000	130,000	115,000	105,000	140,000	130,000
蒲臺	130,000	150,000	135,000	125,000	160,000	150,000
濱縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
鄒平	280,000	320,000	290,000	270,000	340,000	310,000
夏津	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
清河	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
商河	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
齊東	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
德縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
邱縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
冠縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
德縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
陵縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
惠民	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
化縣	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
濟陽	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
青島	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
章邱	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
禹城	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
武城	200,000	230,000	210,000	190,000	240,000	220,000
合計	1,000,000	1,100,000	1,000,000	900,000	1,200,000	1,100,000





中國に於て栽培に好適せる棉花は、中棉及米棉の二種である。茲に目下各地で推廣中の主なる米棉及中棉の各品種につき分述し、然る後本章第四項に於て本省棉種の狀況を述べやう。

## 甲、米棉品種

脱里司棉(Trice)は早熟多産の短絨棉(纖維の短き棉)にして、中國北部の氣候に適してゐる。此は一九〇五年米國テネッソー州(Tennessee)農事試験場カイン教授が、農民脱里司氏の早熟棉田中より選出したものを本とし、四年間苦心研究の末育成したる新品種にして、一九一八年その優良なる事は、早くも米國一般に公認された。草丈は二尺乃至五尺にして、葉枝(徒長枝)少く果枝多く節間は中長、全體は塔形をなし、葉は中大にして色淡緑、葉面に毛多く、莢は中大にして楕圓形をなし白色又は棕色(褐色)、纖維は短く八分の七吋乃至一吋である。脱里司氏の棉は元來叢生大莢なりしたため、先天的遺傳關係より時に叢生形態を發現し、又その發現の多寡は土性氣候の適不適により増減がある。故に純良品種を維持するためには、變態棉株を除去し、劣等なるものを除かねばならない。脱里司棉の繰棉率は二八%乃至三三%にして、四二番手以上の細糸も紡ぐ事が出来る。

優良なる脱里司棉の特色次の如し。

- (1) 種子は豊肥にして、白色或は褐色の短毛を有す。
- (2) 種子上の纖維は多く且つ長く、長さ約七分である、
- (3) 種子は大粒である。
- (4) 棉莢大にして、開莢期早し。
- (5) 主幹と果枝節間は、長短適宜にして、中部果枝の長さは約一尺三、四寸である。

(6) 主幹には彎曲せる果枝のみ生じ、滑條(徒長枝)は殆んど生ぜず、或は生しても下部に一、二個の小滑條のみ。  
 (7) 纖維は曲度(撚曲數)多し。  
 (8) 纖維は弾力が強い。  
 不良なる脱里司棉の表徴は次の如し。

- (1) 種子に附着せる短毛は緑色のものあり、或は短毛少くして灰色を呈するものあり、或は短毛無くして黒色のものあり雜然として不揃である。
- (2) 種子に附着せる纖維は、極めて太く短く少い。
- (3) 種子の粒は小さく殆んど中棉と大差無い。
- (4) 棉莢小さく、又は細長し、開莢期晚し。
- (5) 主幹も果枝も皆長いか、或は果枝は短くとも、棉莢は僅かに三、四個生ずるにすぎない。
- (6) 滑條多く且つ大なり。
- (7) 纖維の曲度少し。
- (8) 纖維の弾力が弱い。

愛加拉棉(Acala)は、棉莢大きく長纖維棉にして、成熟は脱里司棉より二週間位遅く、南部の肥沃なる地方に適してゐる。此種は米國農務省が一九〇六年メキシコのアカラ地方で之を得、先づテキサス州(Texas)で育種し、ついでテネッソー州及オクラホマ(Oklahoma)州に移植した。株體は高く大きく、莢は長く強く、葉枝は直聳し、果枝は下部長く上部短く、節間は中長にして彎曲し、葉は中大にして色は深緑である。裂片は長く鋭く、棉莢は大きく楕圓

形をなし、其の尖端は鈍角をなし、約七、八十莖より一斤の實棉を得る。苞葉は普通の高原棉より短小で、繰棉率は三二%乃至三五%、棉實は大きく、白色短絨を有する。

脱里司第三六號(Trice 36)。この純糸は、山東省立第二棉場が民國一六年純系選種法により、五年間繼續して工作したる結果育成したものである。山東の氣候土質に好適し、主幹は直聳し高さ約二尺、分枝は平均し、果枝多く、葉は中大にして、色は淡緑である。莖は楕圓形にして中大、纖維は細く柔く純白にして光澤を有し、長さは一・一吋、張力頗る強く、闊度(纖維の幅)は〇・〇二〇二耗にして、毎吋中に撚曲一四二を有してゐる。衣指(一〇〇粒の繰棉重)は六・二瓦、籽指は一三・八瓦、繰棉率は三二%である。種子は中大にして、短絨、灰白色をなす。早熟多産にして抵抗力強く、霜害に對して割合強く、摘採は容易である。毎畝當年作實棉一四〇斤を産し、繰棉は四二番手の細紗の原料となり、現在已に數萬畝も推廣されてゐる。本種は農民も紗廠も均しく満足せるものにて、山東に最も適したる純良米棉である。

金氏棉(King's improved)。これは短絨早熟棉にして、米國より朝鮮へ輸入せられた種子が、朝鮮より更に北支へ輸入され、廣く散布したものである。移植せられてより既に年久しく、全然選種改良されてゐないので、概して退化してゐる。本種は一八九〇年、米人キング氏が北カロライナ州(N. Carolina)の糖球棉中、一本の木に多數結果せるものを選出し、純系繁殖試験を行つて新品種を育成したもので、姓を取つて名づけたものである。その成熟が特に早いため、各州に普及し、棉區北部には最も盛んに栽培された。株體は矮小、葉枝は一乃至三、果枝は繊細にして、節間短く、叢生現象は見られない。葉は小さく、裂口は比較的深く、花は乳白色にして、紅心を有するものもあり、莖は小さく、四室のものが多し。纖維の長さは八分の七吋、種子は小さく、棕灰色をなし、短絨にして、繰棉率は約三

五%、比較的低温地帯に好適する。

#### 乙、中棉品種

百萬棉。民國八年金陵大學農科で育成されたもので吳淞附近の農民棉田中より選出し、三年間育種の結果得たる新品種である。近來浙江省立棉廠が餘姚に於て推廣してゐる。その株體は強壯にして、抗風力大なるため、沿海の産棉各地に歡迎されてゐる。草丈は三尺乃至五尺、葉枝少く、果枝長く、葉は粗にして、莖は紅色を帯び、葉の裂口は寛大にして、短毛は多く且つ長く、花は黄色にして紅心あり、莖は大きく四室のものが多し。纖維は潔白にして、長さ一吋乃至一・八吋、繰棉率は三〇%乃至三六%、種子は大きく且つ密にして白色の短絨に被はれてゐる。本種は多年齊東に於て試種せられ、早熟の特長を有してゐるが、その纖維の稍太き缺點がある。

齊東細絨。山東省立第二棉場の手により民國一六年齊東農民の中棉棉田より選出せられ、五個年間繼續して選種の結果、始めて純種が育成された。株枝は緊密、幹枝は稍細弱、結莖多く、早熟多産、抵抗力が強い。纖維は稍細く頗る柔軟、長さは一・〇吋にして色は白く、繰棉率は三三%である。衣指は三・八瓦、籽指は七・六瓦、種子は楕圓形、短絨にして、灰白色である。毎畝當年平均實棉一三〇斤を産し、各縣農場で試験の結果成績良好である。

#### (三) 棉花の分級及選擇の重要性

棉花は何故等級をつけるべきか、その理由を左に詳述しやう。

1、土壤、氣候及收穫等の關係により、棉の生育期間、開莖期は不同である。先に開花したものと後から開花したものの、上部の莖と下部の莖等は、品質に夫々の異なる影響を及ぼすものである。

2、雨天に收穫した棉花と旱天に收穫した棉花は品質不同である。雨水によつて外面の脂肪層は流され、その光澤は

失はれる。

- 3、降霜前と降霜後の收穫棉花は不同である。
- 4、土壤も各地不同で、その品質に與へる影響も大きい。
- 5、病棉は纖維が短く且つ脆弱である。無病のものとは之に反する。
- 6、中國に於て最も多き紅鈴蟲(赤實蟲)、米國に於て最も多き象鼻蟲等は、皆直接に棉花に害を與へる。葉捲蟲の類は、間接に害を與へる。
- 7、棉花收穫時の、粗放と精密とは、品質に非常に影響する。
- 8、急いで收穫すれば、苞葉及小枝等を混入する。
- 9、米國では *Sawstin* に取付けたる *Cleaner* を使ふが、選擇不十分で、品質は不同である。繰棉する前によく日に晒せば乾燥するけれども、日に晒されれば繰棉する際棉實を破壊し、品質を傷つける。濕氣のある棉花は *Sawstin* の上で切斷し易く、繰棉作業を急いだ場合にも切斷し易い。
- 10、夾雜物混入。これには人工的なものと天然のものとの二種がある。人工による雜物混入の最も普通なのは水である。中國では數十年來この方法を用ひて來た。以前米國やエチプトでもこの方法が行はれたが、現在は漸次減少して來た。

各國にて行はれる棉花の賣買は、すべて等級に依り價格を決定する。中國には未だ棉花品質の判然たる等級はないが、早晚必ず實行されねばならない。而して市場の取引習慣は、水分の含有度合其他によつて價格を定める。棉價に影響を及ぼす原因は甚だ多いが、その主なるものは、等級、纖維長度、色澤、土砂、水分及市場出廻狀況等である。

右の内等級が最も重要で、この等級を鑑定するには經驗を最も貴び、原棉の外観、夾雜物の多少、色澤の如何に特に注意しなければならない。

茲に棉花を選択する際、注意すべき諸點を左に詳述しやう。

- 1、汚色。原棉は白色絹光のものが良い。故に早熟なる棉花にて、風雨霜露を経ずして採取したものが品質佳良である。實棉が棉株上にて氣候激變の影響を受けた場合は、常に汚悪なる痕跡を留めて除去し難く、又雨霜等の影響により汚色せるものは、日光の漂白作用により多少は減するが、その光澤は恢復し難い。殊に炭疽病及赤實蟲のため汚棉し、赤褐色となつたものは、全然除去不能にして、紡織事業上最も好まぬものである。
- 2、斑點。斑點は、汚色と同様の原因に依り生ずるか、棉花を一様に汚すのでなく、或は濃く或は淡く、點々として散布するのである。
- 3、土砂。開蒔期に若し風雨に遇へば、地上や空中の塵や細砂が蒔や棉絮の中に侵入し、蒔の地上に届いてゐるものは往々にして汚土にまみれたりする。地上に散落した棉花は殊に被害がひどい。棉花を收穫する際、此等を除去しなければ、遂に何時までも分離出來ず、棉花の潔淨を害する重要な因子となるのである。狡猾なる農夫や商人は、棉花を賣出す前、故意に塵や砂粒を混入し、重量の増加を圖るものがある。これも亦砂土の來源の一である。
- 4、葉片。棉葉は乾早や霜露にあへば枯死して、粉碎し易く、この碎片は棉花收穫時に棉花の中に混入し易い。その混入の多寡は、採收期の早晚によつて異なる。收穫の初期及び中期には、含量比較的少く、收穫末期に至れば、枯葉が漸次増し、實棉に混入する葉片も漸次多くなつて來る。又蒔の外部を圍んでゐる苞片は、蒔が成熟し纖維を吐露する時分、己に枯死して、之亦粉碎し易く、常に纖維中に混入する。

- 5 斷枝及蒴殼。實棉が風に吹かれて枝幹にひつかゝつてゐるのを、收穫する際、枯枝折れ易く、斷枝が混入してふ。蒴殼は實棉を吐露せる後、枯萎して破碎し易く、收穫の際實棉中に混入し易い。
- 6、軋斷及未熟纖維。未だ乾燥せず濕氣を含める實棉を繰棉する時、繰棉機の鋸齒が濕氣を含める纖維を無茶苦茶に軋斷し、棉花中に混入する。未熟の纖維は光澤に缺け且脆弱である。
- 7、布芒。濕氣を含める實棉は、纖維が互に密着してゐる。その含有水分が非常に多ければ、纖維は常に小團をなし、棉部を通過し、刷毛をかけても、このかたまりを分開する事は出来ない。このかたまりはその纖維短く且不揃にて之を布芒と稱してゐる。
- 8、未熟種子及瘤節。未熟種子の微細なるものは、瘤節と誤認され易い。大きいのは褐色をなし、小さいのは短絨が之を覆ふて白色をなし、多く蒴室の下部に生ずる。その存在の多寡は、品種及氣候によつて異なる。瘤節の外観は白點をなし、少量存在する時は障病はないが、多量に存在すれば、纖維の光澤及外觀に影響を與へ、機械の力を以てしても之を除去し難い。
- 9、種子及種子の破片。繰棉作業に於て、注意を怠れば、種子は棉花中に混入し易い。實棉が濕氣を帯びてゐる時は纖維と種子とは分離し難く、或は機械の調節不良等の原因により、種子はよく壓碎されては棉花中に混入する。これは紡績業者の欲せざる所である。
- 10、軋渣(繰棉屑)。繰棉する時、纖維は常に鋸齒板、刷毛軸、皮滾軸等の上及び繰棉機の間處に集り易く、往々にして雜屑、塵、汚油等と混合して軋渣となり、繰棉機管理者が始終之を除去しなければ、棉花中に落ちて品質を傷つける。以上の一〇項は棉花の潔淨を害する重要分子で、棉農、花販(棉花販賣業者)等は、收穫、繰棉工作に充分の注意を

致し極力之を除き、賣買に當つては、夾雜物の多少とその着色の程度により、相場を評定すべきである。

一般に公認された評定價格の準則を左に略述しやう。これによりて又棉花の分級標準を知る事が出来るであらう。花大きく種實小さく、よく成熟して色は純白、一度手にてしつかり握り、後速やかに原狀に復するものが上等にして値段が高い。よく成熟し、種子大きく且多く、色は清白で、黃頭(纖維の先端にある黄色の部分)を少し有するものは中等品である。未熟にして黃頭多く、色は暗灰、又は黒褐色等を呈するものは下等品にして、値段も安い。繰棉は、潔白にして光澤あり、纖維細長く、撚曲多く、張力強く、手で握つてもかたまりとならず速かに舊狀に復するものが上等品で値段も高い。之に反するものは下等品で値段も安い、水分混入の多寡は、檢驗證書を以て標準とする。

茲に山東省鄒平實驗縣米棉運銷合作社の棉花等級區別法を左に詳述しやう。

凡て棉花を合作社或は各辦事處に運入する時には、收花人員(棉花受入に當る辨事員)は之を詳細に評定し、特、甲乙の三等に分ける。評定した等級と送達された數量とにより受取證を發給する。但し乙等にも合格せざる棉花は一切受入れを拒絶する。二三年は、降霜甚だ早く、全社員の收穫した純白棉花は、以前の見積收穫量の三分の二に及ばず、白花(降霜前の白色優良棉)の收穫完了と同時に霜花(降霜後の棉花)を收穫した。收穫した霜花は、次白及紅花(赤褐色の棉花)の兩種に分け、次白棉花は更に特、甲、乙の三等に分類した。紅花は等級の區別をつけなかつた。併し社員の選別した紅花の内品質の比較的不良なるものを次紅とした。けれども此種の棉花は收量が極めて少なかつたので、別に等級を附けなかつたのである。該社の受入れた各等純白棉花は、その品質の差極めて少なく、特と乙とを比較しても中々見分け難い位である。特と甲或は甲と乙とを比較すれば、その品質は殆んど差等が認められない程である。純系の脫里司米棉種は、品質一様にして、色澤相同じく、たゞ繰棉作業及纖維の整齊度合に不同の點があるのみであ



る。今回收穫せる所の次白棉花及紅花は、色澤に於て顯著なる差別あり、張力も純白棉花に劣る。併し退化せる米棉と比較すれば、尙幾多の優點を有してゐる。

該社は棉花を受入れるのに便利なやう特に棉花受入の前に、棉花等級區別辦法數條を規定してゐる。左に之を照録しやう。

梁鄒米棉運銷合作社棉花等級區別法

第一條 本辦法は全國棉業統制委員會の棉花分級標準を参照して之を定む。

第二條 本會の受入れる棉花は脫呈司米棉に限る。

第三條 本會は棉花取扱に便ならしむる爲、受入脫呈司米棉をその品質に従ひ、左の如く特、甲、乙の三等に分つ。

一、特等。纖維の長さ1 $\frac{1}{2}$ 寸より1 $\frac{3}{4}$ 寸、整齊率九〇%以上、水分九%、色澤は精亮潔白、繰棉良好、草屑等の夾雜物なきもの。

二、甲等。纖維長度1 $\frac{1}{2}$ 寸以上、整齊率八五%乃至九〇%、水分一〇%以下、色澤潔白、繰棉良好、夾雜物なきもの。

三、乙等。纖維長度一寸以上、整齊率八〇%乃至八五%、水分一%以下、草片葉屑の多少混入するもの、但し〇・五%を超ゆるを得ず、繰棉良好ならず、色澤暗白色のもの。

右三種の棉花の棉實は、特等は粒大きく整齊にして、色は純白、甲等は粒大きく整齊にして、多少灰色粒を混入、乙等は粒整齊ならず、色は灰色を呈す。

第四條 凡て本會に搬入する棉花にして、その等級標準、乙等に不合格のものは、一切受入を拒絶す。

第五條 本會にて取扱ふ棉花の定價は、等級を増す毎に値段を高くす。一級増す毎に、繰棉一〇〇斤につき一元、實棉一〇〇斤につき三〇仙を増す。

第六條 本會は棉花の等級を鑑定し、優劣比較に便ならしむるため、標本四箱を用意し、孫家鎮の本會事務所、及花溝鎮、高窪莊、縣城の三辦事處に存置し、以て公平を期す。

第七條 凡て純白棉花の取扱は、本辦法の規定による。霜花の取扱は、斟酌の上之を變更する事を得。

第八條 本辦法は會務委員會を通過して實行す。

(四) 山東省の中米棉種

國內にて推廣中の重要棉種は、既に本章第一節に述べた通りである。山東省に於ける棉種を大別すれば、中棉と米棉の兩種となる。米棉は俗に大花と稱せられ、中棉は俗に小花と稱せられてゐる。米棉は金氏棉及脫呈司棉等各種あり、纖維細長く、金氏棉の纖維の長さは四分の三吋、繰棉率は三三%、脫呈司棉の纖維の長さは八分の七吋、繰棉率は二九%乃至三二%である。山東省に米棉を栽培し始めて以來、今日に至るまで已に遍く山東各産棉區に普及し、臨清、夏津、清平、高唐、堂邑、濱縣、恩縣等各縣は産量が特に多い。品質は濱縣産出のものが最も優秀である。

茲に省立第二棉業試驗場調査の各縣米棉品質表を左に掲げやう。

山東省各縣米棉品質表 (山東省立第二棉業試驗場調査)

縣別	纖維長度(耗)			纖維粗細	纖維色澤	衣指(瓦)	繰棉率(%)	種子地毛	種子色澤	種子大小	籽指(瓦)	
	最長	最短	平均									
章邱	11.4	1.7	1.9	細	軟	潤白絹光	3.0	3.5	微薄	灰綠	中	7.4



正大棉、西花、濱花、河西花等がある。以上を通計すれば、全省中棉の名稱は五〇種を下らない。茲に重要産棉各縣の中棉品種を左に列擧しやう。

魯西區

- 夏 津 絲棉、大棉、紫花、小白花
- 博 平 白棉、絲棉、最早熟、大苞棉、無敵
- 清 平 白棉、絲棉、大棉、毛棉、紫棉、百萬棉
- 冠 縣 白棉、絲棉、獅子頭、紫棉
- 館 陶 白棉、絲棉、小棉、紅莖棉、紫棉、柴棉
- 高 唐 大白棉、小白棉、大花、本花、長毛棉
- 臨 清 絲棉、獅子頭、硬毛兔、紫花
- 恩 縣 白棉、白花、絲棉

魯北區

- 齊 東 白棉、細毛、細絨、粗絨、硬毛、齊細棉
- 濱 縣 白棉、白毛、紫棉、紫花、濱花、山花、西花、細絨
- 利 津 小白棉、大白棉、小花、紫花
- 蒲 臺 白棉、小棉、西花、山棉、草棉、海棉
- 霑 化 白棉

- 章 邱 白棉、小棉、細絨棉、粗絨棉
- 鄒 平 細絨棉
- 濟 陽 西花
- 博 興 小花、細絨、濱花
- 高 苑 白棉、白子、西花、濱花、細絨棉、粗絨棉
- 惠 民 小白棉、大白棉、小棉、長毛、紫花、河西花、短毛棉
- 廣 饒 白花、細絨、濱花

魯南區

- 曹 縣 白棉、大白棉、長絨棉、紫棉
- 單 縣 大白棉、紫棉、長絨棉
- 城 武 大白棉、紫棉、長絨棉
- 定 陶 大白棉、絲棉、柴棉、淤棉、紫棉
- 荷 澤 小白棉、大白棉、小花、紫棉、大柴棉、柴棉、大淤棉、鷄脚棉
- 鉅 野 白棉、大毛棉、紫棉
- 鄆 城 大花、紫花、鐵子

山東省の中棉の品質は、各地とも土質、氣候、品種が夫々相異なるため、一様ではない。魯西、魯南の重要棉産縣に於ける中棉は、纖維が概して短粗で、繰棉率が比較的良好である、魯北及小清河流域の中棉は、纖維が比較的細長く

緯棉率も良くない。全省の内、品質優良なる中棉を比較的多く産出する地方は、濱縣、齊東、鄒平、高苑、博興、廣饒、章邱、蒲臺、恩縣、城武、單縣等の諸縣である。近年各縣とも長絨棉が漸次減少し、黄河下流の各縣は、短絨棉花を栽培するもの多く、品質は退化の一路を辿つてゐる。

茲に各縣の中棉品質表を示さう。

山東省各縣中棉品質表 (山東省立第二棉業試驗場調査)

種別	項目	纖維長度(耗)			纖維色澤	衣指(瓦)	緯棉率(%)	種子地毛	種子色澤	種子大小	籽指(瓦)
		最長	最短	平均							
章邱	白棉	一九三	一八〇	一八七	白	四二六	三五〇	灰、灰綠	中	八六〇	
鄒平	細絨	三九一	二〇〇	二七二	白	三二八	二九九	灰	中	七八八	
齊東	細絨	三三三	二〇〇	二五〇	白	三九三	三七一	灰	中	七四〇	
濟陽	細絨	二六四	一四七	一五九	白	四七六	四〇七	深灰	小	五三六	
博興	小絨	三〇〇	二〇〇	二二七	白	三六〇	三九七	灰、黑灰	中	七三三	
高苑	白絨	二六七	二〇〇	二五〇	白	四六四	四〇〇	深灰、黑	小	六五五	
惠民	西花	一九九	一五七	一九七	白	四〇八	三三三	深灰	中	八六六	
陽信	白絨	三三六	一七〇	二七四	白	四〇三	三五九	灰	中	七九三	
濱縣	細絨	三三六	二二〇	二八〇	白	三〇〇	三八八	灰、灰微褐	中	七四〇	
利津	中棉	三三三	一九三	二四〇	白	三三四	三三四	灰	中	五九六	
濰化	白棉	三〇〇	一九七	二〇七	白	三二八	三六〇	淺灰	小	五六八	

縣名	品種	最長	最短	平均	纖維色澤	衣指(瓦)	緯棉率(%)	種子地毛	種子色澤	種子大小	籽指(瓦)
蒲臺	白棉	三三三	二七〇	三〇二	白	三三三	三三七	灰	中	六〇〇	
商河	長毛	三三三	二七〇	三〇二	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
魚臺	白棉	三三三	二七〇	三〇二	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
荷澤	大柴	二〇〇	一九九	一九七	白	二八〇	二九六	灰	中	七三三	
曹縣	白棉	二六七	一八〇	二二四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
單縣	白棉	二六七	一八〇	二二四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
城武	白棉	二六七	一八〇	二二四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
定陶	白毛	一九六	一五七	一八四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
鉅野	白毛	二〇〇	一七〇	一八四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
堂邑	白柴	二〇〇	一七〇	一八四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
冠縣	白絲	三〇〇	一七〇	二〇〇	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
館陶	白絲	一九六	一八〇	一九三	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
高唐	本花	二六七	一七〇	二二四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
恩縣	大白	二六七	一七〇	二二四	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
臨清	獅子頭	二〇七	一九六	二〇七	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	
武城	中棉	二〇七	一九六	二〇七	白	三三三	三三七	灰	中	七三三	



夏津	紫花	三〇〇	一八三	一九七	中	中	雪白	三六六	四〇六	同	深灰	中	五六八
邱縣	白	一八三	一六七	一七五	中	中	雪白	四六六	四〇六	同	深灰	小	六六六
德縣	金鐘	三六七	一六〇	一六〇	中	硬	雪白	三三三	四〇六	同	灰	中	六〇〇
德縣	金鐘	三六七	一七〇	一九四	中	硬	雪白	三三三	三六六	同	灰	小	六〇〇
平原	小花	三六七	一八〇	一八〇	粗	硬	雪白	三三三	三六六	同	灰	中	五六八
平	本	一九三	一四三	一六〇	粗	硬	雪白	三三三	三六六	同	灰	小	五六八
臨邑	金鐘	二〇〇	一八七	一九七	粗	硬	雪白	三三三	三六六	同	灰	小	五六八
東阿	白	三〇〇	一五〇	一七〇	粗	硬	雪白	三三三	三六六	同	灰	中	五六八
鄒城	土	三〇〇	一四七	一九三	中	硬	雪白	三三三	三六六	同	深灰	中	七〇〇
鄒城	土	三〇〇	一四七	一九三	中	硬	雪白	三三三	三六六	同	深灰	中	七〇〇
昌樂	小花	二〇〇	一八〇	一九三	中	硬	雪白	三三三	三六六	同	深灰	中	七〇〇
廣饒	白花	三〇〇	一八〇	一九三	中	硬	雪白	三三三	三六六	同	深灰	中	七〇〇

(五) 品種の改良及推廣

山東棉業の、品種方面に於ては目下積極的に改進を行ひつゝあり、その最も注意すべきは、建設廳の齊東に設立したる棉作改良場の育種推廣である。該改良場にて育成したる脱里司棉第三六號は、早熟多産にして、農民はその栽培を頗る喜んでゐる。纖維の長さは一吋以上にして、紡績工場では之を用ひ四二番手の撚糸を製してゐる。民國二十二年より齊東、鄒平兩縣を推廣實驗區に指定し、地方純種を育成する目的の下に、縣城附近各村農戸に分配して栽培せしめ、秋の收穫後は中國銀行に紹介して農戸に貸款し、一方農戸に代り繰綿をなしたり、運銷合作を組織したりして各方面に指導と援助を惜しまず、又一方華新紗廠は高價にて收買した爲、推廣は極めて順調に進捗した。民國二十三年既

に該純良棉實を四〇、〇〇〇斤配付したが、將來は積極的に推廣して以て各縣への普及を期してゐる。二三年脱里司棉高級試験の六純系は、將來第三六號以上の改良種として期待され、又中棉高級試験の十六純系は既往の試験經過に據れば、第一次育成の正大第六四號及齊細第四號兩系の中棉に比して品質秀れ産量多く、將來數系の純良中棉の育成が期待されてゐる。

臨清棉作改良分場の育種推廣狀況。

該場は以前省立第一棉場と稱せられてゐたが、二四年三月一日より省立棉作改良分場と改稱された。一八年以後脱里司棉の育種及繁殖に力を注ぎ、母本を選択し、特にその品質と早熟の點に意を注ぎ、以て品質産量兩方面の進歩をはかり改良推廣の效を収めた。二一年に第二次比較試験を行つた所、品質産量ともに優秀なる成績をあげた。二二年新たに中米棉純種を徵集して試験を行ひ、また中米棉育種大綱を編輯し、以て新優良純種の選育を期した。目下既に機械繰綿工場を設立し、秋の收穫後に於ける棉種受領農戸の實棉の繰綿に備へてゐる。

棉種の各縣分配狀況。

建設廳は各農場を積極的に整頓し、産棉各縣の農場に脱里司優良棉種を配給し、その繁殖推廣に努めてゐる。未だ産棉なき縣に對しては、中米棉品種試験を行つてゐる。每縣に六斗乃至一石の棉種子を、二一年は六〇縣、二二年は八〇縣に配付した。各縣の中米棉實棉の品質を検査したる結果、魯西、魯南等重要産棉縣の中棉は、纖維短粗(纖維長度一五乃至二〇耗)にして繰綿率比較的高く(三三%乃至四〇%)、魯北及小清河流域各縣の中棉は、纖維稍長く(纖維長度一七乃至二二耗)、繰綿率は稍低かつた(二八%乃至三五%)。全省よりみれば、品質良好なる中棉を比較的多く産出するのは、濱縣、齊東、鄒平、蒲臺、高苑、博興、廣饒、章邱、恩縣、單縣等の諸縣である。米棉は、齊東、

鄒平、濱縣、蒲臺の北鎮、高苑の田鎮、臨清の尖莊、夏津等である。濟南、張店等に集貨される米棉は、梁鄒、田鎮、濱縣、夏津、高唐、臨清の尖莊等諸地方産出のものが多し。

#### 第四章 耕種状況

作物の體質は野生のものに比し弱い。此は作物の通性であるが棉花に於ては特に甚だしい。氣候、土質の不適、施肥の不當、管理の不徹底等諸般の患害は、若しその一つでも存在すれば、必ず棉作は失敗に歸し、收量及品質に影響する所大なるものがある。故に棉花の栽培は、之を保護する事が非常に必要なのである。棉花の栽培及保護の方法は時と所と品種により夫々異り、一定の規則を守る譯には行かない。例へば中棉と米棉とは、元來その性質不同にして若し誤つて中棉栽培の舊法により米棉を栽培すれば、その成績は必ず不良となるのである。又降雨旱魃等は年々歳々變化する故、棉花栽培保護の方法も、時に應じて之を異にせねばならない。

##### (一) 氣候

棉は性熱きを好み、熱帯及温帯に栽培される作物である。支那に於ける植棉區域は、北緯二〇度より四一度に至る間に於て、米國の植棉區域は北緯二四度二七分より三七度に至る間である。その生長期は約六、七箇月を要し、毎月の平均温度は攝氏一五度以上なるを要す。成長期に在りては高温にして變化少なきがよく、成熟期には晝夜の温度に稍差があれば早熟を促す。但し降霜は棉作の最も恐れる所なるを以て、植棉をなさんとする者は、その地方の氣候により播種期の前後を定めて、霜害を豫防する事が最も肝要である。山東の氣候は春季終霜は三月末、秋季初霜は一〇月末である。

棉の栽培は、多雨潮濕なる地區は、良質品を生産するには不適當にして、且根株花莖等腐爛の虞がある。例へば米棉の莖は上に向いてゐる故、若し屢降雨に遇へば水分が葉間に溜り、品質を損ふ。故に成熟收穫期に多雨なる地區は

米棉の栽培に適當でない。山東の雨量は、魯南棉區年約二〇吋、魯北約二七吋である。各地共七八兩月は雨期にして棉作生長最盛期である。秋は晴天続き雨少く棉花の成熟に適してゐる。但し五六兩月は雨少く旱り過ぎ、棉苗の發育おくれ、晩熟となりがちである。若し灌漑を提唱し、水利普及すれば、植棉は更に發展するであらう。

暴風は棉の栽培に害を及ぼす。春夏の候砂風來襲すれば、棉苗は破壊され、開花結莢期に暴風來襲すれば、花莖は脱落する。故に暴風多き地方も棉の栽培に適しない。

山東は黄河の下流に位し、黄河及小清河流域に沿ひ、概して平原地帯に恵まれ、沖積土と黄土の混合砂質壤土に屬してゐる。

棉花の理想的氣候は、平均溫度一五度、成長初期二個月の溫度は一五度乃至二〇度、其後二個月は二〇度以上を要する。雨量は播種期に小雨を可とし、生長期に霖雨有るを可とする。開花後は時々小雨あり、結莢時に乾燥するを可とする。

山東省の氣候は比較的寒く、一般農作物は播種早く收穫遅く、普通農田は毎年一回收穫し得るのみにして、棉花もこの例に洩れない。棉花の收穫期が遅いため、裏作としての小麦は、播種期が晩秋となり生長不可能である。而も山東省の棉種は、晩熟の米棉が多く米棉收穫後に麥を播種する事は絶対に出來ない。故に山東省の農田の内、棉作をなすものは年一作である。

### (二) 土 質

棉は熱帯植物にして、乾燥を好み濕潤を好まない。棉花の生長形状は土壤の性質により異なる。土壤の性質は收穫の多寡に大なる影響を及ぼすを以て、植棉をなす者は慎重に土質を選択せねばならない。

植棉に好適の土質は左の四種である。

- 1、砂質壤土。砂質壤土は、中棉米棉の別なく、植棉に最適である。
- 2、壤土。半砂半沖積土の此種土壤は、米棉の栽培に最も適する。
- 3、粘質壤土。此種土壤は粘粘性に偏し、比較的肥沃にして、米棉には好適すれども、中棉には良からず。
- 4、砂土。此種土壤は土質粗く、耕作に便にして、且光熱の吸收及肥料の分解容易なるため、棉花の早熟を促進する。但し含水不良にして早害を受け易く、中棉に適するも米棉には不適にして、肥料を多く要する。

植棉には地勢高燥、排水良好なる、腐植質を多く含有する土壤が好適するが、開墾せるアルカリ地も棉花を栽培し得る。

長年中棉を栽培せる地に、米棉を栽培する時には肥料を多く施さねばならない。甘薯、胡麻等を栽培せる地も植棉に適する。但し菜園、日蔭の地は植棉に不適當にして、徒らに枝葉を繁茂せしめ、結莢少く、成熟を遅らせるのみである。

### (三) 栽培方法

#### 一、整 地

棉花は輕鬆なる土質に最適するを以て、整地は精密にせねばならない。整地には秋耕、春耕があるが、植棉する土地は秋耕を可とする。秋耕を可とするのは左の二つの理由による。

- 1、秋期に深く耕せば、風化作用を起して土質が疏鬆となり易い。
- 2、病菌、害虫の遺卵が外部に暴露され凍死する。

右の様な二つの利益がある故、棉桿を抜いた後速やかに秋耕を行ふのがよいのである。北方では地表の凍結するのが非常に早いため殊に早く秋耕に着手せねばならない。山東では最近數年來、春期降雨僅少なるため、棉花播種期に土地が乾燥し過ぎて播種困難であつた。故に秋耕に際しては、先づ耙にて土壤を破碎したる後耕起す。耕起したる後再び耙をかけ、耕土を平均に細分し、水分を保蓄せしめ、その散失を防ぐのである。翌年の春期に至り、降雨があれば直ちに耙をかけ、濕氣を保持する事が必要である。耕起の深淺は棉作の成績に至大の關係を有する。苦し耕起が淺きに失すれば、棉の發育不良にして收穫は減ずる。

## 二、施肥

棉花の栽培は肥過ぎの土地は不適當にして、たゞ枝葉のみを繁茂せして、結莢は反つて少く、開裂が比較的困難である。支那の棉農は棉花の施肥に對して注意を怠り、優良なる棉花を收穫すべく努力しない。肥料に關しては充分に注意せねばならない。棉花に必要な肥料要素は、窒素、磷酸及加里の三種である。若し此の三要素を含有する肥料を適宜配合し、棉花の需要に供し得たならば、必ず好結果を齎らすであらう。左に各要素を含有する肥料を示さう。

- 一、磷酸肥料 骨粉、過磷酸石灰等
- 二、加里肥料 草木灰、硫酸加里等
- 三、窒素肥料 人糞、各種油粕、綠肥等

施肥は、基肥及追肥に分つて施用される。播種前先づ厩肥及草木灰を混合し、耕土中に撒布し、後鐵耙子を以て耕土内に碎入して基肥となし、棉苗が成長して高さ五寸位となつた時豆粕又は棉實粕と人糞を混和し、棉苗の根元に施用して追肥とする。施肥量は土地の肥瘠により夫々相異なる。但し窒素肥料はあまり多く施用する事は不適當にして、

用量過ぐれば徒らに枝葉を繁茂せしめるのみで、結莢は反つて少く成熟も遅れる。

現に山東省で施用されてゐる肥料は厩肥を主となし、豆粕、棉實粕、人糞、灰等之に次ぎ、肥田粉を施用する者は極めて稀である。施肥回數は普通一回乃至二回であるが、稀に三回のものもある。一般農民は播種前肥料を地表に撒布し、土中に耕覆したる後播種する。發芽後根元に肥料を施用し追肥となす者もあり、又追肥のみを施用して基肥を施用せざる者もあり、又基肥を施用せず種子と同時に播入する者もあるが、此等の方法に依るものは殆んど稀である。

## 三、播種

播種期は棉區の緯度、土壤の狀況、當年の氣候等に支配されて一定しない。若し晩霜漸く終り、地温の未だ低い時分に播種すれば早きに過ぎ、棉種子は腐爛し易く、或は發芽しても春寒のため幼苗が凍害を被り易い。若し播種が遅きに失すれば、生長期間不足し棉株は完全に發育する能はず、收穫量は減少する。播種は晩霜後二三週間、地温次第に高くなり、氣温の漸く暖を加へた時期が最も適當である。北支の棉花播種期は「穀雨」前後が適當で春暖の遅い地方では「立夏」頃となる。

左に播種の方法を略述しやう。

一、浸種。播種の二日前、先づ棉種子を水甕に投入し、温水にて二晝夜浸し、播種日の早朝取出し、草灰、石灰灰にて揉み、各粒を離れ易くし、後地中に播種する。

灰を以て種子を揉む事には左の利益がある。

1、種子には往々にして短毛附着し、撒布に不便である。灰を以て棉種子の個々を揉めば完全に分離し、互に密着



せず、撒布に便利である。

- 2、灰類のアルカリ性作用により種子外皮の油脂を除去し、種子の吸水を容易ならしめ発芽効果を促進する。
- 3、灰を以て揉みたる種子は、発芽前後に病蟲害を豫防し得る。
- 4、棉苗發生の初期には、灰類は肥料としての效力を有する。

二、播種法。播種法に條播と點播の二種がある。土壤濕潤の地では、條播法を用いた方が點播法によるより手間を省く事が出来る。その方法は畦幅二尺を有する各畦に耒を用ひて播種するか或は淺溝を掘り播種する。但し土壤乾燥の地では溝播が淺きに過ぎ発芽し難い恐れがある故點播の方が適してゐる。點播は、適當の距離（山東省第一棉場の規定では、在來棉の畦幅一尺二寸、株間六寸、米棉畦幅二尺、株間一尺乃至一尺二寸）に、穴を一つづゝ掘り、水を穴中に灌ぎたる後播種する。一穴に種子七八粒を下種する。種子を點下したる後、穴の周圍の濕土をこれにかぶせる。覆土は厚過ぎても悪く薄過ぎても悪い。土壤の濕潤なる時は約一寸位が適當で、乾燥してゐる時には稍々厚くてもよい。覆土したる後は之を鎮壓しなければならぬ。要するに條播、點播の如何を問はず、下種して覆土したる後を鎮壓すれば、土粒を密着せしめ、棉は生長し易く、空氣の透過を防ぎ、地下水分の外部に蒸發するのを防ぐのである。播種量は普通畝當七斤である。

山東省では一般に「穀雨」前後に播種するのであるが、「穀雨」前に播種すれば約半月で發芽し、「立夏」に播種すれば約十二日で發芽し、「穀雨」後七日に播種すれば八日で發芽し、「立夏」に播種すれば六日で發芽し、「立夏」後七日に播種すれば五日で發芽する。播種が遅ければ發芽は早く、缺苗も少く、且整齊である。播種が早ければ、棉株主幹上の第一結果枝が下部に近く、播種が遅ければ第一結果枝は地面より可成り離れ、又節間も比較的長い。播種遅きに失す

れば晩熟となる。播種後乾燥した強風に遇へば表土は乾き易く發芽が妨げられる。又長雨に遇へば種子は長らく濕土中であり、濕熱不足して發芽不能となり且腐爛し易い。

#### 四、間 引

播種後七、八日すれば漸次發芽を見、小葉二三枚が生じたる頃第一回の間引を行ひ、不健全なる苗及二株並生したるものを抜き去る。棉苗が地面より三、四寸位迄成長し、葉が四、五枚生じたる時第二回の間引を行ひ、前述せる規定の距離に従ひ強壯健全なる苗一本を残し、他は全部除く。之を定苗と稱してゐる。定苗に際しては、特に左の諸事項に注意せねばならない。

- 1、保留する苗は、強壯なるものを選ぶ事。
- 2、第二回目の間引の時は、棉苗は既に土中に深く根さしてゐる故、苗を抜く時他苗に影響せざる様、眞直ぐに抜くか又は鋏で切取る事。
- 3、第三回の間引の時には、葉は己に形態を成してゐる故、雜棉は之を除く事。

毎回間引に際し、苗の傍らに雜草があり、鋤にて除き難いものは隨時之を拔取る事。こうすれば耕鋤の不便を補ひ同時に苗の生長を促進する事が出来て一舉兩得である。間引は普通播種後二十餘日で第一回を行ふのであるが、點播したものは各穴に棉苗二、三株を残し、條播したものは、二、三寸を隔て、一株を残す様にす。第一回間引が終つて後半月内に第二回間引を行ひ、理想距離に各々強壯なる苗一、二株を残す。時には發芽不完全で棉苗密ならず間引する事の出来ない場合もある。山東省の棉農は棉作に對し甚だ粗放で、間引にはあまり注意してゐない。

#### 五、中 耕

中耕は間引を行つた後直ちに行ひ、全季を通じて大體六、七回行ひ、棉株が成長して枝葉が接觸するに至ればやめる。中耕の利益として次の數項を擧げ得る。

- 1、表土を輕鬆ならしめ、棉苗の生育を容易にする。
- 2、棉田に雜草の叢生するを防ぎ棉苗生長の障害を防止する。
- 3、土地を鋤く事により土中の害蟲をのぞく。
- 4、表土を輕鬆にし、土中水分の徒らに蒸發するを防止し、且耕土層を日光に晒し、棉苗の發育を旺盛ならしめる。

前述の中耕の利益は、すべて棉苗の生育を助長するものである。雨後は表土が軟くなつてゐる故、速やかに中耕に着手するがよい。中耕の深淺は棉苗の生長時期に依り異り、定苗前の中耕は多少深くてもよく、定苗以後は棉株の側根増加し、中根は淺い故、土面を鋤鬆すれば足る。然らざれば側根は傷を被り、棉株の發育に害を及ぼす。

中耕作業は山東省では鋤地と稱されてゐる。山東省の棉農は中耕作業と除草作業を同時に行ふもの多く、約三、四回行ふ。第一回の中耕は第一回の間引と兼ね行ひ、第二回の中耕は第二回の間引の時行ひ、後二十餘日を経過して、第三回の中耕を行ふ。もし雨水過多にして雜草繁茂すれば第四回の中耕を行はねばならない。

#### 六、灌溉及排水

棉は高燥を好み過量の水分を要求しない。但し播種の際、旱天久しきに涉り土壤が非常に乾燥すれば發芽不能の憂がある。故に播種前穴を掘り灌水するか或は畦溝中に灌水し、水が吸収され、土壤が濕潤となつた後播種を行ふのがよい。若し棉苗發芽後も降雨無き時には、幼苗の枯萎する憂ひがあるを以て、早朝或は夕方灌溉を行つて、枯死を防がねばならない。又中耕する時培土を多くすれば、或程度迄旱害を防止する事が出来る。

棉は低濕を嫌ふ故、低地に植棉するには、畦を高く作り、水分を畦溝より流出出来る様にせねばならない。高地に植棉するにも、棉田の周圍に溝を掘り、陰雨に際しても水分流出して、氾濫を防ぐ様にせねばならない。若し棉田に滯水すれば、枝葉は濕氣のために腐敗し、或は花や蒴が墜落する。故に陰雨連綿として續いた際には、棉田の周圍に深い溝を掘り、且低地は地上げをして、水害を免れる様にせねばならない。

#### 七、整株

棉株が發育したる後、若し時々手入するのを怠つたり、或は手入が晩きに失すれば、收穫量を減ずる。手入すべき事項は左の六項である。

一、剪枝(徒長枝除去)。棉株の發育期間中、地面に近き所、主幹の基部に往々にして一種の徒長なる枝が生ずる。其形狀は特別にして、枝は上に向つて伸長し、此枝には花蕾生ぜず、普通の結果枝と全く異り、徒らに養分を消耗して晩熟に到らしめ、他枝の生長を妨害するを以て、速やかに除去せねばならない。

二、摘心。摘心は俗に打頭又は打尖とも稱せられてゐる。即ち棉株の先端を摘み生育を抑制して成熟開絮を促進する作業である。この作業は中棉にも米棉にも皆行はれてゐる。摘心の時期は中棉は八月上旬、米棉は稍遅く八月中旬である。米棉は摘心後、主幹の腋に腋芽發生するもの多く、この腋芽を生長する儘に任せて置けば棉蒴の生長力を消耗して開絮を遅らせる懼あるを以て、摘心後除葉を一回行ふのが多い。

三、摘芽。米棉は常に枝の各部及蒴の傍に腋芽が發生する。この腋芽を摘除しなければ蒴は壓迫せられて墜落し、養分消耗のため蒴の發育不良となる。故にこの腋芽は摘除せねばならない。

四、定蒴。農民は往々結蒴の多きを貪るの餘り、蒴の成熟し得るや否やを顧みず、地中の養分に限り有るを知らな

い。若し結莢過多なれば、莢の發育不良となり、或は成熟期遅れ、未熟にして霜害に遭へば開絮し難い。故に秋末開絮の後れる未熟莢は早く摘去しなければならぬ。この方法は定莢(邦語にて摘莢とも稱すべきか)と謂ひ、全株の養分を悉く有効結莢に貫注し得て、その成熟を容易ならしめる。

五、晩花摘除。棉は開花結莢より成熟する迄、大體五十餘日を要する。若し「立秋」後二〇日間にして開花したものは「霜降」に至り始めて莢が成熟する。然るに北方は氣候比較的寒く、普通「霜降」前後には早霜がある。未成熟なるものは一度霜害を被れば、開絮し難く、或は棉絮の品質劣悪となる。故に「立秋」後二〇日を経過して開いた晩花は、其儘存在せしめても大した收穫の望み無く、且つ一人前に養分を消耗し他莢の成熟期を遅延せしめるから、速やかに之を摘除せねばならない。

六、摘葉。葉が多ければ日光を遮蔽し、開絮を妨げる。若し「寒露」後に、棉株に多くの葉が繁茂してをれば、開絮に困難なる虞れあり、故に幹部及枝部の老葉を摘み取り、莢を充分に日光の照射に浴せしめその開絮を促進せしむべきである。

以上列擧した手入作業の中剪枝、摘心、摘芽等は同時に之を行ふべく、定莢、摘花等は棉の發育状況に應じて順次に着手すべきである。摘葉は異常に繁茂せる棉株にのみ行ふべきである。

八、收花

棉は播種後二個月以上を経過して開花し、更に一個月半位を経て開絮し、後始めて收花する。收花に當つては必ず二個の袋を携帶する。一つは潔白にして瑕無き棉花を入れ、一つは害を被り萎黄したる棉花を入れ、以て優劣相混じて品質を損ひ、紡織に障害となるのを避ける。收花したる後「箔」の上にならば二、三日日光にさらせば、棉絨(棉の纖維)

を澎鬆にし棉花は白くなり、繰棉に適してくる。若し雨水が非常に多ければ、速やかに收花し、雨のために雨花となるのを防がねばならない。降雨後は乾燥するのを待つて採取するのがよく、收花したら日當りよく通風のよい所に棚を設け充分に乾燥させると一層良好である。收穫量は、米棉の最多のもので毎官畝二〇〇斤、中棉は毎畝上等一五〇斤、中等一〇〇斤、下等七〇斤位である。農政全書に曰く「齊魯の棉田は毎畝二、三百斤を收穫するを常とす」と。固より之を實證するに由なきも、植棉に對し一切の栽培管理を完全になし得たならば、毎畝二〇〇斤の實棉を收穫する事はさして難事ではないのである。

九、留種

棉花收穫の際、早熟にして莢大きく形状整齊なるものを選出して留種とする。棉絮中より種子を取出しその乾燥を待つて貯藏し次年度種子に供するのである。貯藏種子は之を露天に置けば外界の影響を受け、冷縮熱脹し發芽したり腐爛するを以て、布袋又は缸の中に貯藏するのがよい。貯藏種子は二、三年を経過すれば發芽力を失ふを以て、本年採種したものを次年度に用ひるのがよい。

各縣棉作種植狀況 (此表録自中國實業誌)

縣別	氣候土質	播種		收穫期	施肥		附註
		時期	方法		種類	方法	
鄭平	粘質黃壤、砂質壤土、溫和	立夏節	撒播	八月底至十一月上	人糞、牲畜糞、豆餅、草木灰	追肥	(一)不用基肥(二)冀東北產棉
齊東	溫和、粘土、及砂質壤土	穀雨節	條播	霜降節	廐肥、堆肥	基肥	棉區分佈於小清河以南

鉅野	定陶	城武	單縣	曹縣	荷澤	商河	蒲台	霑化	利津	濱縣	惠民	高苑	博興
土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土	土和、砂土、粘土
立夏節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節
條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播
霜降後	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節	秋分節
豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥	豆餅、廐肥
追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
開花前施肥(一)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(二)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(三)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(四)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(五)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(六)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(七)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(八)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(九)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(十)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(十一)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(十二)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(十三)地勢窪下土質多含鹽鹼性	開花前施肥(十四)地勢窪下土質多含鹽鹼性

章邱	平原	鄆城	堂邑	清平	冠縣	館陶	高唐	恩縣	臨清	武城	夏津	邱縣	德縣
砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土	砂質壤土、粘土
四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底	四月底
條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播	條播
八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初	八月底至十一月初
廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅	廐肥、豆餅
基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥	基肥
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
耕前施肥(一)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(二)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(三)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(四)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(五)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(六)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(七)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(八)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(九)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(十)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(十一)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(十二)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(十三)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土	耕前施肥(十四)西北多砂質壤土宜棉、東南伴粘土

德平	臨邑	禹城	廣饒
溫和、砂質壤土、砂土、礫土	溫和、礫土、砂土	溫和、砂質壤土、粘土	溫和、砂土、壤土
穀雨	清明至穀雨	穀雨節	四月下旬
條播	條播點播撒播	條播	點播
秋分至霜降	處暑後至霜降	白露至霜降	十月上旬
厩肥、堆肥	厩肥、豆餅、人糞、棉餅	厩肥、豆粕	人糞、厩肥
追肥	追肥	追肥	基肥
一	一	一	一
二	二	二	二
<p>○全縣概爲砂質壤土、惟東部多粘 土○產棉區域在縣境北部、津浦路 兩旁及與高唐隣境一帶 ○點播種子後、即蓋以糞、再覆以 土○高平地多砂質或粘壤土、再覆以 土○粘土及紅淤積土、東北濱海 地多黑土、故產棉僅城區</p>			

### 第五章 生産費及價格

#### (一) 棉作經濟と普通作物經濟の比較

年來棉花價格の低落により棉農の收益は減少してゐるが、尙他作物に比し有利である事は疑を容れない所である。蓋し工賃、肥料の騰貴は支出を遞増せしめ生産費を引上げ、生産品價格の低落は收入を遞減せしめ純益の低下を齎らした。但し各種の作物も勿論同一條件下であり、單なる棉作の單獨現象ではないのである。山東省立第二棉業試驗場（現在の齊東棉作改良場）が齊東縣にて年來實施した各種農作物の經濟調査の報告に據れば、歷年の各種作物の收益は植棉を以て最多としてゐる。大豆も年々可成りの收益があるが棉作には比すべくもない。小麦、高粱、粟等は民國九年以後利益の見るべきものがないのみか、時として損失さへ生じ棉作に及ばざる事遠きものがある。

山東省の植棉は年一作であるが、普通作物は二年三作のものが多く、即ち小麦の收穫後に大豆を蒔き、大豆の收穫後は、次年度に高粱或は粟を植える。茲に普通作物の二年三作の收益と棉作一年の收益を比較してみれば、民國一九年以前に於ては、棉作收益は普通作物收益の二倍を超へた。民國一九年以後この比率は漸次低下した。然しその收益は依然として三對二、及四對三の比率を保つてゐる。棉花栽培は經濟上有利である事は明らかな事實である。清平、臨清、高唐、夏津等各縣の農村經濟は、普通作物を栽培してゐる諸縣より優れてゐる事は明らかに證明されてゐる。茲に最近五年來の齊東の棉作と普通作物經濟との比較表を左に示さう。

齊東縣棉作經濟と普通作物經濟比較表（齊東棉作改良場調査）面積一官畝

作物種類	要項		支出		收入		損益		附記
	年	度	種子	肥料	主產物	副產物	合計	損益	
棉	民國十八年	同	〇〇八	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇八	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇八	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇八	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇八	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
中	民國十八年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
小	民國十八年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
麥	民國十八年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇三	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	

作物種類	要項		支出		收入		損益		附記
	年	度	種子	肥料	主產物	副產物	合計	損益	
大豆	民國十八年	同	〇〇七	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇七	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇七	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇七	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇七	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
高粱	民國十八年	同	〇〇〇	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇〇	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇〇	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇〇	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇〇	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
粟	民國十八年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	主產物 實棉 副產品 棉實
	民國十九年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十一年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	
	民國二十二年	同	〇〇六	一六六	一五七	〇〇三	一〇二	一〇三	

註 賦稅の項は縣にて徵稅する稅捐のみにして、地方の賦役其他雜捐を含まず。

(二) 肥料同價試驗



の収量が豆粕区よりも多い。而して豆粕区の降霜後の収量も肥田粉区よりも多い。三年來の成績を綜観するに、豆粕と棉實粕との収益は、時により不同であるが、肥田粉のみは常に最適である。

(三) 米國棉花の生産費

一九三〇年、米國農林省公報にて、棉農一、〇二八戸の報告が發表された。この報告の内大部分は、普通の棉農より收穫の良好なものである。一九三〇年の米國棉花の平均收穫高は、每英畝一四八磅内外である。集つた報告の内每英畝の收穫量が一〇一磅より一八〇磅のものが二八五件に達し、その平均收穫量は一四五磅である。その平均生産原價は每磅米弗一角六分にして中國法幣の四角三分に當る。每英畝の收穫百磅乃至百磅以下の棉農は、每磅の生産原價が一角六分を越え、收穫が一八一磅以上のものは每磅の生産原價はすべて一角五分以下である。

茲に右報告の統計を摘録し、参考に供しやう。

一九三〇年米國棉產原價統計 (單位米弗)

報告件數 平均每農家播種畝數 每畝產綫棉磅數	每英畝產量				
	一百磅及百磅 以內	自一〇一— 八〇磅	自一八一— 六〇磅	自二六一— 〇磅	自三四一— 四二〇磅以上
二二三	二八五	二六三	二二一	金	七
二六	空	三	七	金	七
七	一五	三六	三〇〇	三	七
三七三	三五〇	四〇八	四〇〇	三	五
四六二	四九七	五七四	五七七	四	九
四六二	四七三	五八九	七四六	八	六
〇一九	〇三三	〇七	七五	一	六
〇一五	〇三	〇七	〇七五	一	六

每畝生產原價	肥料				
	肥子	種子	綫棉費	地代	其他雜費
二八八	一〇五	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
三八一	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
六二四	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
七六三	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
八三〇	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
六四二	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
一〇八	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六
〇〇八	一〇六	一〇六	一〇六	四七九	二〇六

(四) 各縣の棉花價格

山東省に於ては、商工業の比較的發達してゐる膠東地方を除き、省民の大多數の日常經濟は、農産物の収益により保たれてゐる。最近農産品の價格は下落の一路を辿り農民の収益は愈々減少するのみである。而して支出は之に反し益々増加し生活は水平線以下に轉落し、その困苦の情況は一般人のよく想像し能はざる程である。今例を棉農にとつて論ずれば、棉作收穫量は少しも増加せず、而も棉花の價格は漸次低落し、今日の價格は往年に比し僅かにその三分の二にしか當らない有様である。往年夏津、滋陽、廣饒、鄒平、高密、臨清、清平、德縣等の地方に於ける實棉の價格は每擔二一、二元の間を上下してゐたが、本年は最高一五元程度を超へず、最低は一五元以下で、實に往年の二分の一或はそれ以下となつてゐるのである。茲に民國一八年より二二年に至る間の重要な棉產各縣の棉花價格及び齊東の歷年米棉生産費と賣價の比較を示さう。



山東各縣棉花價格表

縣	別	單位	民國十八年	同十九年	同二十年	同二十一年	同二十二年
鄒	平	實	1.90	1.80	1.80	1.80	1.80
齊	東	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
高	苑	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
惠	民	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
濱	縣	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
利	化	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
霑	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
商	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
曹	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
單	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
定	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
鄒	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
堂	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
清	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
館	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
冠	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
高	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90
恩	同	實	2.00	1.90	1.90	1.90	1.90

山東省齊東縣歷年米棉生產原價と賣價比較表

年	度	每畝綫棉生產費	每畝綫棉產量	平均每斤綫棉原價	平均每斤綫棉賣價
民國十七年	同	789(389)	363	0.22(0.11)	0.22
同十八年	同	833(413)	333	0.25(0.13)	0.25
同十九年	同	1100(440)	313	0.35(0.14)	0.35

縣	別	單位	民國十八年	同十九年	同二十年	同二十一年	同二十二年
臨	清	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
武	城	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
夏	平	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
德	德	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
德	原	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
平	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
臨	邑	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
禹	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
廣	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
歷	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
章	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
濟	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
邱	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
平	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
壽	同	同	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00

年	二十一年	二十二年	平均
同	二五四(八六)	二六八(八六)	二六一(八六)
同	二六八(八六)	九七(五七)	一〇四(六四)
平	三二〇	三三〇	三二六
	〇七五(〇五)	〇六六(〇五)	〇七〇(〇五)
	〇七五(〇五)	〇六六(〇五)	〇七〇(〇五)
	〇七五(〇五)	〇六六(〇五)	〇七〇(〇五)
	〇七五(〇五)	〇六六(〇五)	〇七〇(〇五)

右表中繰棉生産費の中には、地價、利息、種子、肥料、勞役費、役畜費、賦税等の一切を包括してゐる（括弧内の數字は、地價及利息を算入せず）。各年生産費の多寡は主として、肥料、工賃の影響に依るものであるが、平均繰棉毎斤の生産原價は三角餘である。最近棉價は往年に比し低落してゐるとは云ふものの、依然として生産原價を超えてをり、概して中國の棉農は米國の棉農よりも有利である。

棉花は收穫後、一年間に於ける價格の變動が頗る大きく、實棉一擔の價格でも、常に一元乃至五元位の開きがある。一般に棉花は收穫當時は比較的價格が安く、後漸次高騰してくるのである。春季には價格も高いのであるが、棉農の經濟狀態は春まで棉花を持ちこたへる事を許さず、收穫するや否や直ちに賣急ぎ、みすく價格高騰の期を逸してすふのである。

最近國內經濟衰微の影響を受けて、山東省の棉花ははか／＼しい賣行きを示さなくなつた。民國二四年春季濟南一市のみの滯貨でも、一二、三萬俵に達し、棉商は悲況のどん底に突落された。この一年來の平均棉花價格は四五元（二四年七月には四〇元迄下つた）で、之を二〇年春の棉價七〇餘元に比すれば相隔たる事遠きものがある。

## 第六章 棉花の調製

### (一) 繰 棉

繰棉は實棉より種子を除去する作業である。繰棉を行ふに當り作業上慎重を缺けば纖維も種子も共に損傷を被り易く、原棉の價値を低落せしめる。故に繰棉作業は纖維を完全に分離しその長度を損はぬ様にせねばならない。各種の棉花はその大きさも不等、成熟の度合も不同であり、且同一棉蒴内の纖維でもその長短強弱は不同である。故に機械の構造も、夫々異つた性質の實棉に完全に適する事は不可能にして、最も普通なる性質に適合し、その損傷を最小限度に喰止め得れば可とせねばならない。

實棉は採收したる後充分陽乾したる上で繰棉すれば、良質の纖維が得られる。濕氣の多い實棉は、繰棉する時纖維が切斷され易く、又種子の表皮が纖維中に混入し易い。もし繰棉作業を行ふ前に「顯棉機」により一切の灰泥、葉片、夾雜物等を除去し、又汚染したり變色した棉をも除去し得たならば、繰棉して得たる棉毛は品質が特に佳良である。繰棉機は常に之を潔淨にし、機械油によつて纖維を汚染せざる様にし、又品種不同の實棉は絶対に之を混合して繰棉してはならない。繰棉作業を行ふ時は、機械を逆運轉してはならない。これは纖維或は種子等が機械内に入り運轉を阻碍し、又機械に故障の發生するのを未前に防止する爲である。機械に故障が生じたならば速やかに修繕すべく、僅少の失費を惜しんで之を忽略してはならない。

棉花を栽培してゐる農家は、少數の富裕なる大農戸が自家に繰棉機を置いて自ら繰棉する外、大部分繰棉機を持つてゐない。收穫したる實棉は、零碎なる數量でも之を市場に搬出して現金にかへ、以て急需を充たすのである。「軋花

販」は實棉を收買し、繰棉して之を棉商に賣却し餘利を得てゐる。最近棉花に混水する弊害殊に甚だしく、政府は禁止を命ずるのであるが、多年の積弊は一朝一夕に更改する事困難である。この積弊の主要なる根源をなすものは、即ち繰棉時期に「軋花販」の收買したる實棉は、種類不同、品質不一、粗絨（纖維の太い棉花）細絨（纖維の細い棉花）良棉劣棉が雜然混合して繰棉せられるのみならず、中棉米棉の區別さへせられず混入される事もあり、而も繰棉したる後纖維を整理均一にして置けば容易に顧客を瞞着し得るからである。殊に米棉に中棉を混入すれば繰棉も多くなり、多量の水分を含有する事が出来る（中棉は纖維粗硬にしてよく濕氣に抗し得）。實棉、棉種子、砂灰等の混入は、すべて繰棉作業より包装作業に至る間に行はれる。棉花が優劣混合繰棉されれば、紡績工場は優良原棉の購入に困難し、優良棉花も高價を得る能はず、棉業改良に影響する所甚大である。既に純良棉種の選育困難にして各地とも缺乏してゐる際、「軋花販」により純良棉種と雜劣棉種が混合されるに於ては、純良種子は完全に消失し、各地に純良棉種を充分に供給する事は永久に望み難いであらう。

鄭平米棉運銷合作社は社員のために繰棉を行つてゐるが、その詳細なる狀況は本報告書第四編に詳述されてゐる。（讀者の注意を望む）。

### (二) 包装

繰棉したる後は棉花は膨鬆となるを以て他地方へ搬出するには壓縮包装しなければならぬ。中國に於て用ひられてゐる包装は各地不同であるが、大體左の三種に分類出来る。

1 軟俵。此包装は農民が多く用ひてゐるもので、先づ木で枠を作り、布袋をこの四柱に掛け繰棉を入れ、足にて之を踏んで緊め、棉が一杯になつたならば、袋の口は布を以て口縫ひし、繩を以て袋を縦横に緊縛する。毎俵百斤前

後である。この包装は遠隔地への運輸には不適當である。

2 硬俵。各主要棉産地には、人力により操作する機械を持つ打包廠（包装工場）が設立されてゐる。この包装は容積も小さく運送費も軽減される。軟俵の鐵道運賃は二等品として取扱はれるが、硬俵は四等品であり、其間の運賃の差額は大きい。毎俵重量は約百五六十斤、長方形で高さ約三尺餘、縦横は各約二尺、外面は麻繩を以て之を捆縛する。

3 鐵卷（鐵締）。天津上海等の外商は水壓機械による打包廠を設立し、水壓機によつて包装し専ら輸出用に供してゐる。即ち水壓機の容器中に繰棉を充滿し、水力を以て之を壓縮して板形となし、更に其上に繰棉を置いて再び壓縮し、この操作を反覆繰返し、所要包装量に達すると之を止める。袋は麻布を使用し、外面は鐵片條を以て之を捆縛する。毎俵の重量は五百磅、高さ約四八吋、縦約二〇吋、横約一八吋である。

包装に要する動力は新式のものには螺旋式及蒸氣機械等を用ひ、近來水壓機を用ひるものが多くなつた。包装は華美にする必要はないが、整潔にするを要し、且運送の途中破れて原棉の品質を損傷したり遺失の弊害を防止するため、丈夫なる布を使用するのがよい。

## 第七章 生産資本

國內の資金は近來偏在の趨勢にある。即ち大都市では資金は有り餘つて適當の用途を見出すに苦しみ、之に反し農村では金融逼迫し農家は「告貸無門」の苦を嘗めつゝあり、これが爲金融業者は恣に利率を引上げて農民を搾取してゐる。斯る全國的な情勢の下に獨り山東のみが例外たり得る事は不可能である。山東省に於ける農民の金融方法には左の六種がある。以下順次に説明を加へやう。

- 1 「借貸」(現銀貸借)。山東農家の借貸方法は、借金せんとする者は、紹介者を通じ保證人を立て、債権者より借入をなし、借用證書を入れ、借入金額、償還月日、利率等を明記する。貸借期間は、長期短期の別あり、長期は普通一個年位で利率は比較的低く、短期は比較的利率が高い。兩者とも抵當品を要するものと、要せないものとある。
- 2 借糧。「借糧」は山東各地とも一般に行はれてゐる。借糧の種類は高粱、小麦、粟等が主たるもので、利息附と無利息の二種がある。無利息のものは情實により借入れるものであり、利息附もその手續は至つて簡單で單に糧主(穀物貸主)が返還月日と利息とを記帳するに過ぎない。高粱を借り小麦を返す者もあり、又或穀物を借りてそれとは別の穀物を返す者もあり、或ひは返還時期に借入穀物を時價に換算して償還する者もある。
- 3 典地。山東に於ては土地の抵當に「在地」及「期限」の二種がある。「在地」とは債務者が「現地」(現在所有してゐる土地)を抵當として金を借入れ、その耕種權を債権者が繼承するもので、債務者が金を持つて回贖せんとすれば、債権者は何時でも之に應ずるのである。但し回贖は麥に關しては立春を過ぎるを得ず又土地に關しては清明節を過ぎる事は出来ない。(この意味は債権者が立春には麥播種の準備をなしてをり、債務者が借入金を持參回贖せんとしても播種後の麥苗等は債権者の所有なるに依り、之に應ぜず、即ち立春以前でなければ回贖に應じない事を云ふ)。所謂「期限」抵當とは債務者が田地を抵當に借金をなし、利率及期限を言明し、契約期日が到來して借入金を返還しない時は、債権者がこの田地の耕種權を得るか、或は債権者が之を沒收する方法である。以上兩種の方法は、何れも債務者より地券を提出して抵當となし、保證人が保證をなし、典契を訂立して證據とするのである。
- 4 錢會。錢會は農民の相互扶助の一種の辦法で、山東省では最も普遍的に行はれてゐる。會員は各人の出資金額を議定し、第一回拂込金は會首が使用する。普通一年を四期に分ち、各期毎に利息を最も多く出した者が拂込金の使用權を獲得する。
- 5 典當。典當は庶民金融の最も簡便なる方法であるが、山東では餘り普及發達してゐない。省内各縣市の内典當業の存在してゐるのは約十二縣である。典當の方法は各地と同様である。
- 6 合作社。合作社は新式の農民金融機關にして、貸付利息は他の各種金融より安く、平均一分前後である。各縣貸借利息。山東各縣の貸借及抵當付貸出の利息は、各縣不同である。今省内一般に就いて觀れば、利息の最も高いのは典當にして、普通月利三分二厘前後(以下總て月利とす)最高五分に達するものもある。次に高いのは個人の借貸で、平均二分四厘前後、最高一割に達するものもある。次は商店の貸出で普通二分三厘前後である。其次は合會(即ち錢會等の類)で、普通二分二厘前後、貸出利息の最も安いのは合作社で約一分三厘前後である。

個人の借貸利息は、齊河、利津、禹城等の各縣が最高で、月利最高八分乃至一割、普通四分乃至五分である。商店の貸出利息は、濟陽、樂陵、鉅野、壽光等が最高で、月利最高八分乃至一割、普通五分乃至八分位である。合作社の利息は最も安く、特に招遠、臨邑、陽信等の諸縣は全省でも最も安く僅かに八厘である。

## 第三編 棉花の運銷

### 第一章 棉産區域

山東省は重要棉産省たる江蘇、河北兩省の間に介在し、雨量は江蘇省よりも少く、温度は河北省よりも高く、植棉に好適してゐる。省内の重要な棉産區は、魯北、魯西、魯南の三大區に分たれる。魯北棉區は津浦線以東、黃河以北及小清河流域の各縣を包括し、その土壤は砂質壤土が多い。小清河流域の各縣は、氣候溫潤であるが、黃河以北は氣温が稍低い。該區の著名なる棉産縣は、齊東、鄒平、高苑、博興、廣饒、濱縣、蒲臺、利津、霑化、惠民、商河、德平及臨邑等である。魯西棉區は津浦線以西、黃河以北の各縣を包括してゐる。該區は氣候乾燥し、土壤は砂質が比較的多い。著名なる棉産縣は臨清、高唐、夏津、清平、武城、恩縣、德縣、禹城、館陶、冠縣、邱縣、堂邑等である。魯南區は黃河以南、津浦線以西の各縣を包括し、温度は比較的高く、土壤は砂質壤土が多い。主なる棉産縣は、曹縣、荷澤、鉅野、單縣、定陶、魚臺、城武、鄆城、鄆城、金鄉及汶上等の諸縣である。以上三大棉區は、すべて山東省平原地帯、或は小清河、新舊黃河等の沿岸、又は馬頰河、徒駭河の貫注する區域にある。故に土壤は河流の影響を受けて、概して沖積土と黄土の混合したる砂質壤土に屬してゐる。近年米棉の栽培が開始せられてより稍々粘性ある沃土にして従來雜穀を栽培してゐたのを、米棉に改植して非常に成功を收めてゐるが、これは將來に對して新しい示唆を投げかけたものと云ふべく、新棉區として將來性のあるものである。

山東全省の植棉面積及産量は、既に第二編第一第二兩章に之を詳述した。民國一八年以前の植棉畝數は三、五〇〇、

〇〇〇餘畝に過ぎず、その棉産額も百萬擔を超へなかつた。民國二二年に至り植棉畝数は五、三五七、三〇〇餘畝に達し、棉産額も一、四六八、九〇〇餘擔に達した。之に依り植棉畝數及其その産額は漸増の趨向にある事が分る。而してこの増加數量中米棉が大部分を占めてゐるのである。茲に山東省三大棉區の生産、運送販賣狀況を分述しやう。

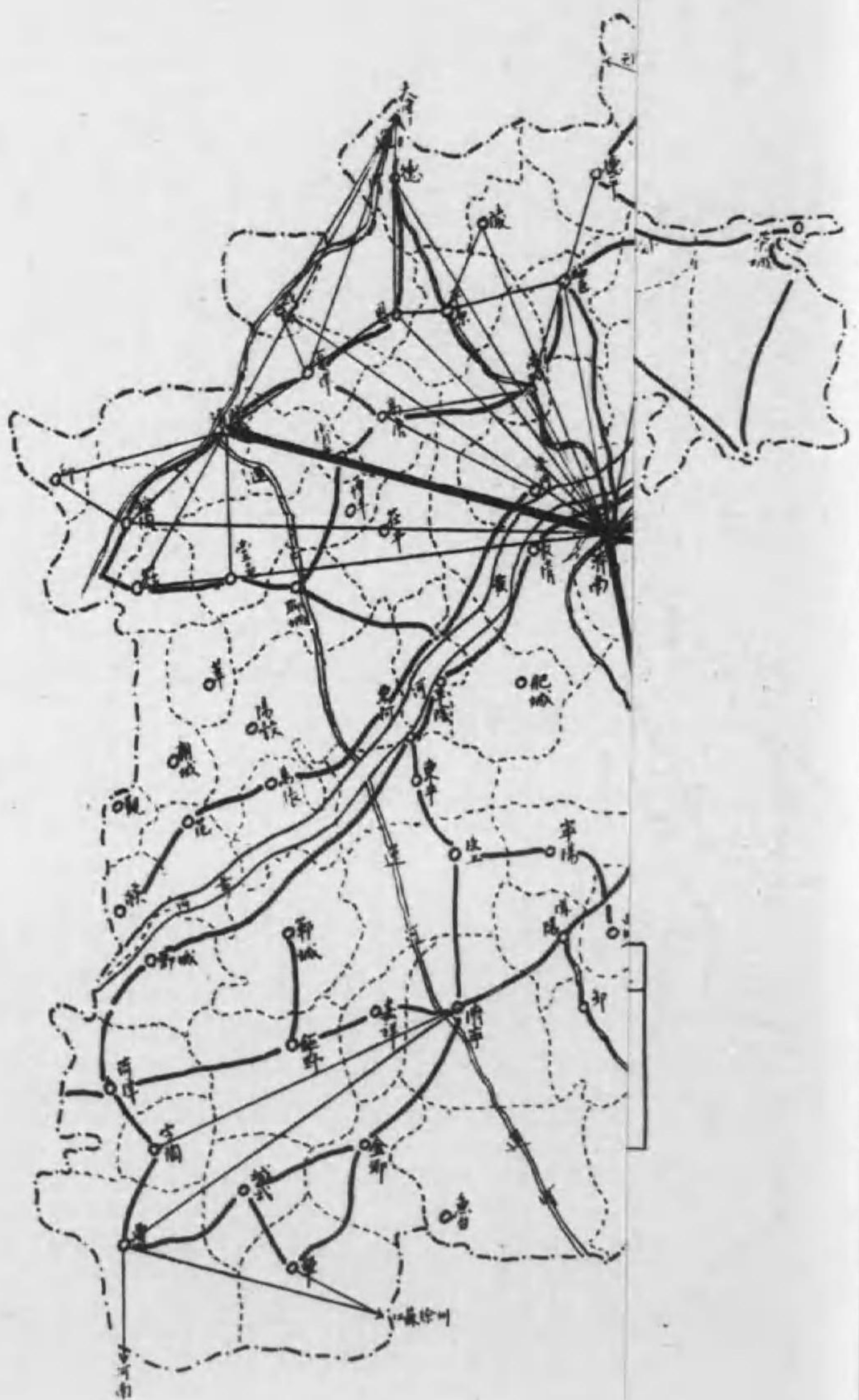
### 第一節 魯北區

山東省三大棉區の内、棉産數量の點では魯西區が、棉花の品質の點では魯北區が夫々首位を占め、就中濱縣の棉花は品質最も優良である。本區は濱縣、蒲臺、高苑、商河、鄒平、博興、廣饒、齊東、霑化等の諸縣を包括してゐる。全區の棉田面積は百萬畝以上に達し、其内中棉々田は七〇〇、〇〇〇餘畝、米棉々田は三五〇、〇〇〇畝前後を占めてゐる。而して高苑、濱縣、鄒平、齊東等の米棉々田は中棉々田よりも多い。本區の棉産量は繰棉 三五〇、〇〇〇擔前後、内中棉が二〇〇、〇〇〇擔以上、米棉が約一二〇、〇〇〇擔を占めてゐる。

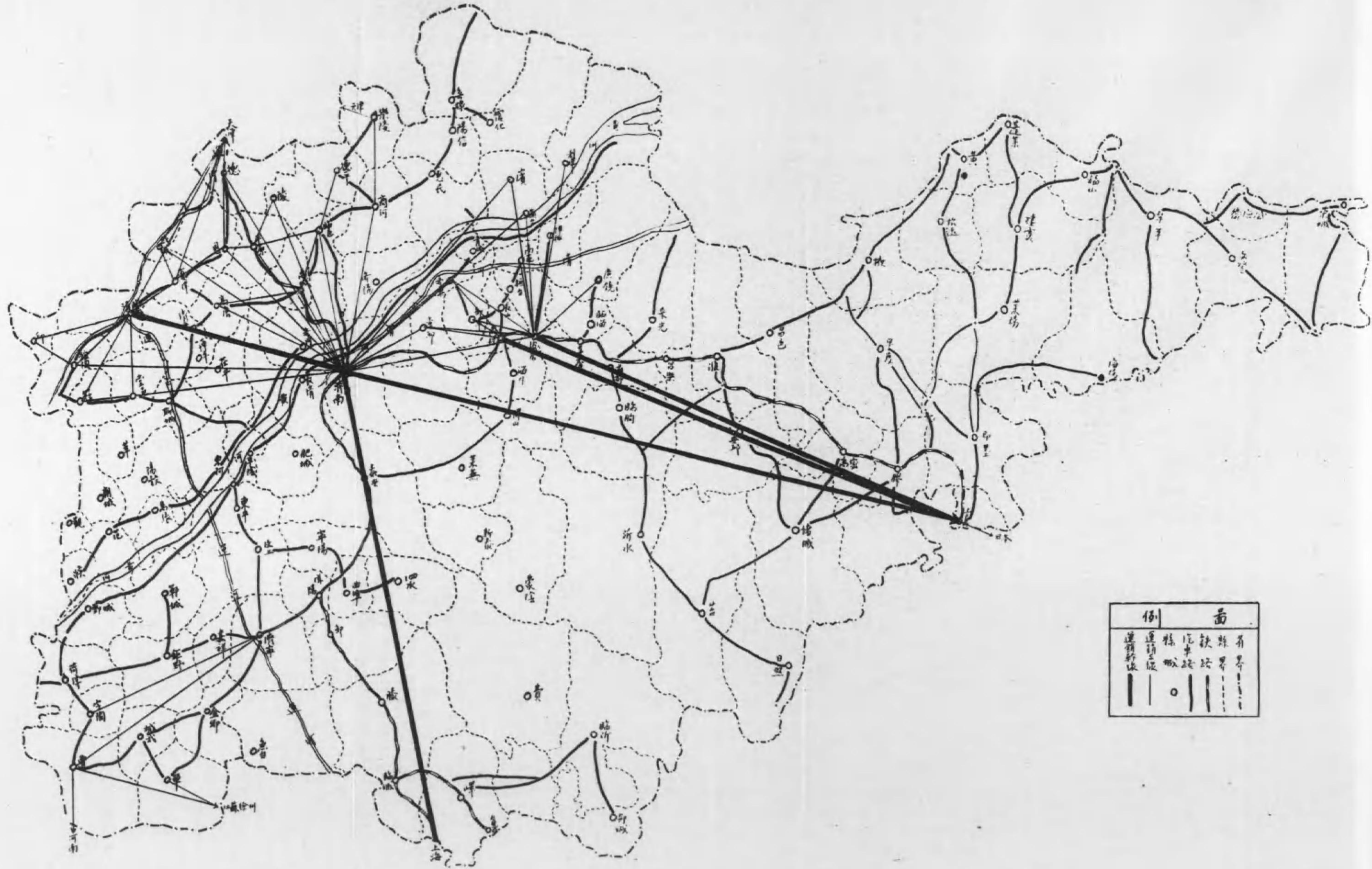
#### (一) 概況

濱縣。濱縣は山東の北部、黄河の下流に位し、霑化、陽信、惠民、青城、高苑、蒲臺の諸縣に隣接してゐる。全縣面積は五、二〇〇平方支里、耕地面積は六五七、一九七畝である。本縣の土壤は、壤土が二〇%、粘土が一〇%、砂土が七〇%を占めてゐる。本縣の西北部は壤土、南部は砂土及壤土にして、何れも植棉に適してゐる。但し縣城の東部は紅土にしてアルカリ性強く植棉に適しない。

濱縣の棉産は、市場に於て盛名を馳せる事既に久しく、一般に「濱花」と呼稱されてゐる。近年米棉が年と共に増加し、その品質亦全省に冠たるものがある。黄河下流北岸一帯の棉業中心地たる北鎮には花行(棉花専門店)が一〇餘家



# 山東省各縣棉花運銷路線圖



（一）概況

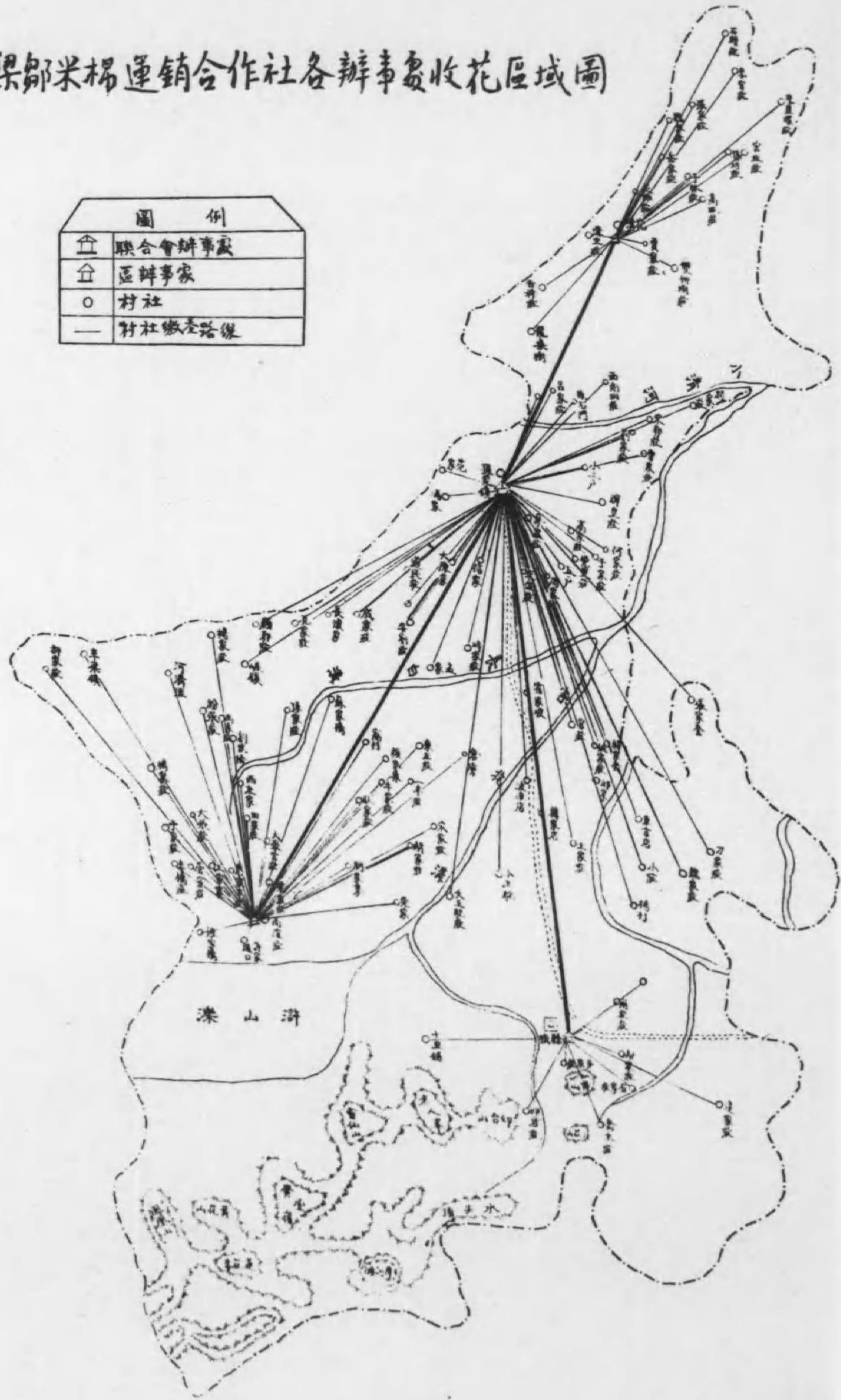
濱縣。濱縣は山東の北部、黄河の下流に位し、霑化、陽信、惠民、青城、高苑、蒲臺の諸縣に隣接してゐる。全縣面積は五、二〇〇平方支里、耕地面積は六五七、一九七畝である。本縣の土壤は、壤土が二〇%、粘土が一〇%、砂土が七〇%を占めてゐる。本縣の西北部は壤土、南部は砂土及壤土にして、何れも植棉に適してゐる。但し縣城の東部は紅土にしてアルカリ性強く植棉に適しない。

濱縣の棉産は、市場に於て盛名を馳せる事既に久しく、一般に「濱花」と呼稱されてゐる。近年米棉が年と共に増加し、その品質亦全省に冠たるものがある。黄河下流北岸一帯の棉業中心地たる北鎮には花行（棉花専門店）が一〇餘家

ある。而して高苑、濱縣、鄒平、齊東等の米棉々田は中棉々田よりも多い。本國の棉産量は總額三五〇、〇〇〇擔前後、内中棉が二〇〇、〇〇〇擔以上、米棉が約一二〇、〇〇〇擔を占めてゐる。

梁鄒米棉運銷合作社各辦事處收花區域圖

圖 例	
⊞	聯合會辦事處
⊞	區辦事處
○	村社
—	村社繳花路線





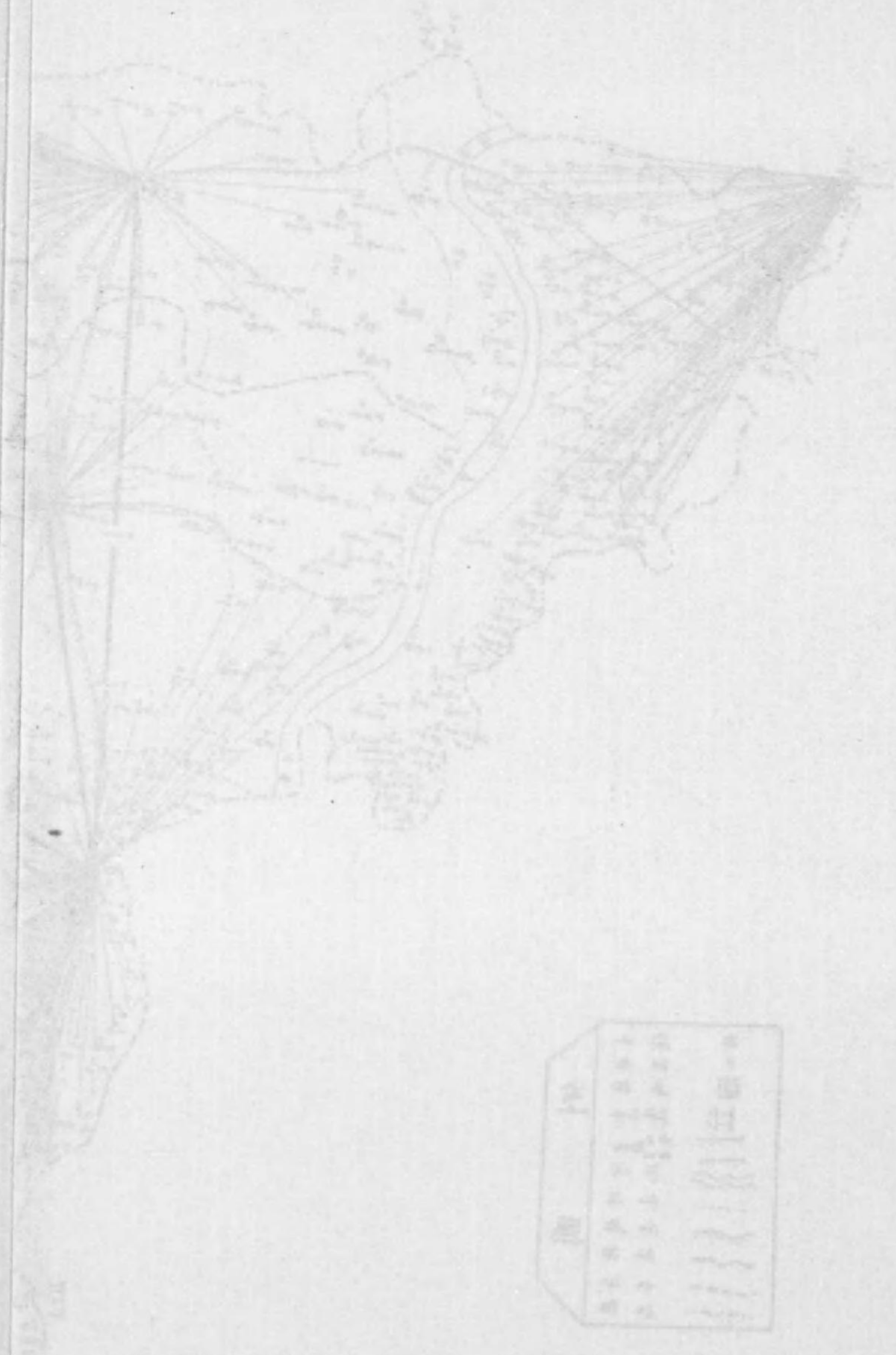


圖	一
一	二
二	三
三	四
四	五
五	六
六	七
七	八
八	九
九	十

圖 廣東省各縣行政區劃分

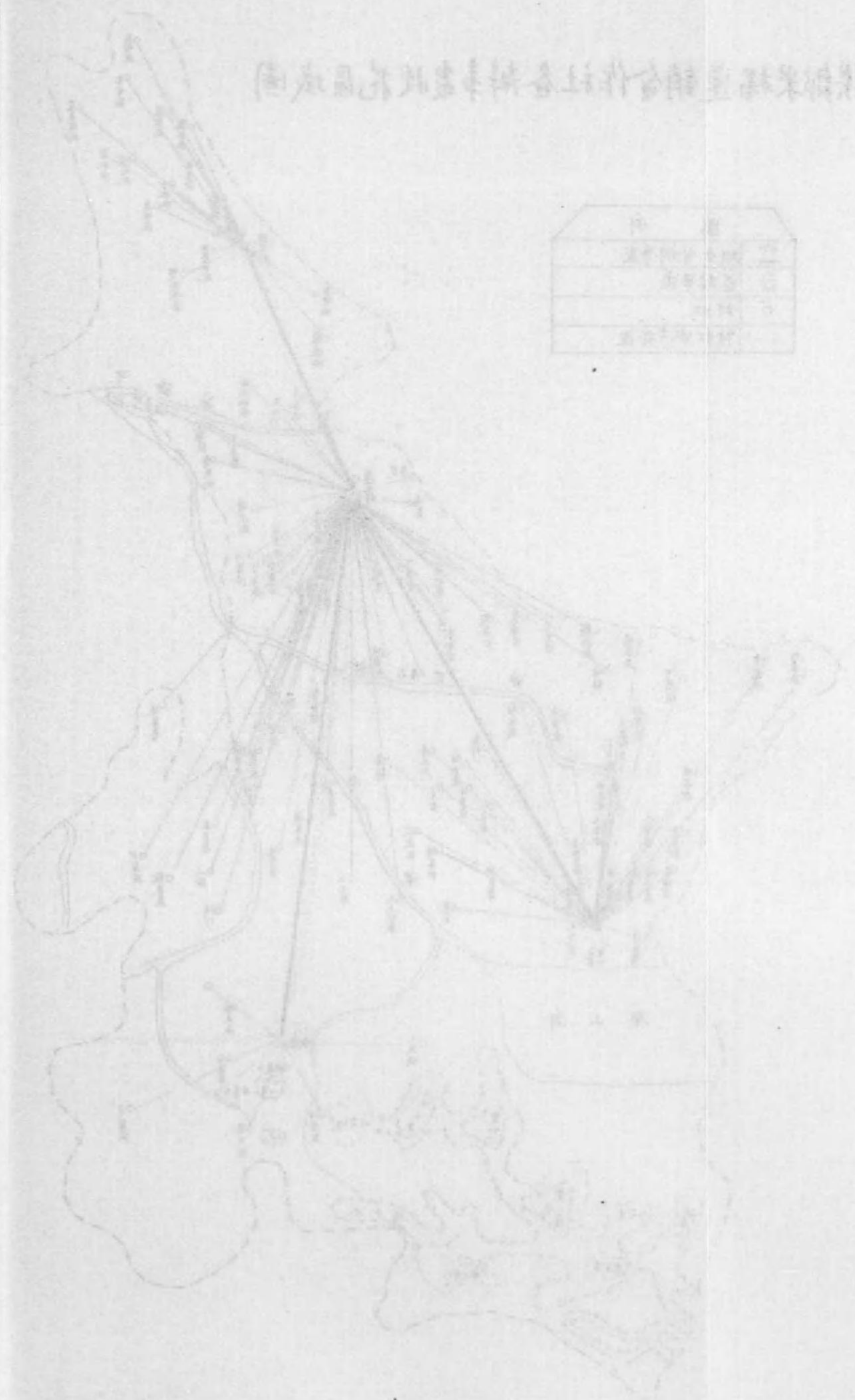
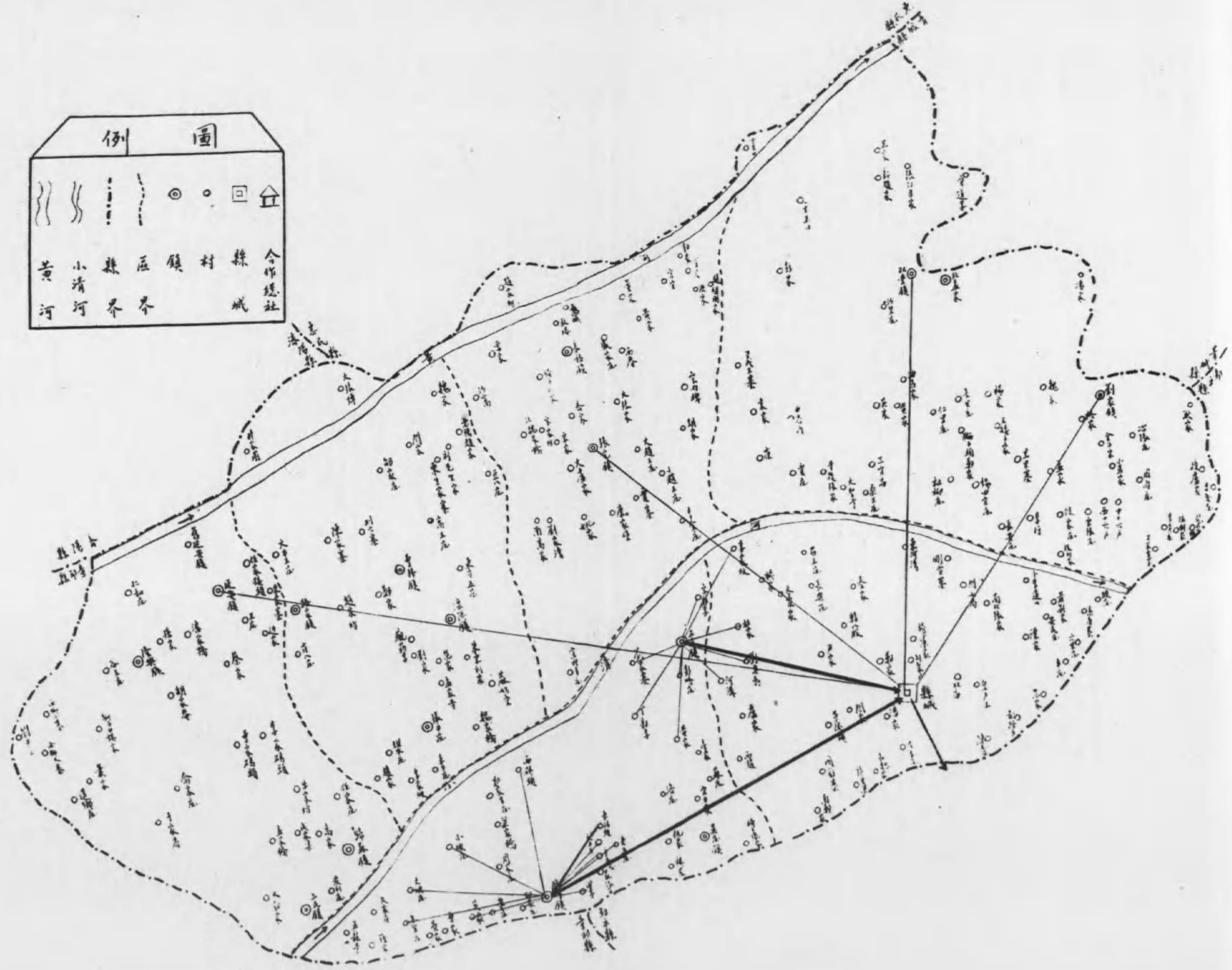
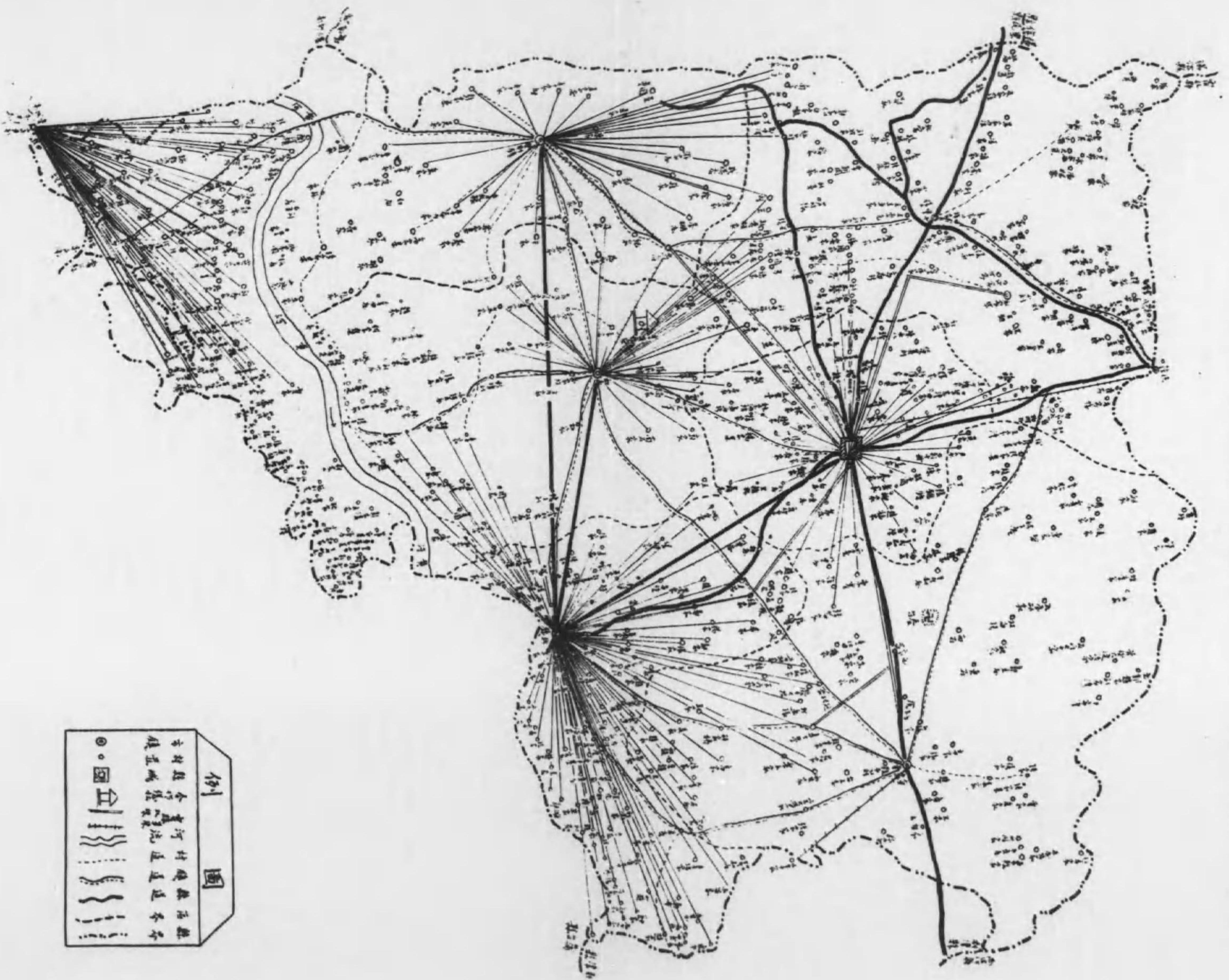


圖	一
一	二
二	三
三	四
四	五
五	六
六	七
七	八
八	九
九	十

# 齊東縣棉花運銷路線及集散情況圖



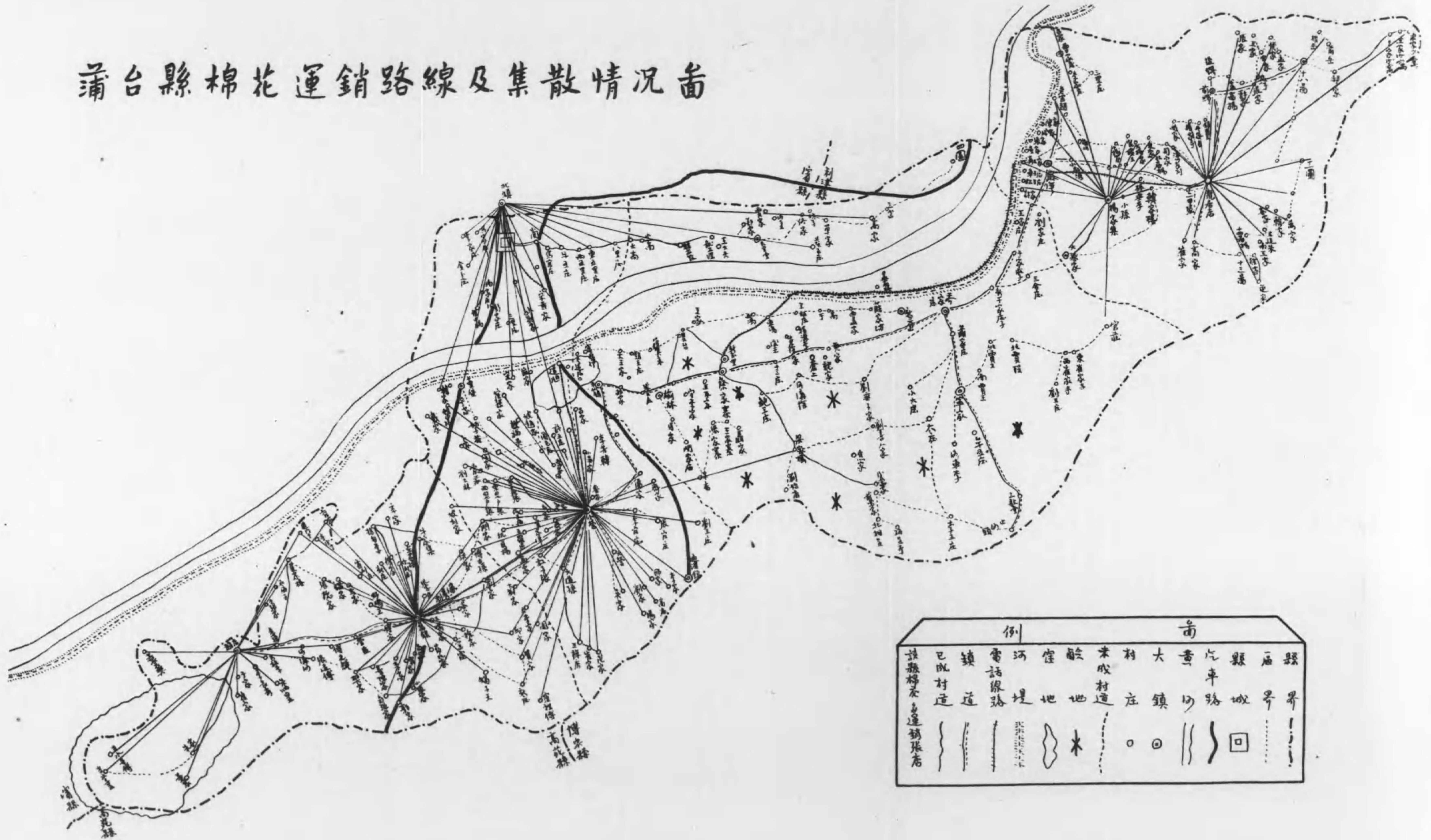
濱縣棉花運銷路線及集散情況圖



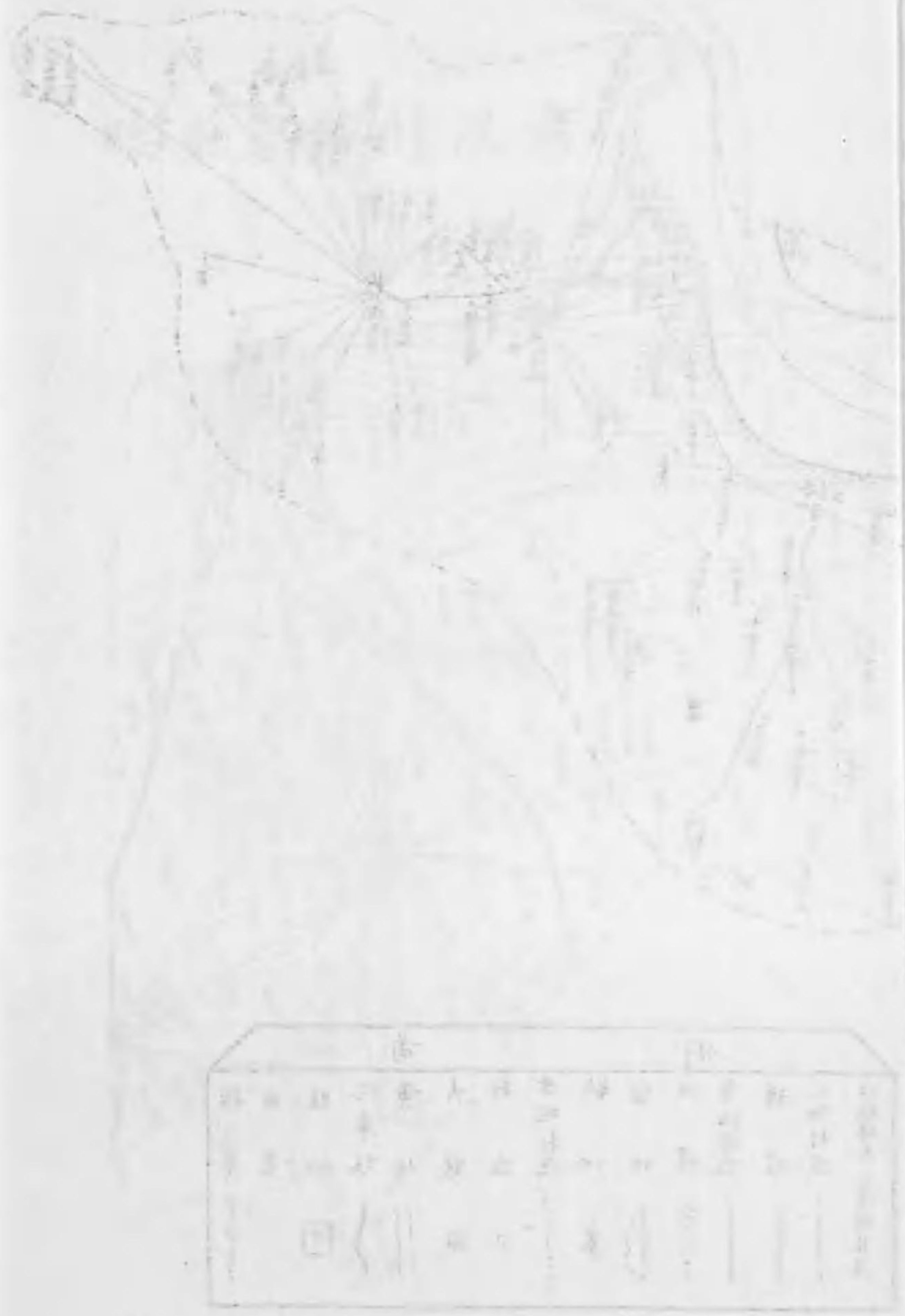
例 圖

○	村團
●	鎮區
⊙	全縣
⊞	河流
⋯	村道
⋯	縣道
⋯	省道
⋯	國道

# 蒲台縣棉花運銷路線及集散情況圖



蒲台縣棉花運銷路線及集散情況圖



あり、繰綿を収買して張店、濟南へ販賣してゐる。同地方の農民は棉花の栽培方法には細心の注意を拂つてゐる。栽培棉花の種類は、中棉は大部分「本地細絨」、米棉は「本地洋花」である。

蒲臺。蒲臺は濱縣の東南に位し、全縣面積は二、六九〇平方支里、耕地面積は五六七、七三四畝である。壤土が二〇%、粘土が一五%、砂土が六五%を占めてゐる。本縣の中央部は地勢低濕にして植棉には不適である。本縣は之を三棉區に劃分し得る。即ち趙店、舊鎮、小營一帶は西南區にして、土壤は砂質壤土、地勢は稍々高く、棉産頗る多く、米棉中棉が各相半ばしてゐる。朱仙鎮、蔡家寨、喬家莊一帶は中東區にして、地勢は大體低濕、僅かに村落附近の比較的高い所に棉田が散見せられるのみである。龍居店、楊家集一帶は東北區にして、該區は博興棉區に連接し、地勢比較的高く、従つて棉田も多く、中棉が大部分を占め米棉は少い。米棉は以前日商の配布奨励した金氏棉であるが既に相當退化してゐる。中棉は當地方在來の中棉と「西花」であるが、「西花」は纖維粗短にして且品質も劣悪である。但し繰綿率高く、耐濕力大にして、棉花仲買業者が之を購入繰綿するを喜び、従つて農民も之を栽培するのを喜ぶ状態である。

高苑。高苑は小清河の中流、錦秋湖の西北に位してゐる。南は桓臺縣と界し桓臺縣城まで三〇支里、北は舊鎮を以て蒲臺と界し、蒲臺縣城まで七〇支里、東は姚家套を以て博興と界し、博興縣城まで三〇支里、西は田鎮を以て鄒平、青城、濱縣と界し、青城縣城まで五五支里である。東西約三五支里、南北約三〇支里、略々正方形に近い。全縣面積は一、二〇〇平方支里、耕地面積は二八一、二四九畝である。

本縣は地勢平坦にして低濕なる所が多い。縣内一帶は黄土の沖積したものであつて、低濕なる地方は強度のアルカリ土壤にして、高所でも時にアルカリ性をみる。壤土が一〇%、アルカリ土壤が五〇%、砂土が四〇%を占め、一般

農作物は生長し難い。たゞ棉花は普通作物に比しアルカリに對する抵抗力が強いため、棉産地帯の棉作状況は良好である。小清河は縣の南境を過ぎ、棉花の運出に頗る便利である。

本縣の棉産は近年非常なる發達をとげ、主なる棉區は縣境の西北部、田鎮の北部、孫家集、鄭家埧一帶に分佈してゐる。田鎮附近は米棉が多く、鄭家埧附近は中棉が多く、孫家集附近は米棉が多い。品質は田鎮産が最も優秀で、華新青島工廠は同地に「瓣花處」を設置してゐる。當地方の棉花の種類は「本地洋花」及「本地中棉」が大部分を占めてゐる。粗絨の西花は極く一小部分を占めてゐるに過ぎず、脫里司棉は最近齊東棉作改良場が田鎮に配布した種子が次第に普及したもので、一般農民は續々之に置換へてゐる。將來の推廣は必ず順調に進展するであらう。

商河。商河縣は黄河、徒駭河の北岸に位し、省城の東北一八〇支里の地點にあり、縣城より東は三八支里にして惠民縣界に接し、西は四〇支里にして臨邑縣界に至り、東南は濟陽、東北は陽信、西南は臨邑、西北は德平と夫々相界してゐる。全縣面積は五、三〇〇餘平方支里、耕地面積は六八六、九五四畝である。

本縣の土壤は、壤土が三五%、粘土が一五%、砂土が五〇%を占めてゐる。南部は地勢低く、粘重にして棉産も少い。其他縣城の北部、東北部及西北一帶は多く砂質壤土に屬し、北郷龍桑寺、打狗店、仁和莊、殷家巷、杜家集、鄭莊、李家集、砂河等はすべて棉産區域である。棉花の種類は殆んど「河西花」にして纖維は粗短、細糸の原料には適せず、たゞ繰棉率が高いため多量の繰棉を得られる。此外の「細絨中棉」及「本地洋花」は僅少である。「洋花」は非常に退化してゐる故速やかに改良を加へねばならない。産出せられた棉花は、縣内の土布紡織原料及中入用に供せられる外多くは濟南に移出販賣される。

鄒平。鄒平は省城の東一七〇支里の地點に位する。縣城より東は八支里を隔てて長山縣界に接し、西は三五支里を隔てて章邱縣に接し、南は二〇支里を隔てて長山縣に界し、北は六〇支里を隔てて青城縣に接し、東南は一二支里を隔てて長山縣に界し、東北は八〇支里を経て高宛縣に界し、西南は三五支里を経て章邱縣に連り、西北は四〇支里を経て齊東縣に連る。全縣面積は二、六〇〇平方支里、耕地面積は五五二、四七六畝である。(民國二三年の同縣村莊概況調査の報告に據れば七一八、七九九畝となつてゐる。)

南部地方は山多く、縣内土壤は壤土が一五%、粘土が一五%、砂土が五〇%、アルカリ地が二〇%を占めてゐる。農民は粟を栽培する者多く、縣城の西方程遠からぬ地點に樂山澗(湖の名)がありこの附近より葦を産出する。この湖に接する一帶は概して地勢低く、毎年雨季には樂山澗が溢水して洪水を齎らす。此に鑑み建設局は杏花溝を開鑿して排水を完全にした。縣城の東部及北部一帶は概して平野にして、粘土、粘質壤土、砂質壤土が分布してゐる。本縣の棉産重要區域は即ちこの平原地帯の北部及東北の突出してゐる一部である。

本縣は南北凡そ八〇支里、東西凡そ五〇支里にして、縣城は稍々東南に偏した地點に在る。民國二〇年中央政府より頒佈せられた自治法規に依り、全縣を七區一六鎮、一四一郷に劃分し、區鄉鎮公所を設立した。本縣は二二年山東省政府より、各省縣政府建設實驗區設立辦法に據り、實驗縣區に指定された。又郷村建設研究院より、既に劃分したる區鄉鎮を一律に廢止し、全縣を一三郷、三五七村に劃分せん事を申請した。

本縣は周村に近く、商權は全く周村に奪はれてゐる。郷村に於ける個人間の貸借は、普通年利二割乃至三割である。縣政府は金融を調節すべく基金三萬元を以て金融流通處を設立し、目下預金三萬元を有してゐる。同處は一面では縣内の資金の疏通をはかり、流通の圓滿を期し、貨幣及信用の效力發揮をはかりつゝ、他方又郷村の各種經濟合作團體を救済し、彼等をして充分に能力を發揮せしめる様に努めてゐる。

同縣の棉業運銷合作社は、己に一二八個處成立し、社員數は三、〇一六人、資金は六、〇三二元である。林業合作社は二四處あり、社員一、六二五人、資金一〇〇元である。莊倉合作社は五八處あり、社員は四、四〇三人、資金は五、三四六元で、莊倉庫券を發行し、市場に流通してゐる。機械合作社は四處あり、社員は一〇五人である。其他信用合作社が三〇處、消費合作社が一處あるが、何れも急速なる發展を謀つてゐる。

鄒平の棉區は縣の北部に分佈し、小清河以北のものは、高苑、青城の棉區と相連接し、小清河以南のものは齊東、章邱の棉區と相連接してゐる。重要な棉産市鎮は花溝、孫家鎮、王伍莊、明家集等である。棉花の種類は大體齊東と大差なく、東部は米棉が多く、西部よりは中棉を多く産する。齊東棉作改良場は歷年本縣に晚里司棉を推廣してゐるが、産量品質共に優秀で、農民はその栽培を非常に喜んで居り、元來當地にあつた「本地洋花」及中棉は漸次淘汰されその姿を消しつゝある状態である。

博興。博興は小清河の中流、錦秋湖の北に位してゐる。縣城より東南六〇支里にして廣饒に達し、九〇支里にして臨淄に達し、北は一五〇支里にして利津に至り、西北は六〇支里にして蒲臺に至り、西は三〇支里にして高苑に至り、南は七〇支里にして桓臺縣界に至る。東西四〇支里、南北六〇支里にして、西南より東北の斜長は一二〇支里にして略々半圓形をなしてゐる。總面積は二、五〇〇平方支里、耕地面積は一、二二五、〇〇〇餘畝である。

本縣は南は錦秋湖に臨み、小清河が縣中央部を横斷し、山岳無く、平原地帯と稱し得るであらう。南部は地勢稍々高く、壤土、粘土が大部分を占め、小高い丘も少くない。中部は低濕にして粘土が多い。北部は壤土、粘土が多く、アルカリ地も少しある。東北に突出してゐる博昌鎮一帶は稍々アルカリ性を帯びる砂質白壤土にして植棉に好適し、本縣の重要棉産區域である。全縣の土壤は壤土が一〇%、粘土が六〇%、砂土が三〇%を夫々占めてゐる。主なる棉

産地は通濟鎮、陳戶店、純化鎮、史家口等の各地にして、就中史家口一帶は棉産が最も多い。稍々アルカリ性を帯びる砂質壤土地帯は瘠薄ではあるが、農民が施肥に異常なる努力を拂つてゐるため、畝當收穫量は常に百斤以上である。棉花の種類は「本地中棉」と「粗絨西花」が多く、米棉は非常に少く、たゞ縣城の北部一帯に見られるのみで退化甚だしく、速やかに改進を加へねばならない。

廣饒。本縣の形狀は、南北長く東西狭く、淄河と小清河が縣を貫流してゐる。本縣は渤海に臨み、土質はあまり肥沃ではなく、小清河以北は特に瘠薄甚だしい。雨量氣候は附近の各縣と大體同様である。縣城は縣の南端に在り、縣城より東は壽光縣界まで三二支里、西は博興縣界まで一二支里、南は臨淄縣界まで二五支里、北は利津縣界まで九四支里、東北は海邊まで一三〇支里である。全縣面積は約八、〇〇〇平方支里である。

本縣は山岳の起伏無く、全耕地面積は八〇三、八三一畝である。南部は地勢狭く且比較的高く、北部は廣く且低く、中部は特に低地にして所謂「夾河套」を形成してゐる。東北の海岸地帯は、元來地勢最も不良であつたが、近來黄河の泥砂堆積により、強度のアルカリ地を一變して肥沃土壤と化した。若しこの土質を充分に調査し、好適する作物を栽培したならば、將來生産の増加は計り知るべからざるものがある。小清河が縣内を東西に貫流し、東部は淄河が貫流し、水利灌漑による農地改良は頗る有望である。自動車路は南は辛店に通じ、北は牛家莊に達し、總距離は百餘支里、目下電話の架設も計畫中で、交通は至便である。本縣の土質は加里分を含み、壤土が二〇%、粘土が五〇%、砂土が三〇%を占めてゐる。耕地は比較的高い地方は砂質或は粘質壤土が多く、低濕なる地域は黒色粘土或は紅色沖積土が多い。東北部の沿海地域は、大部分強アルカリ性の土壤にして耕作不能であつたが、近來黄河の泥砂堆積し、その深さは數尺に達してゐる。本縣の棉産區域は、大部分小清河以北に在り、殊に辛集、牛家莊、高勞商一帶は植棉が最も

多い。小清河以南は土質稍々肥沃にして、近年漸次植棉が盛んとなりつゝある。棉花の種類は「本地中棉」が多く、品質は博興棉と大差がない。産出せられた棉花は殆んど張店へ出廻る。將來本縣の棉産を改進せんとするには、先づ棉區に中棉米棉の品種試験を行ひ、最適の品種を選出したる後推廣を行ひ、且棉花産銷合作社を組織する事が最も必要である。

齊東。縣城は縣の東隅に位し、鄒平縣城まで四五支里、章邱縣城まで六〇支里、青城縣城まで三四支里、惠民縣城まで九〇支里、濟陽縣城まで七〇支里である。縣内を分つて六區となし、每區に二〇郷あり、全縣に四五三村ある。第一、第六の兩區が産棉區域である。全縣面積は二、五六〇平方支里、耕地面積は四二二、二六六畝である。縣の東西の長さ四〇支里、南北の長さ七〇支里である。土壤は壤土が一三%、粘土が八〇%、砂土が七%を夫々占めてゐる。

縣内はすべて平原にして、北は黄河に臨み、中部を小清河が貫流してゐる。將來この天與の水源の利用を提唱し、灌溉を行へば、多大の利益を收め得るであらう。土質は、西部地方は砂土が多く、粘土、壤土等もあり、落花生の有な産地である。東部地方及小清河の北部は粘土が多く、壤土は比較的少い。従つて禾穀類が多く、棉は局部的に或は莊村附近に見られるのみである。然るに縣全體に就て之を觀れば、その産量は觀る可きものあり、棉田の全耕地面積に對して占める割合は、民國二三年は四〇%、二四年には六〇%に達した。主要棉區は小清河以南即ち縣境の東南部に分佈してゐる。縣城、吳莊及石店一帯は砂質壤土が多く、棉作に好適してゐる。

齊東は近年來、小清河流域各縣の棉産改良の中心地となり、山東省立棉作改良場(以前の省立第二棉業試驗場)も同地に設立せられてゐる。該場は脫里司棉の品質改良に非常な進歩を見せてゐる。近隣の各縣即ち、博興、齊東、蒲臺、濱縣、高苑(田鎮を包括)、惠民、青城、章邱、歷城、商河、平原、沂水、及び魯西の邱縣、高唐、清平、夏津等諸縣

はすべて棉種推廣の範圍に屬してゐる。該場の經常費は毎年二萬元である。

脫里司棉は本縣に於て普通每畝實棉一三〇斤以上の收穫がある。農民は收益多きため、漸次中棉栽培地及び植棉に適する穀作地に米棉を種植してゐる。齊東に於ける中棉には「齊東細絨」、「西花」等があるが逐年減少しつゝある、米棉には脫里司棉があり棉作改良場の推廣品種にして、質量共に佳良である。「本地洋棉」は退化甚だしく殆んど淘汰されて跡を絶ちつゝあり、殊に近年脫里司棉の栽培が成功しつゝある趨勢より觀れば、齊東は久しからずして脫里司棉の純種區となるであらう。

霑化。霑化は東北は渤海に臨み、利津、濱縣、陽信、無棣各縣に隣接し、面積は九、七二〇平方支里、平野が四、六三〇平方支里を占め、耕地面積は三、八六、七一二畝である。土壤は、壤土が一〇%、粘土が一五%、砂土が七五%を占めてゐる。

本縣の植棉は集中せられた棉作地帯と稱すべきもの無く、僅かに縣城附近、流鐘、泊鐘等一帯に散見されるのみである。棉花の種類は「本地中棉」が多く、米棉は晩熟なるため種植してゐる者は極く少數である。各地ともアルカリ性強く、地味瘠薄にして、産量少く、普通每畝の收穫は六、七〇斤である。併し普通作物に比較すれば有利である。産出棉花は大部分當地方の土布紡織原料及中入棉用に供せられ、少量が市場に輸送販賣される。

章邱。章邱は久しい以前より山東省に於ける富裕なる縣の一つに數へられてをり、膠濟鐵路が縣中央部を東西に貫通し、小清河が張家村附近より流入し、水陸の交通は共に便利である。繡江河が縣城の北部より南縣境にかけて貫流してゐるので、灌溉を提唱すれば更に發達するであらう。南部は山嶺の起伏多く、土壤は粘質黃壤が多く、頗る肥沃にして、到る處穀田が見受けられる。棉花の産量は、北部が比較的多く、近年朱葛務、辛莊一帯にも漸次栽培する者



が増加してゐる。本縣縣政府は南部を米棉區となし脱里司棉を推廣してゐるが、成績頗る佳良で將來の發展が期待されてゐる。北部は砂質土壤にしてアルカリを含み、主要棉區には中棉が多い。辛家寨は棉花集散市場にして、同地より大車によつて張店へ搬出される。棉種には「本地中棉」、脱里司棉及「本地洋花」等がある。脱里司棉は近年齊東棉作改良場より推廣されたもので、産量多く、品質優良にして、市價も高いため、農民はその栽培を頗る喜んでゐる。將來中棉及「本地洋花」は漸次淘汰される運命にあり、縣内の棉田面積は増加の傾向を示してゐる。

惠民。惠民は附近各縣の商業の中心地にして、縣境には壤土多く、植棉に適してゐる。然るに近年見るべき發展もせず、未だに集中棉區も無い有様である。たゞ東南部の濱縣に近接する胡家集一帯は植棉する者が稍々多い。各地とも中棉を栽培してゐるが自給自足の状態より脱する事が出来ない。中棉には「本地中棉」及「西花」があり、米棉には「本地洋花」があるが退化甚だしく、脱里司棉は僅少である。

樂陵。樂陵の主要棉産地は縣境西北部即ち河北省との境界兩津河に臨む一帯である。土質は砂質壤土にして棉作に好適してゐる。産出棉花は當地方の紡織原料及中棉用に供せられる外、「棉販」により繰棉せられ、大車にて滄州、泊頭鎮等に運出される。棉種には「本地小花」、「本地洋花」等がある。

陵縣。陵縣の棉産區域は主として縣境東部に分佈してゐる。即ち滋博店附近、馬家集、鹹場店等一帯はすべて棉産地域である。棉花の種類は大體臨邑と同様で、收穫された棉花は繰棉商が收買し、繰棉したる後包装を施して濟南に輸送販賣する。

德縣。德縣は運河が縣境を縦貫し、津浦鐵道が濟南へ直通し、水陸交通の要衝である。本縣の棉區は河北の吳橋棉區と相連接し、主として縣城附近艾家坊、小屯、第二屯及遠家橋一帯に分佈してゐる。土壤は砂質壤土多く、主なる

棉花の種類は「金鐘白」(別名は「河西花」と稱す)である。米棉は「本地洋花」にして農民は俗に大花と稱してゐるが、品質劣悪なるもの多く、速やかに優良なる棉種を移入し、以て産量品質の根本的改進を期すべきである。棉花は一先づ縣城及黃河涯の花棧(棉花問屋)に集貨された後、濟南或は天津へ運出される。

青城。本縣には主要棉區と稱すべきものは別に存在せず、棉花は各地に散見されるのみにして、産額多からず、未だ農民の自給自足の状態を脱しない。たゞ縣境東部の鄒平、高苑、濱縣等に連接してゐる地域即ち石槽、義和鎮、呂坡莊等には棉花を栽培してゐる者が少くない。田鎮は附近の棉花集散市場である。棉花の種類は「本地中棉」、「本地洋花」等があり、脱里司棉は最近試作されてゐるがその數は僅少である。

利津。利津の棉産は從來非常に發達してゐたのであるが、二回の黃河氾濫により、棉田は殆んど淹没して了つたのである。新たに沖積せられた土壤は植棉に適せず、穀作に置換へられたものが多い。本縣の棉花は、現在自給自足の域にさへ達せず、棉花市場への影響は少い。

陽信。本縣の棉産は僅かに自給自足の状態に在り、集中棉區は存在しない。棉種は「本地中棉」が多く米棉は極めて少い。最近當地方の人士は棉業に著しく注意を拂ふ様になつて來た。土壤は白砂壤土が多く植棉に好適してゐるので將來の産棉區として期待されてゐる。

濟陽。本縣は産棉多からず、その棉區は縣城の東北三〇支里の地點にある曲堤が中心をなしてゐる。土質は砂質壤土にして、中棉が多く栽培せられ、僅かに地方の需要を充たしてゐるが、優良棉種の推廣に努力すれば、本縣の棉産は發展の可能性がある。

德平。低濕なる地に富み、土質粘重にして黒色を帯び、僅かに縣東南部沙河の沿岸一帯のみが砂質壤土にして棉産

地帯である。懷仁及理合務が棉花市場であるが、僅かに當地方の需要に供せられるのみである。本縣の棉區は商河及臨邑兩縣の棉區と相連り、棉花の種類も商河臨邑兩縣と相同じく、粗絨が多い。

臨邑。本縣の棉産區域は、縣城附近及縣東北部宿安一帶である。土壤は砂質壤土が多く、全部中棉のみを栽培してゐる。主要品種は「河西花」で、纖維は粗短ではあるが、色は潔白で、繰棉率は非常に高く一〇〇分の三四・五である。細絨の中棉は極く少数である。又縣城以北張莊一帶は土地肥沃にして、米棉を種植してゐる者が割合に多い。聞く所に依れば「河西花」は運河以西地方の棉種にして品質佳良を以て知られ、米棉は「本地洋花」にして繰棉率低く、棉花商はその取引をあまり歓迎しないとの事である。棉花の取引は、軋花戸（繰棉商）により行はれてゐる。即ち業者は農民の實棉を收買し之を繰棉包装して、大車により濟南に運送賣却してゐる。

(二) 棉花の生産と分佈

甲、面積

魯北區の齊東、鄒平一帶は米棉新種の試験區域に屬し、成績良好である。これが爲棉田も漸次増加しつゝあり、且つ氣候好適にして、土壤は肥沃、收穫は豊富、品質は優良にして、實に全省棉花の冠たり。左に魯北區主要産棉縣の棉田面積を示さう。

高苑。高苑縣内の棉田は各村落到分散してゐるが、大體左の二區に分ける事が出来る。

(一) 孫家集、鄭家捻一帶は、棉田が全耕地の五〇%を占め、計三五、〇〇〇畝に達し、内米棉が一五、〇〇〇畝、中棉が二〇、〇〇〇畝を占めてゐる。

(二) 田鎮一帶は、棉田が全耕地の六〇%を占め、その面積は六、五〇〇餘畝に達し、概して米棉のみである。中棉

も從來相當あつたのであるが賣行不良のため漸減してゐる。

其他各村莊に散見せられるものも可成りの數量に上り、本縣の棉田面積は總計七〇、〇〇〇畝以上に達する。

齊東。齊東縣内には至る所に棉花が作られてゐるが、石店、吳莊以南が最も多く、棉田は約六〇、〇〇〇畝にして、全耕地の五〇%以上に當つてゐる。

鄒平。本縣は小沽河以南及小沽河以北の兩區に分たれる。小沽河以南は米棉が多く、中棉は極めて少い。小沽河以北は高苑、田鎮に近接する一帶の外は多くない。棉田面積は六八、〇〇〇餘畝に達する。

章邱。朱葛務、辛家寨一帶が多い。棉田面積は一八、〇〇〇餘畝に達し、内中棉が一〇、〇〇〇畝、米棉が八、〇〇〇餘畝を占めてゐる。

博興。本縣の重要棉區は、博昌鎮を第一とし、通濱鎮之に次ぎ、純化鎮より縣城に至る一帶更に之に次ぎ、棉田面積は一〇〇、〇〇〇畝以上に達する。

廣饒。棉田面積は約八〇、〇〇〇畝である。

商河。棉田面積は約九〇、〇〇〇餘畝である。

蒲臺。棉田面積は二〇九、〇〇〇餘畝である。

濱縣。濱縣の棉田面積は二三五、〇〇〇餘畝に達し魯北區に冠たり、實に黃河下流北岸一帶の棉産の中心地である。

惠民。棉田面積は一六、〇〇〇畝である。

霑化。棉田面積は七六、〇〇〇畝である。

德平。棉田面積は六、〇〇〇畝に達する。

全魯北區の棉田面積總計は一、〇三〇、〇〇〇餘畝に達してゐる。

乙、産 量

魯北區の平年産量は約三〇〇、〇〇〇擔(綠棉)であるが、この内濱縣が最も多く約九〇、〇〇〇擔前後、蒲臺が之に次ぎ約五〇、〇〇〇擔、高苑が約三〇、〇〇〇擔、商河が二六、〇〇〇擔、鄒平が二五、〇〇〇擔、博興が二四、〇〇〇擔、廣饒が約二〇、〇〇〇擔、齊東が約一八、〇〇〇擔、霑化が約一五、〇〇〇擔、惠民が約三、〇〇〇擔、德平が最も少く年約二、〇〇〇擔を生産する。以上は民國二二年の黄河水災以前の大體の數字であるが、水災後收量は可成り激減を來たしてゐる。

丙、栽 培 法

魯北地方は春季の氣温上騰、秋季の氣温降下が、魯西魯南地方に比して遅く、従つて濱縣、蒲臺、高苑、鄒平、齊東等の諸縣では穀雨節前後に大抵播種する。魯西の年雨量は約二〇吋、魯北は年二七吋である。魯北區で用ひてゐる肥料は厩肥、堆肥、人糞、豆粕等で、施肥は基肥、追肥の兩方法を採つてゐる。收穫期は普通霜降節であるが、白露節より寒露節に至る間を收穫期とする所もある。

丁、棉農收支の比較

近年農産物の價格は日を追ふて低落の一路を辿つてゐるが、勿論棉花もこの例外たり得る事は出來ない。併し棉作は他の作物に比較すれば、矢張り有利である。魯北一帯の歷年各種作物の收益は、依然植棉が最多である。大豆も相常收益があるが、之を棉作に比較すれば遠く及ばない。其他の作物即ち高粱、小麥、粟等は利益を擧げ得ないのみか反つて缺損してゐるものが多い。

棉花の生産費は、種子、肥料、勞役費、役畜費、賦税等の數項に分別される。魯北棉區の棉花生産費は大體魯西區と同様である。勞役費の支出が最も多く、肥料、賦税、役畜費等之に次ぎ、種子の支出が最も少い。中棉米棉の生産原價は相等しく、副産品は主産品價格の二〇分の一である。魯北一帯の中棉の生産費は同様であるが、収入の點に於ては米棉は中棉より多い。

戊、農 民 金 融

近年農村は破産し、金融は梗塞し、農民は均しく「告貸無門」の苦しみに喘いでゐる。その結果利率は益々高くなり、農民は愈々缺損を續けて生活苦のドン底に突き落されるのみである。魯北一帯の農民金融方法は借貸、借糧、典地、錢會、典當、合作社等六種の外に出でない。その詳細は既に第二編第七章中で説明したから此處には再述しない。茲には特に魯北の棉花貸款情況並びに各縣の金融流通組織につき詳述を試みやう。

山東省建設廳と中國銀行中棉歴記は、齊東、鄒平縣で棉農貸款を行ひ好成绩を収めた。民國二三年の貸款は、齊東に於ては一五五、〇六三元、鄒平に於ては一三〇、五七七元に達した。民國二三年の米棉貸款は二期に分れた。一つは棉苗貸款で、各社員の棉苗が出揃つた後、畝を單位として貸付し、毎畝につき大洋三元を貸出した。一つは秋季の運銷貸款で、先づ各合作社より棉花收穫の詳細確實なる豫想量を報告し、聯合會より係員を派遣して再調査をした後貸款を行つた。その貸付額は多くとも棉花時價の七割(春季の毎畝につき三元の貸出を含む)を超過する事は出來ない。民國二三年の齊東棉業合作社貸款は、第一期は四月二一日に行ひ貸出合計六四、四〇〇元、第二期は六月一〇日に行ひ貸出合計九〇、六六三元であつた。鄒平棉業合作社は第一期が五〇、八二六元、第二期が七九、七五一元であつた。此等の貸款は、月利八厘で中國銀行より借入れ、聯社より月利九厘で村社に貸付し、村社は月利一分で農民に貸出す

のである。然るに民國二四年齊東合作社は月利九厘で農民に貸出した。これは二三年に合作社が純益を得た爲、規定の利率より一厘を引き、純益は社員に返還する原則を實施したからである。齊東合作社は現在各村莊への貸出額を最高五、〇〇〇元、最少四〇〇元と規定してゐる。

棉苗、運銷兩貸款の外、民國二三年鄒平縣各社の社員が繰棉機の購入資金を需めたので、特に繰棉機貸款を行ひ、繰棉機一臺につき二〇元を貸出した。動力を使用するものには特に斟酌して貸出額を増し、償還期間は何れも一箇年とし、利息を取らない。この貸款に要する資金は縣政府の繰棉貸款資金を借用した。

濱縣棉業運銷合作社は民國二四年一月に成立し、北鎮李尙海莊に設けられた。村社は合計一三六處、社員約三、〇〇〇餘人である。中國銀行は二〇萬元を投資し、利息を月利八厘と定め、期を分ち貸出せんとしてゐる。その組織は齊東と同様である。但し調査終了當時該社の規則はまだ規定されてをらず、貸款もまだ行はれてゐなかつた。

蒲臺には米棉產銷合作社があるが、地元の錢莊、「花販」等の棉花貸款を經營するもの多く、その勢力が甚だ大きい。この貸款の時期は陰曆四、五月頃が多く、貸出額は棉田の多寡により定まり、普通所有棉田の半數が貸款の對象となる。即ち棉田が一〇畝あれば、その半數五畝に對する費用の貸款が請求出来るのである。貸款に際しては、紹介者あり且つ、借主のため保證をなす事を要し更に前以て棉花價格及秤の標準(大概二〇兩秤である)を規定する。その後價格に騰落變動があつても、借主者は規定の期日に必ず棉花を渡さねばならない。民國二三年には一二、三元(實棉一〇〇斤)で先物契約をした者が頗る多かつた。

魯北棉區の合作社は、建設廳より棉農に督促して組織し、中國銀行より貸款したものが多し。二四年建設廳は引續き齊東等一二縣に米棉の栽培を擴充する事を決定し、齊東の棉種子百六十萬斤を各縣へ分配する事となつた。中國銀行



もこの舉に對し賛意を表し、繼續して百萬元を投資し、各種の棉農貸款を辦理する事を決定した。月利は八厘とし、肥料貸款、勞工貸款、收花時期の抵當貸款の三種に分ち、聯合社より月利一分で農民に貸付し、差額の二厘を合作社の諸經費に充當するのである。その詳細なる情況及び建設廳と中國銀行との契約書は第四編に記載されてゐる。

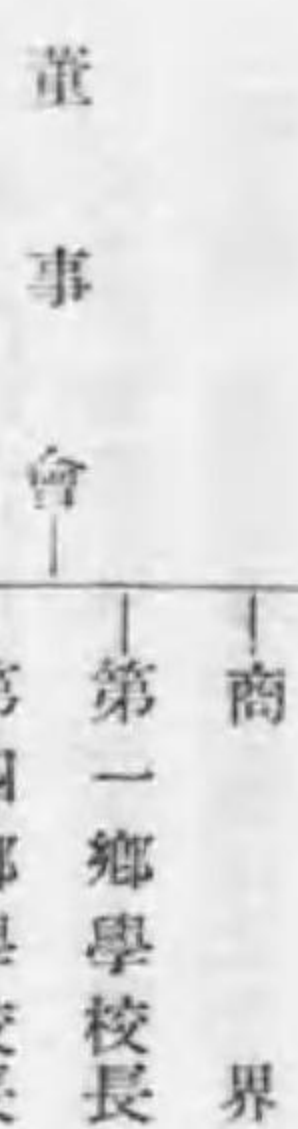
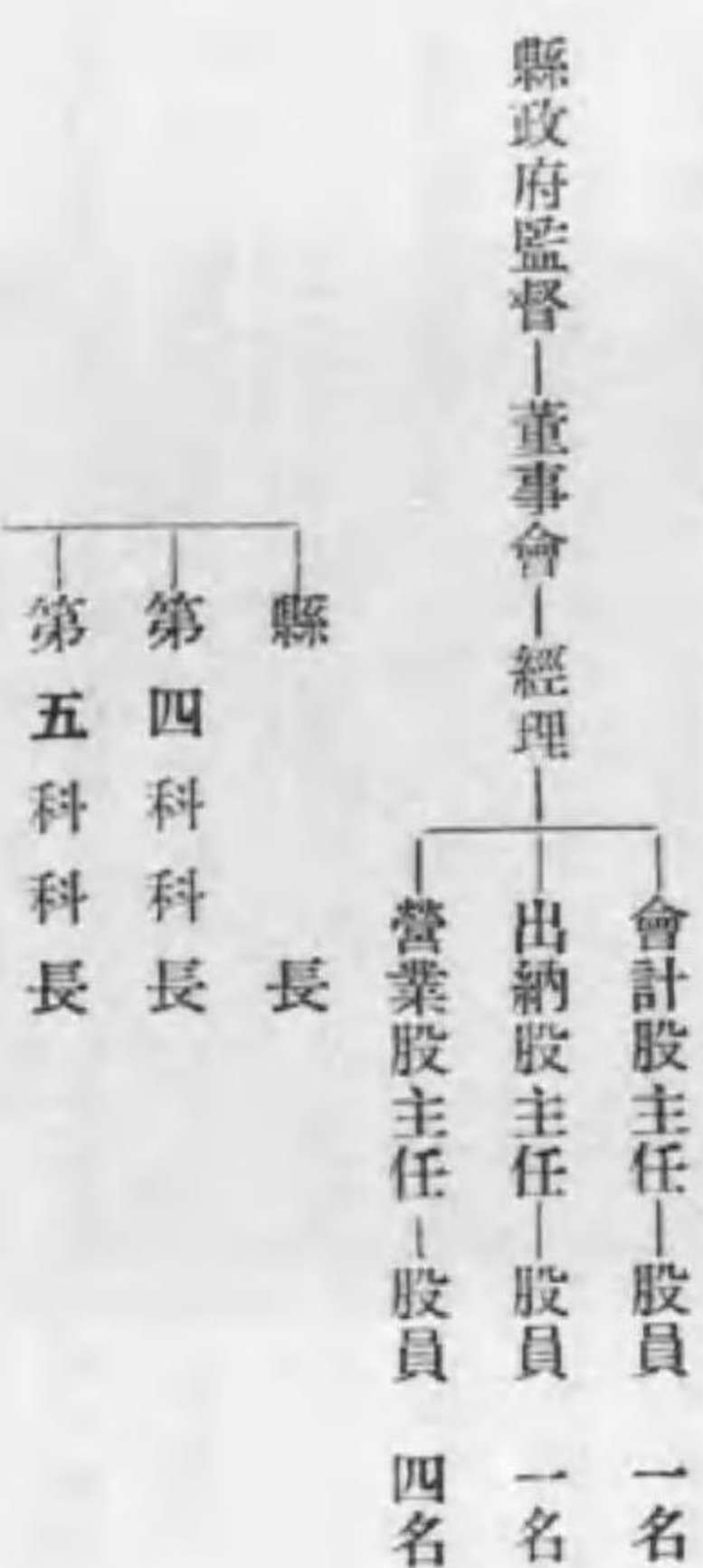
棉業產銷合作社の外、農民の資金運用に便する爲、鄒平縣政府には金融流通處、齊東縣政府には農民貸款所、蒲臺には縣立農民貸款所がある。

鄒平の金融流通處は民國二二年八月に成立し、諸預金、貸金、爲替業務等を辦理してゐる。同時に倉庫に在庫する穀物を標準とし、倉庫證券を發行し、全縣に流通してゐる。

その見本は前頁に示す如くである。

この倉庫券は現在まだ一、二の郷で實行されてゐるに過ぎない。各郷とも二、〇〇〇元を限度とし、一角、二角、三角の三種あり、莊倉の穀物在庫量を發行の標準としてゐる。

金融流通處は縣政府之を監督し、董事會が之を指導する。その組織は左の如くである。



該處資金の來源は、縣政府より融通される基金一〇〇、〇〇〇元で、三年に分つて全額融通される。その預金、貸金、業務狀況は、毎年縣政府より省へ納付される金の内金融流通處の手を經るものが一四〇、〇〇〇元を下らず、地方款九〇、〇〇〇元、契稅款三〇、〇〇〇元、豆油稅一、二〇〇元等を代理預りし、之等にはすべて利息をつけず且つ隨時流用し得、此外教育基金七八、〇〇〇元の預金あり、その内三〇、〇〇〇元は月利六厘を附し、殘額は保管の責任のみを負ひ利息をつけない。但し流通處が代理して貸出す場合は、利率は最初借款者へ貸した利率を標準として預主に對して支拂をなし、少しも割引をしない。該處の民國二四年の貸款には左の三種がある。第一は信用合作貸付で、合計三、六〇〇元、月利一分である。第二は商界貸款で、合計三〇、〇〇〇元、利率は最高一分五厘、最低九厘、普通一分二厘である。第三は農民貸款で、合計五七、〇〇〇元、利率は最高一分五厘、最低一分、普通一分四厘前後であつていづれも穀物を抵當に入れる。鄒平金融流通處の大略の情況は前述の通りであるが、茲に金融流通處の簡章を掲げて讀者の參考に供しやう。

鄒平金融流通處簡章

第一條 本縣は農村金融を調節し、農村貸利率を軽減し、本縣の建設事業を推進する目的を以て、農村金融流通處を設立す。

第二條 金融流通處は本縣の地方公立機關にして、鄒平城内に置く。必要に應じ、本縣の農民取引繁盛なる地方に代理處を設くる事を得。

第三條 資本金を拾萬元と定め、縣政府より先づ三萬元を支出して營業を開始し、殘額は三箇年内に繼續調達するものとす。

第四條 營業範圍を左の如く規定す。

甲。諸預金及貯蓄の收納。

乙。各種農村貸出の經營。

丙。本縣各機關、各團體の基金及財産の保管。

丁。農産品賣買後に於ける決済の管理。

戊。農産品と關係を有する期票(約束手形)或は證券の經營。

己。倉庫事業の經營。

庚。代金の代理取立及支拂。

辛。其他の業務は董事會の議決を経るを要す。

第五條 金融流通處は縣政府の委託を受け、縣庫及公債の募集償還事務を取扱ふ事を得。

第六條 董事會及監察員を設け、業務を監理す。その規則は別に之を定む。

第七條 經理一名を置き全處事務を綜理す。縣長より適當なる人物を選出し、董事會の承認を経て之を任用す。任期は三箇年とし、再選重任するを妨げず。

第八條 經理の下に營業、出納の二股を設け、各股に主任一名を置き、經理が董事會と相談審議して之を任用する。

第九條 三個月毎に決算を行ひ、毎年十二月末を總決算期となし、左記書類を作成し董事會及監察員にて裁定の上縣政府に報告す。

甲。財産目録

乙。資金及負債表

丙。營業報告書

丁。損益計算書

戊。剩餘金分配表

第十條 年末決算にて剩餘金の有る場合は、之を十二等分し、十二分の五は本縣の建設費に充て、十二分の四は公定積立金となし、十二分の三は處内従事員の獎勵金となす。

第十一條 本簡章は縣政府より山東鄉村建設研究院に申請し、その證議許可を得たる後施行す。

齊東縣立農民貸款所は、基金七〇〇元で建設科の融資に係り、貸付方法は合作社の貸款方法と同様で、利息は月利六厘、貸付は信用合作社に委託してゐる。

蒲臺農民貸款所は、基金一、〇〇〇元で縣政府建設科の融資に係る。先づ信用合作社に貸付し、合作社より更に農

民に貸出しを行ひ月利八厘である。

### (三) 棉花の運送販賣

#### 甲、集 散 情 況

張店は魯北の重要棉花市場にして、小清河流域及黃河以北濱縣、蒲臺等諸縣の棉花の集散地である。張店の毎年集貨量は約一三萬俵に達する。その集貨は、高苑、博興、廣饒より來るもの約三割を占め、鄒平、齊東、章邱より來るもの約二割を占め、濱縣、蒲臺、利津より來るものが約五割を占めてゐる。張店棉花市場概況に關しては本編第二章に之を詳述する事とし、此處には魯北の重要集散市場たる鄒平縣の孫家鎮、濱縣の北鎮、高苑縣の田鎮、及び齊東、蒲臺、利津等に關し分述しやう。

孫家鎮は鄒平縣城の北方四〇支里の地點に在り、黃河下流北岸一帶の棉花集散地である。濟南の復成信花行（花行は棉花取扱店）、及青島の華新紗廠（紗廠は紡績工場）等は當地と來往し代表者を派遣して棉花の買付をなしてゐる。調査年次に於ては相場悪く、未だ派遣員も來てゐなかつた。取引の最盛期は一〇、一一、一二の三個月にして、通常期は八、九、一、二、三、の五個月、閑散期は四、五の兩月である。花店（棉花店）の主なるものは、鴻昌棧、鴻昇棧、德盛永、益和恒、義元等にして、其他二〇餘戸ある。鄒平棉業運銷合作社は孫家鎮に繰棉機一〇臺を有し、一日實棉三、〇〇〇斤の繰棉能力を有してゐる。

鄒平縣の棉花は一部分が地元消費に充てられる外、章邱縣境に接近してゐる地方では農民が自家に繰棉機を設備してゐる者が多く、各集市で實棉を收買し、自ら繰棉し、繰棉を章邱の辛家寨に運出し、該鎮に臨時駐在する青島或は濟南の花棧（花棧は又棉花棧とも稱し、棉花仲介店なり）に賣却してゐる。孫家鎮に接近してゐる地方では、孫家鎮に

駐在する花棧に販賣し、高苑縣田鎮に接近する者は田鎮に駐設する花棧に賣却し、又半プレスして軟俵となし、張店に搬出する者もある。孫家鎮の花店の收買せる棉花は、多く張店及青島に販運される。

北鎮は濱縣の東南部に在り、蒲臺縣境に近接し、全年の棉花移出高は一五萬擔に達してゐる。取引の最盛期は九、一〇、一一の三個月で、閑散期は二、三、四、五、六、七の六個月である。北鎮には花行が一四戸あり、即ち德盛昌、福聚祥、鴻祥、忠和祥、信康、泰盛東、福泰恒、三義成、永和、同茂信、復興、同來福、東聚棧、泰祥等で毎年各家とも約四〇萬市斤前後を收買してゐる。以上一四戸の花行を除く外、軋花店（繰棉店）が四〇餘戸あり、繰棉機三〇臺以上を備へてゐるものが五戸、一五臺以上二〇臺以下を備へてゐるものが一六戸、五臺より七臺までのものが二〇戸あり、この外泰祥號花行は八馬力の發動機を有し、一日一三俵乃至一五俵の繰棉能力を有してゐる。一俵は磅秤の一五〇斤である。

年々北鎮に來て棉花を收買するものに、濟南の崇實、慎昌、義興、中棉歴記の諸行及び青島の華新紗廠がある。毎年の購買力は總計五萬俵に達し、一俵の價格は四〇元前後である。

齊東棉區内の各村落では、「軋花販」が多く、彼等は繰棉機を設備し、集市にて農民より實棉を購入し、自ら繰棉し包装を加へ軟俵となし、荷車で張店へ運出するか或は鄒平縣孫家鎮に賣出してゐる。該鎮には常に青島の華新紗廠及濟南、張店の「花行」の派出員が駐在し繰棉の收買に當つてゐる。齊東棉作改良場は純良棉種を採集するために、華新紗廠と繰棉合作契約を結び、同廠より係員が棉作改良場に來て棉花の收穫、繰棉を行つてゐる。

齊東には合計九個所の集市がある、即ち縣城、吳莊、長福鎮、雙堂鎮、張虎鎮、延安鎮、石店鎮、駱家鎮、曹廟頭等にして、棉花の取引は多く縣城、吳莊の兩鎮で行はれてゐる。

齊東中棉歴記軋花廠は、二三年一〇月に成立し、建物を除き創設費に二萬元を投じ、繰棉機三〇臺を設備し、一日の繰棉能力は四、五〇萬斤に達し、外に打包機が大小各一臺あり、大きい方で一日一五〇俵乃至一六〇俵プレスし得、小さい方で一日六、七〇俵プレス出来る。従事員は合計一二〇名である。營業最盛期は一〇、一一、一二、一月の四個月で、閑散期は四、五、六の三個月である。

蒲臺には趙店、舊鎮、小營、銅碑鎮、朱錢鎮、魚林、蔡家寨、喬家莊、曹家店、麻灣、三叉等一一個所に集市がある。棉花市の最も盛んなのは、曹家店、舊鎮(市日は四日、九日)、小營(市日は一日、六日)等である。取引の最盛期は九、一〇、一一の三個月にして、通常期は一二、一、二、三の四個月、閑散期は四、五、六、七、八月の五個月である。當地方の小販(小資本を以て自ら收買に歩き廻る中間商人)は自ら繰棉、荷造して一二〇斤乃至一三〇斤位の小依となし、張店、周村等の「花行」に賣出してゐる。「花行」は更に之を改装し、濟南、青島等に運出するのである。

廣饒の棉花は、多く農民自ら共同出資して繰棉、荷造し、濟南、青島、張店等に賣出してゐる。博興の博昌鎮は廣饒棉區と相接するを以てその運銷情況は大體廣饒と同様である。

高苑の棉花は、一部分が地場消費に充てられる以外は、各地の市鎮に在る小規模の「軋花廠」が實棉の儘收買し、繰棉、荷造して張店、青島、濟南等に賣出す。華新青島工廠は高苑城内及田鎮の兩地に華新青島工廠辦花處を設け、棉花出廻期には係員を派遣し、各小軋花廠が代理集貨したのを收買する。張店に出廻るものは多く日本花行に賣り、濟南に出廻るものは、小清河の舟運により濟南に搬出し、一先づ倉庫に寄託した後賣出す。

#### 乙、運送方法及運賃

魯北の棉花は、濟南へ運送するものは多く小清河の舟運に依つてゐる。これは運賃低廉のためである。青島へ出荷

されるものは多く張店に集貨され、汽車で青島へ運ばれてゐる。茲に魯北棉區の棉花運送方法及運賃を分述しやう。

棉花は、北鎮より張店まで輸送されるのに、陸路一四〇支里、一俵の運賃一元二角である。北鎮より濟南までは水路二八〇支里、一俵の運賃は一元五角である。牙佃(仲介人の手数料)は實棉一、〇〇〇斤につき二元で、買主が之を負擔する。又棉花價格の騰落如何に係はらず、取引値段により印花費(收入印紙税)を納めねばならぬ。即ち一元より一〇元までに對し印花税一分を貼布し、買主の負擔と云ふ事になつてゐるが、實際は脱税して「印花」を張らぬものが多い。

蒲臺の棉花は張店へ出廻るものが大部分を占め、舊鎮より張店まで一二〇支里、一俵の運賃は七角である。周村に至る距離も同じく一二〇支里、荷車にて一俵の運賃七角を要する。高苑、博興に至るにはすべて大車(牛、馬、驢、騾により牽く大八車)によるが、前者は距離四〇支里、一俵の運賃五角、後者は距離三八支里、運賃は五角である。濟南へ運出するには、陸路にて博興、高苑等に至り、更に水路小清河によるか、或ひは黄河により洛口まで運搬するのである。

一般に棉花相場の高い時は汽車により運送し、相場が下落すれば水路による。これは水路の方が陸路より運賃割安となるためである。

齊東の棉花は、濟南に出廻るものは小清河により、張店へ出廻るものは大車による。孫家鎮の棉花運送方法も齊東と同様で、その運賃は極めて低廉にして、孫家鎮より小清河岸まで僅かに一俵六分、濟南までの運賃は一俵二角である。埠頭は坡莊に在り、孫家鎮より僅々三支里である。陸路張店へ至るには、普通運賃七、八角、降雪の折には一元



位となる。

左に魯北棉區の各縣運送情況を表示しやう。

魯北棉區運送情況一覽表

縣別	仕向地	運賃	運輸情況
章邱	張店、周村	濟南までの舟賃一艘二〇元。一〇〇斤につき一角	小清河の民船による
鄒平	張店、周村	濟南まで一、〇〇〇斤につき一元五角	驢馬車による
齊東	張店、周村	張店まで一、〇〇〇斤につき三元	小清河の民船により濟南へ 大車により周村、張店へ
博興	張店	一依約一元	大車による
高苑	張店、濟南	張店まで九〇支里、一依につき八角 濟南まで二四〇支里、一依につき三角	大車により張店へ 小清河の民船により濟南へ
濱縣	周村、張店	濟南まで一〇〇斤につき二角 周村、張店まで一〇〇斤につき一元五角	黄河の民船により濟南へ 大車により張店へ
濰縣	周村、張店	一〇〇斤につき一〇〇支里毎に一元乃至一元二角	大車により周村まで運び同地より膠濟線にて濟南へ 大車又は民船により天津へ
蒲臺	周村、張店	一〇〇斤につき一元三角前後	大車及黄河の民船による
商河	濟南、張店		大車による

第二節 魯西區

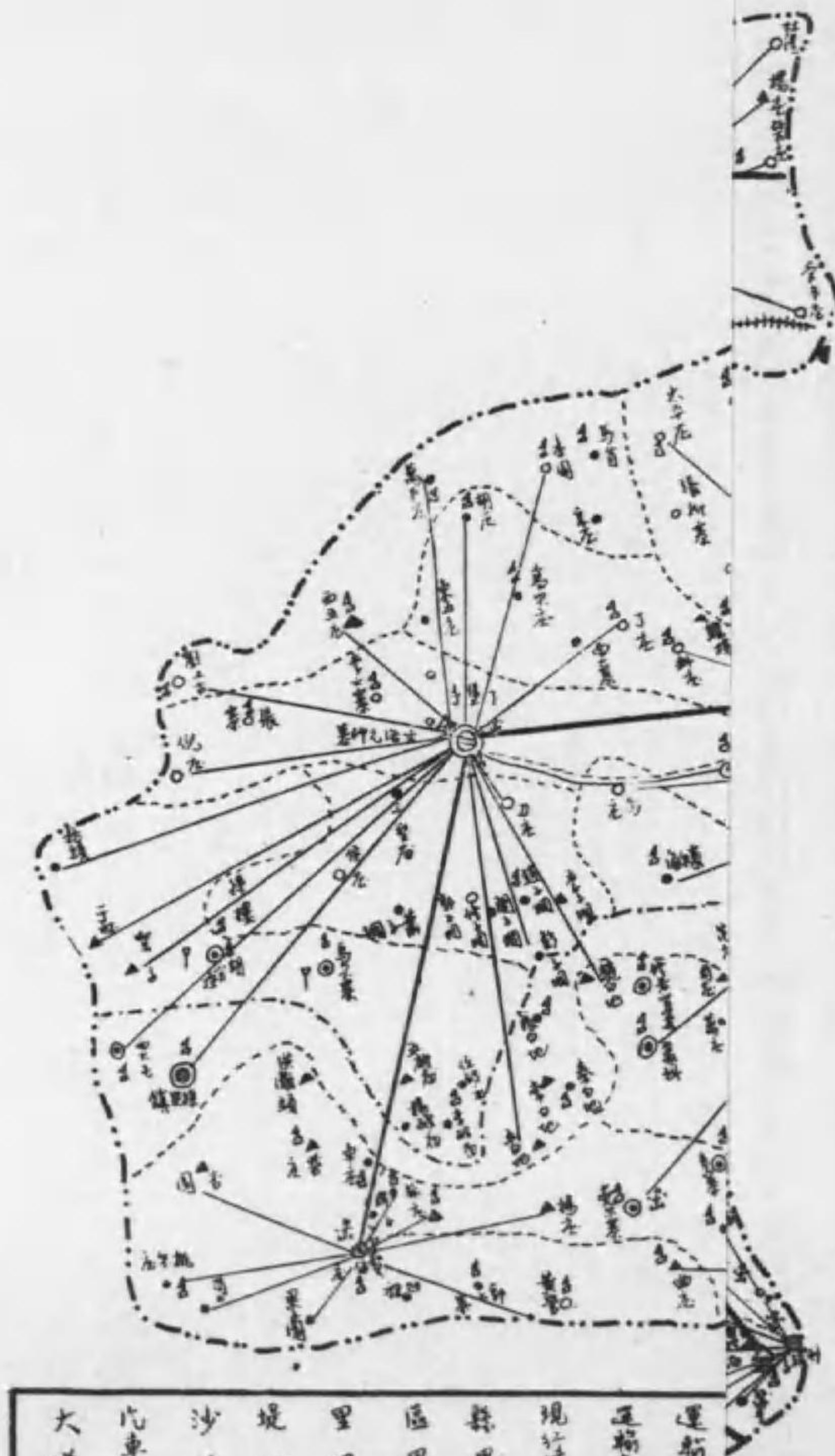
山東省三大棉區の内、魯西區の產量が最も多い。特に臨清はその產量に於て魯西區各縣の冠たり、同縣棉田面積は約七〇萬畝に達し、實棉の年產額は約七〇萬擔である。夏津、高唐等之に次ぎ、棉田は各四〇餘萬畝にして、棉產は各四〇餘萬擔である。其他清平、館陶、冠縣等は二〇萬畝乃至三〇餘萬畝にして、產額は不同であるが各一、三〇萬擔前後である。棉花の種類は米棉、中棉の二種あり、地方農民は前者を「大花」、後者を「小花」と稱してゐる。「大花」即ち米棉種には金氏棉及脫里司棉の二種がある。何れも纖維は細く長く、金氏棉は纖維の長さ四分の三吋、繰棉率三三%にして脫里司棉は纖維の長さ八分の七吋、繰棉率は二九%乃至三二%である。

(一) 概況

魯西區の各重要棉花產地概況を左に分述しやう。

臨清。臨清は地勢平坦にして、縣の西部及北部には低濕地が多く水害を被り易い。縣城は省城濟南の西北方に位し、萬國子午線東經一一六度一二分、北緯三六度五五分の地點に在る。縣の境域は、東西約八二支里、南北約六〇支里、面積四、二二〇平方支里である。臨清より省城濟南まで二八〇支里、北京まで八〇〇支里、南京まで一、六〇〇支里、東は清平縣界まで一二支里、同縣城まで七〇支里、南は堂邑縣界まで三〇支里、同縣城まで八〇支里、西は河北省曲周縣界まで七〇支里、同縣城まで一四〇支里、北は河北省清河縣界まで一五支里、同縣城まで五〇支里、東北は夏津縣界まで二〇支里、同縣城まで六〇支里、東南は清平縣界まで二〇支里、西南は館陶縣界まで三〇支里、同縣城まで七〇支里、西北は河北省威縣界まで六〇支里、同縣城まで九〇支里、河北省清河縣界まで二〇支里である。

# 臨清縣棉花運銷



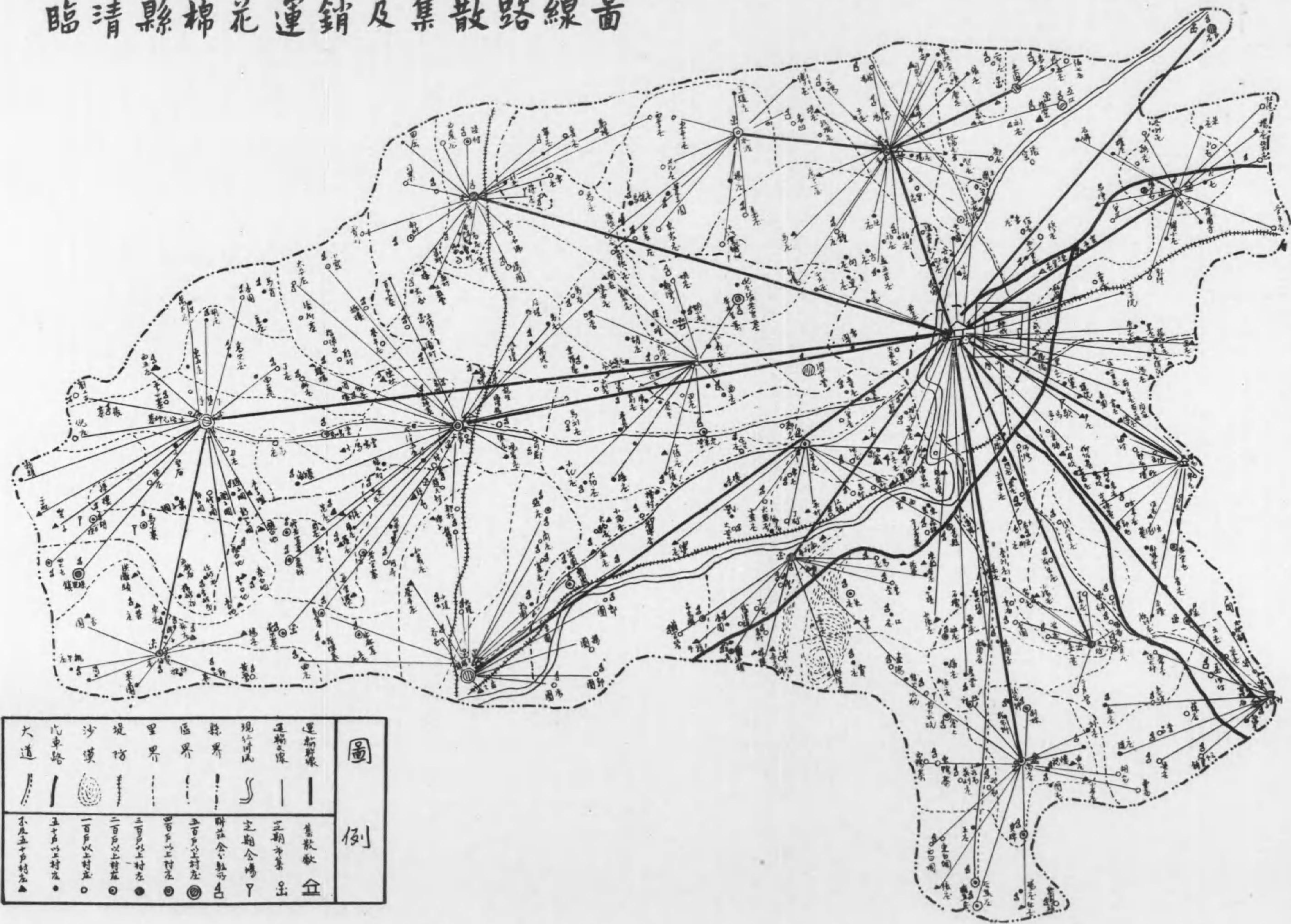
運銷路線	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
正期棉	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現行河	—	—	—	—	—	—	—	—	—
縣界	—	—	—	—	—	—	—	—	—
區界	—	—	—	—	—	—	—	—	—
里界	—	—	—	—	—	—	—	—	—
堤防	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沙漢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
汽車路	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大道	—	—	—	—	—	—	—	—	—

本縣縣城は南運河と衛河の合流點に臨み、南運河の大水源は此處より發し、沿路に水門ありて開閉頗る嚴重にして流水の調節をなし、運河は衛河の水を容れて始めて水量豊富となるのである。故に昔南より來る漕糧（清の制に山東河南、江蘇、安徽、浙江、湖北、湖南、奉天の各省より徵收して京師に輸漕する米豆を云ふ）の運送に當る「漕船」が當地を過ぎる事を「出口」と稱してゐた。この地は衛河の門戸を扼し、上行は道口に通じ、下行は天津に至り、常に帆檣林立、百貨輻輳して殷賑を極めてゐる。更に將來濟順鐵道が開通し當地を通る様になれば、市況の飛躍的發展は期して待つべきである。

臨清縣は一〇區に分たれ、第一區は四五村、第二區は六五村、第三區は七〇村、第四區は六四村、第五區は七〇村、第六區は五七村、第七區は五三村、第八區は五六村、第九區は六六村、第一〇區は一六村を包括し、戶口總數は五五、六〇〇戸、人口總數は二七三、二五八人である。

臨清は魯西一帯の棉業の中心地にして、民國一六年縣城の東に棉花育種場が設立され、一七年に試驗場に改められ二四年三月一日に改組されて山東省立建設廳棉作改良場分場となつた（總場は齊東に設けられた）。縣内至る所に植棉せられ、東南部は地勢稍々高く、西北部は稍々低く、運河は縣内を縦貫し、南北ともに舟運の便がある。運河以東は砂質壤土にして舊棉區に屬し、米棉の外一部に中棉をも産し、運河以西は土質粘性を帯び米棉を輸入栽培してより、近來一躍米棉の重要産區となつた。但し棉種子の退化甚だしく急速に改善が加へられねばならない。米棉には脫里司棉及金氏棉の二種あり、中棉には獅子頭及硬毛兎の二種がある。脫里司棉及獅子頭の兩種が最多にして、農民は棉花栽培に改良を加へず、故に臨清の棉質は高唐に比し稍々劣つてゐる。春季は強風多く、夏秋は雨量多く、西北部は低地なるため水害を受け易く、排水工作と運河の堤防保護は、本縣の棉産に至大の關係を有してゐる。運河の舟楫の來往は

# 臨清縣棉花運銷及集散路線圖



臨清は魯西一帯の棉業の中心地にして、民國一六年縣城の東に棉花育種場が設立され、一七年に試験場に改められ、二四年三月一日に改組されて山東省立建設廳棉作改良場分場となつた(總場は齊東に設けられた)。縣内至る所に植棉せられ、東南部は地勢稍々高く、西北部は稍々低く、運河は縣内を縦貫し、南北ともに舟運の便がある。運河以東は砂質壤土にして舊棉區に屬し、米棉の外一部に中棉をも産し、運河以西は土質粘性を帯び米棉を輸入栽培してより、近來一躍米棉の重要産區となつた。但し棉種子の退化甚だしく急速に改善が加へられねばならない。米棉には脫里司棉及金氏棉の二種あり、中棉には獅子頭及硬毛兎の二種がある。脫里司棉及獅子頭の兩種が最多にして、農民は棉花栽培に改良を加へず、故に臨清の棉質は高唐に比し稍々劣つてゐる。春季は強風多く、夏秋は雨量多く、西北部は低地なるため水害を受け易く、排水工作と運河の堤防保護は、本縣の棉産に至大の關係を有してゐる。運河の舟楫の來往は

眞に織るが如く、北は德縣を経て天津に達し、交通頗る便利なるため、隣縣の棉花も多く本縣に集貨される。

高唐。高唐は臨清縣城を隔たる事九〇支里、魯西の重要な棉産地にして、東は津浦沿線の禹城と相隔たる事五〇支里、兩地間には自動車路が有つて聯絡され、濟南までは僅々一六〇餘支里で、數時間にして到達する事が出来る。高唐は、東は禹城に接し、南は茌平、博平に連り、西は清平、夏津に面し、北は平原に接してゐる。全縣總べて棉作地にして、僅かに縣城附近に蔬菜が栽培されてゐる外、五穀は殆んど作られてゐない。雨量も氣候も臨清と同様で、地勢は概して平坦であるが東北部は稍々低く、西南部は砂丘が多い。西北郷及縣城附近は砂質壤土にして棉作最も多く、南郷及東郷之に次ぎ土質は粘性を帯びてゐる。米棉には金氏棉及脫里司棉の二種があり、中棉は西部に稍々多いが一般には殆んど栽培されてゐない。本縣農民の植棉方法は頗る發達し、播種、中耕、徒長枝除去、除蘗芽、摘心等諸作業は甚だ合理的で、且つ「寬腿耨」「中耕器」を用ふる者多く、以て當地農民が如何に改進思想に富むかを證するに足るものがある。但し棉種徒らに多く、混雜退化甚だしく速やかに改良を加へねばならない。當地の米棉の品質は優良で、纖維は最長二四耗平均二三・三三耗前後に達し、細く軟く且光澤を有し、繰棉率は三〇%弱である。中棉は大自棉、小白棉、長毛棉、大花、本花等の數種があり、纖維は粗く短かいが、繰棉率は非常によく、大花は三三・八二%、本花は三六・〇八%である。棉區内の各集市には秋の收穫後、いづれも實棉市が立つ。

夏津。清平。上記二縣はともに魯西の重要棉區にして臨清と高唐の中間に位し、夏津の北の恩縣及清平の南の博平も棉産豊富であるが、夏津、清平の兩縣に比較すれば稍々少い。濟南を距たる事夏津は三〇〇支里、清平は二〇〇餘支里にして、自動車、大車ともに通じ、自動車は六時間、大車ならば二日半にて達する。雨量と氣候は臨清と全く同様である。

夏津は地勢平坦にして砂質壤土多く棉作に好適してゐる。但し西部のみは低濕にしてアルカリ性を帯び、水災を被り易く、常に棉作の障碍となつてゐる。棉田の分佈は縣全體に亙り、特に東南郷が最も多く、近來米棉栽培の利益が益々増加し、棉作は急速度に發展してゐる。棉花の種類は本地洋花、脫里司棉、本地中棉等が主なるもので、西部には中棉が稍々多く、東部には中棉は殆んど見られない。たゞ棉種はいづれも退化甚だしく、農民は均しく改植の必要を痛感してゐる。當地より濟南へ出廻る棉花は大車を利用するものが多く、西部の棉花は衛河の舟運により天津へ出廻るものが多い。

清平は白砂壤土が多く、南部は土質粘性を帯ぶ。全境悉く棉花を産し、西北部胡里莊一帶には中棉を栽培するものが稍々多く、其他の各地では専ら米棉を栽培してゐる。一般農民は「要發家、去種花」(家を富まさうと思へば棉花を作れ)の俗諺の如く植棉の有利なる事を充分認識して居り、昔日の穀田は今日の米棉田と化し、尙栽培方法も非常に進歩して來た。棉花の種類には金氏棉、脫里司棉、本地中棉等がある。本縣の米棉退化狀況は臨清に比較すれば稍々良好ではあるが更に改良を加へねばならない。棉花は大車により濟南へ運出されるものが多く、臨清を經由し舟で天津へ出廻るものは僅少である。臨清を隔たる事夏津は六〇支里、清平は七〇支里にして、臨清は夏津とは水陸ともに交通の便があり、清平とは陸路の交通が至便である。要するに、魯西棉區は臨清を主となし、高唐、夏津、清平等諸縣が之に次ぎ、數縣の棉花はすべて一旦臨清に集貨された後各地へ輸送販賣されるのである。故に臨清は實に魯西棉花市場の樞軸をなし、又山東省棉花の一大移出地でもあり、濟南棉花市場が目覺ましい發展を遂げて今日の大をなしたのも、全く臨清の賜であると謂はざるを得ない。

## (二) 棉花の生産及分佈

## 甲、面積

臨清。全縣面積は一、〇四七、四〇〇餘畝にして、耕地面積が九五%を占め、植棉面積は全耕地の七〇%弱を占め約七〇萬畝に達し、一年間の縣内諸稅總額は三九、三六二兩八錢一分九厘に達し、毎兩四元として之を換算すれば一五七、四四三元二角七分六となる。

本縣の土壤は、砂質壤土最も多く總面積の六〇%強を占め、植質壤土が三〇%、其他の砂土、アルカリ地が合計一〇%弱を占めてゐる。地價は一畝につき上等地八〇元、中等地五〇元、下等地約二〇元前後である。

高唐。夏津。清平。山東各縣の棉田面積統計は、各方面で調査の結果が一致せず、且つ各縣の植棉面積は年々變動があり、完全なる統計を求める事は非常に困難であるが、國際貿易局の民國二二年の調査に據れば、山東省の棉田面積は總計六、三三三、七三八畝に達し、臨清が六三萬畝、夏津が四七萬畝、高唐が四二萬畝、清平が四〇餘萬畝を占めてゐる。其他立法院統計處、中華棉業統計會及上海華商紡織聯合會等の詳細なる調査統計があるが、いづれも古きに失し、數字に幾多の變遷がある故此處には詳述しない。魯南曹縣の棉産は元來全省第一位を占めてゐたが、屢年水災を被り棉田は淹沒したものが多く、遂に曹縣は第二位に轉落し、臨清が之に代つて第一位を占めた。高唐、夏津、清平等諸縣が之に次ぐ。

以上四縣の土壤、雨量、氣候は極めて類似し、米棉の栽培に最適し、産量は常に中棉の二倍乃至三倍を越へ、清平の如きは殆んで全耕地に米棉を栽培し、高唐、夏津、臨清等諸縣も三〇萬畝前後の米棉作付面積を有してゐる。

## 乙、産量

山東全省の平年棉花産量は約一四〇萬擔にして、その内臨清が最も多く總額の一五%強即ち二二萬餘擔を占め、内

米棉が一五萬擔を占めてゐる。曹縣が之に次ぎ約二〇萬擔、清平、高唐、夏津等諸縣が更に之に次ぎ、平年産量はいづれも二〇萬擔前後内米棉が一〇萬擔以上を占めてゐる。

民國二三年の中華棉業統計會の豫想量に據れば、臨清の緯棉年産額は一六七、〇〇〇擔にして魯西各縣の冠たり、夏津之に次ぎ約一三萬餘擔、清平は一萬餘擔、高唐は九萬餘擔、館陶は五萬餘擔、堂邑は七萬餘擔、武城は二萬餘擔、恩縣は五萬餘擔、禹城は四萬餘擔、博平は二萬餘擔、邱縣は五萬餘擔、冠縣は三萬餘擔にして、全區の緯棉産額は總計八〇餘萬擔である。

丙、栽培法

山東棉花の栽培法は既に第二編第四章耕種狀況の項にて詳述したるを以て、茲には魯西區の他區と異なる點のみを左に述べやう。

魯西一帯は山東の舊棉區に屬し、その耕種狀況は魯北の新棉區と稍々異なるものがある。一般に棉花の生育には、溫度の變動常なきは最も嫌ふ所で、而もその生育期間は六七個月の長きに亘り、毎月の平均溫度攝氏一五度以上たるを要し、成熟期に高温であれば良好なる收穫を期待する事が出来る。特に降霜はその最も忌む所である。故に植棉せんとする者は、その地方の氣候の如何により播種の時期を定めねばならない。今山東に就いて言へば、春季の晩霜は三月末、秋季の初霜は一月末であつて、春季の氣温上昇秋季の氣温降下は、魯西魯南が魯北よりも早い。

雨量も魯西は魯北と不同で、舊棉區の年雨量は約二〇吋であるが、魯北は二七吋である。七八の兩月が雨期で、丁度棉花の生長の最盛期である、秋に入れば晴天続き雨少く、棉花の成熟に好適してゐるが、五六月に雨量が極めて少く棉苗の發育を遅らせ、晩熟となり易い。民國二四年がその一例で、春季に旱天続き降雨無く、棉苗の枯死するもの

續出し、臨清一帯の耕種は平年の一〇%に激減した。但し灌溉を提唱し、水利が普及すれば、棉花は一定の生産額が保障し得られるであらう。

播種期。魯西では穀雨前後に播種が行はれる。左に播種期と發芽所要日數を示さう。

播種期	發芽所要日數
穀雨前	一五日
穀雨	一二日
穀雨後	八日
立夏	六日
立夏後	五日

播種が遅ければ發芽は早く、缺苗も少く且整齊である。播種の早いものは、棉株主幹上の第一結果枝が下部に近く播種の晚いものは第一結果枝が比較的高く、節間の距離も亦疎である。但し晩きに失すれば自然晩熟となり收穫不良となる。故に氣候、雨量の如何に依り、もし氣温高く雨が多ければ早く播種し、氣温低く降雨が無ければ晩蒔きせなければならぬ。但し強風吹き、空氣乾燥し、表土が飛散する様な状態では發芽を阻碍するし、降雨続き溫度が低ければ、種子は腐爛して發芽せず、その斟酌加減は實に困難である。

收穫期。魯西の收穫期は魯北よりも稍々早く、處暑節より立冬節に至る間（即ち八月末より十一月初）である。但し收穫の早晩は氣候と關係があるばかりでなく、品種の影響も亦大きい。米棉の成熟期は中棉よりも晩く、中棉は普通米棉より一〇日位早く收花する。一般に米棉は六七日置きに收花するが、中棉は四五日置きに收花し、二個月半位

で收穫を終る。

#### 丁、農民收支の比較

北支の氣候は比較的寒く、農作物は播種を早くし、而も收穫は晩くなり、多くとも一年二作である。棉花は必ず一年一作で、秋播小麦の收穫後引續き棉花を播種しても時己に晩い。又棉花の收穫期も晩く、その收穫後小麦を蒔くとしても時己に晩秋となり生育不可能である。特に山東省には米棉多く従つて收穫期晩く、後作として小麦を蒔く事は絶対に出来ない。棉花は僅かに一年一作と限られてゐるが、之を他作物栽培と比較すれば、なほ遙かに有利である。最近生産に要する諸経費は加重し、販路は狭くなり、収入は減少し、缺損してゐるが、他作物と同様の結果を來たし、獨り棉花のみではないのである。魯西各縣の棉花生産費及収益狀況は、概して魯北區と大差無いため此處に再述しない。民國一九年以前迄は、棉作の収益は普通作物収益の二倍を超へたが、一九年を境として稍々減少しつゝあり、但しその収益の比例は依然「三對二」或は「四對三」となつて居り、棉作は確かに有利である事を實證してゐる。

#### 戊、農民金融

臨清一帶の農民には二種あり、自作農及小作農が夫である。小作制度には永佃制、分租制、包租制の三種がある。そして分租制には「平分」「四六分」「三七分」の三種があり、「平分」とは小作人と地主が收穫物を共同して分配するもので、この制度に於ては勞工、役者、農具等は小作人の負擔に歸し、肥料、種子等は地主と小作人が折半負擔し、收穫物は雙方が二分する。すべて小作制度は、兩者が前以て話をきめて置くのである。「分租」には一定の期限無く、繼續して多年間耕作する事も出来れば、一年で解約する事も出来、保證金を要せず、別に契約書を立てない。自作農及小作農の収入は、農産物及副産物の収入が主たるもので、所謂勞動賃銀収入は無く、農産物が八三%、副

産物が一七%を占めて居る。農民は春耕秋收の際、常に金融に悩まされるのであるが、適當なる金融機關無く、利息は非常に高い。

臨清には合作社の組織無く、爲に民國二四年の春山東省建設廳は公文を以て當地商會及紳士、地主等に合作社の必要の有無を問合はせた所、商會等は合作の意義が判明せず、又各自の利益を守らんがために拒絶の回答を發した爲建設廳は計畫を中止した。

要するに臨清地方では棉産は最も豊富であるが、春耕秋收の際に資金融通の道無く、銀行銀號等は從來より農民を相手とせず、農民の頼るべき所は個人借貸のみで従つて利率高く、止むを得ずその飽く無き搾取を甘受して來たのである。合作社の設立に關して商民は反對したが、その眞意の那邊に在るやを解するに苦しむもので、恐らくは個人間の利害衝突に歸因するものと思惟されるのであるが、若し官廳が農民大衆を救恤せんとするならば、須らく個人の私見を排除し、大多數民衆の利益を對象として、速やかに現在の商會の壟斷狀態を改善し、合作社を組織し、省政府、縣政府、其他金融機關が合作して、農民に對する貸出を實施すべきである。

#### (三) 棉花の運送販賣

##### 甲、集散情況

魯西一帶の棉花の運送販賣は臨清を中心となし、隣縣の棉花も多く該縣に集貨される。高唐縣には花行が五、六〇戸あり、城内及近郊に分散し、秋の收穫後に賣棉を收買し、先づ城内の尹集に集貨し、大車により濟南へ輸送するか、或は禹城に運び、更に汽車で濟南へ轉送する。清平の棉花市場は、縣城、康莊、胡里莊、段郝莊、孔官屯、沈莊、邢莊、辛集等にして、花行が四、五〇戸ある。輸送方法は大體高唐と同様で、一部分が大車を以て臨清に、舟便を利用して天

津に輸送される外は、大車に依り直接濟南へ輸送される。夏津には秋季棉花出廻期に花行を經營するものが三、四〇戸を下らず、棉花は縣城、張官屯等に集貨されるものが最も多く、縣西部の棉花は衛河の民船により天津へ運ばれ、其他は大車により濟南へ輸送される。

臨清棉産區の各村落には軋花店、花行等が合計一〇〇餘戸あり、殊に西南關、下堡寺、光塚、陶屯、倉上等は花行の密集せる地方で、資本の大なるものは購入、輸送共に自營出来るが、資本の小なるものは委託取引をなすのみである。數年前迄は棉花は天津へ販賣されるものが多かつたが、最近では七割は濟南へ、三割が天津へ出廻つてゐる。同縣は棉業の發達につれて附帶事業たる鐵工業が異常な發展を遂げ、なほ銀行も中國及民生の二行があつて金融を圓滑ならしめ、商業も隨つて繁盛し、西關一帶には商店櫛比し、實に魯西一帶の商業中心地となつてゐる。

臨清には花店が四四戸（民國二四年六月現在）あるが、左にその屋號を列記しやう。

天吉花店	魁聚成花店	源泰花店
同升成花店	振益花店	華豐花店
乾益花店	德興成花店	益泰花店
萬育花店	東立祥	乾聚祥
奎德祥花店	德生祥	信昌花店
天和公花店	復興花店	廣豐恆花店
永康花店	泰和棧花店	德聚花店
奎德棧花店	裕記花店	貞吉花店

中國棉業貿易公司	崇茂花店	聚興恆花店
益昌花店	魯華花店	義豐花店
同元泰花店	復祥花店	福興德花店
寶昌花店	裕昌花店	天聚成花店
德昌花店	同福興花店	恆興增花店
恆聚成花店	裕達花店	大同軋花棧
隆昌花店	元記花店	

以上は固定せる花店のみであるが、この外臨時に花店を營むものが四〇餘戸ある。この臨時花店は秋の收穫後棉花が出廻る時期に店を開き、取引が終了すれば店を閉じるもので、資本は一定してゐない。勿論固定花店は一定の資本を有してゐるが、營業稅の關係上（即ち少しでも稅額の負擔を軽減せんがため）事實に基いて申告する事をがへんぜず、實際の資本を窺ふ事は極めて難事に屬するが、今暫らく營業稅局の報告に據れば、縣城の花行總數は四四戸、資本總額は五萬元、營業總額は二七五、〇〇〇元となつてゐるが甚だ信を置き難い。

臨清には中國、民生兩銀行の外山東省政府の經營に係る平市官錢局があり、預金、貸金、爲替業務等を取扱つてゐる。この外銀號が合計一五戸あり、この内文興裕、天吉、恆興裕、恆利永、泰昌、福泰、德興裕、德景泰、興源、慶祥等一〇戸が比較的規模大きく、他の五戸は資本も微少で取上げて論ずるに足らない。

乙、移出數量

臨清の毎年平均移出數量は約二〇萬擔（繰棉）にして、民國二三年秋より二四年六月に至る間の合計移出高は一八七、



○八八擔である。この内中棉が九八、二二九擔を占め、米棉が八八、八六九擔を占めてゐる。清平、高唐、夏津等の年移出高は各一〇餘萬擔にして、其他堂邑、館陶等數縣の移出合計は二〇萬擔、魯西區の毎年總移出高は八五萬擔以上に上る。出荷先は濟南及天津である。

丙、運送方法及運賃

魯西一帯の棉花は、臨清及夏津の一部分の棉花が衛河を利用して天津へ直送される外、すべて濟南へ出廻る。臨清の棉花は、毎年濟南へ出廻るものが七割、天津へ出廻るものが三割を占めてゐる。濟南へ出廻るものは陸路運送され大車ならば三日を要し、自動車ならば一日にして達する。自動車の積載能力は二五依にしてこの重量は三七・五擔、一擔の運賃は八角乃至一元である。大車は八依乃至一〇依を積載する事が出来、運賃は自動車と大差がない。天津へ出廻るものは水路により運送され約七日にして到達し、運賃は陸路よりも安く一擔につき四角前後である。運送の最盛期は八、九、一〇、一一の四個月で、閑散期は四、五、六の三個月、通常期は一、二、三、七、一二の五個月である。

臨清には尙店、下堡寺、十二里莊、呂寨、尖塚、石槽、劉孩子、倉上等の八大集市があり、秋の收穫期には農民が陸續として集市へ棉花を搬入し、牙房(仲買人)の周旋により花店へ賣却する。この際買主は牙佣(仲買人の手数料)二分を出す事となつてゐるが、實際は一〇〇斤につき三角出し、取引價格には依らない。全縣各區の牙税は夫々各區の者が包税し、更に各鄉村に轉包(區の包税者が鄉村に下請けせしめる事)するのであるが、各村の包税額は二〇元の所もあり三〇元の所もあり全く不同で、なほ牙房の手を経なければ如何なる商人でも販賣する事は出来ない。

臨清には匯通、裕新、同泰、中亞等運送會社が四戸あり、専ら棉花の運輸に従つてをり、大車、自動車等を隨意に

利用出来る。各鄉村より集市まで運ぶには、農民は自家の車輛を用ひ運賃を出さない。

清平より濟南までは二〇〇餘支里、大車ならば二日間で到達する。大車一輛に一、〇〇〇餘斤積載し得、一擔の運賃は八角前後である。高唐より濟南までは約一六〇支里、高唐の棉花は一小部分が禹城經由鐵路で濟南へ運出される外、大部分は大車により濟南へ運送され、運賃は一〇〇斤につき八角前後である。夏津は濟南を去る事稍々遠いのであるが、運賃は他縣よりも高からず、一〇〇斤につき七、八角位である。天津へ運出する棉花は武城で舟積みし、衛河を下りして六、七日位で到着し、運賃は陸路よりも遙かに安く、一〇〇斤につき僅か三角乃至四角位である。

魯西一帯の棉花は鐵道輸送されるものが極めて少いが、その原因は貨車の積込み及積卸しの手續が繁雜で而も運賃が高いからである。

左に魯西各縣の運送概況を表示しやう。

縣別	仕向地	運送方法及運賃
夏津	天津、濟南、臨清	大車により濟南へ運ぶ。一〇〇斤につき七、八角
恩縣	濟南、天津	天津へは津浦線により運送。濟南へは大車により運送。(自動車運送も可)。一〇〇斤につき一元
武城	濟南、天津	天津へは衛河の舟便による。一〇〇斤につき二、三〇〇文
堂邑	濟南、天津、臨清	濟南へは大車による。一〇〇斤につき一、二〇〇文
館陶	濟南、天津、臨清	天津へは民船による。一車につき二〇元。臨清へは大車による。
冠縣	濟南、天津、臨清	天津及臨清へは民船による。一〇〇斤につき一〇〇支里毎に二角
		天津へは大車による。一〇〇斤につき八角
		濟南へは民船による。一〇〇斤につき一〇〇支里毎に二角
		濟南へは大車による。一〇〇斤につき二元前後

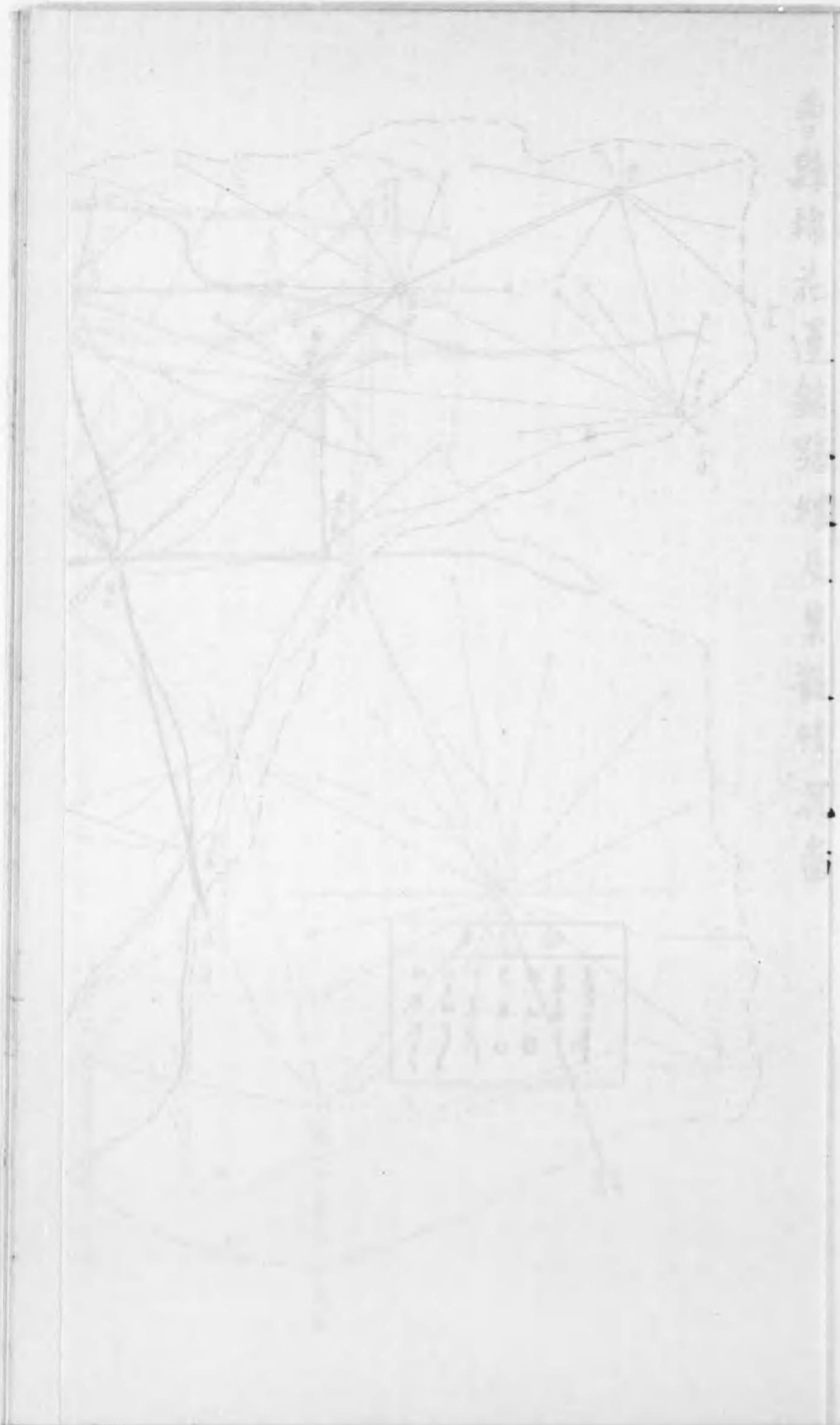
高唐	濟南	大車による。一俵につき一元五角
清平	南、臨、清	大車による。一車に一〇〇斤積載。濟南まで一車一五元
臨清	南、天、津	天津へは民船による。一俵につき三、四角 濟南へは大車又は自動車による。一俵につき二元餘である

第三節 魯南區

本區は黃河以南、津浦線以西の各縣を包括してゐる。著名なる棉産縣は曹縣を第一とし、荷澤、單縣、定陶の諸縣で、中棉が大多數を占めてゐる。民國一九年以前は最高産量五六萬擔に達し、山東全省總産額の二三・七%を占めた。二二年は激減して二六萬擔となり、全省總産額の 一四・七六%を占むるに過ぎなかつた。山東魯南區は災害を受け易く、且つ屢年水災に見舞はれ、棉田は常に淹没の憂目に遭つてゐる。二二年は遂に一落千丈産量は五、〇〇〇餘擔となり、魯西、魯北の二區とは比ぶべくもない。魯南區の棉種は劣等のもの多く、且つ年來全く改善を加へず、ために販路も漸次せぼめられてゐる。以前は米棉も栽培してゐたが、氣候が適せず、或は災害等の關係から廣く普及するに至らず、毎年米棉産量は一萬擔に満たず、前途樂觀を許さない。

(一) 概況

曹縣。曹縣には黃河舊道の遺跡あり、土壤は砂質壤土多く、アルカリ性に富むが、棉作に好適してゐる。但し地勢低濕にして水災を被り易い。植棉は東南部一帯が多く、殊に青堦集附近は地味肥沃にして米棉區域を形成してゐる。西北部之に次ぎ、其他の地方では村莊附近に散見せられるのみである。曹縣は魯南棉産縣の首位を占めてゐるが、最近では減少の傾向を辿つてゐる。本縣は南方隴海線を隔たる事僅かに數十支里で運輸は頗る便利である。但し棉種の改

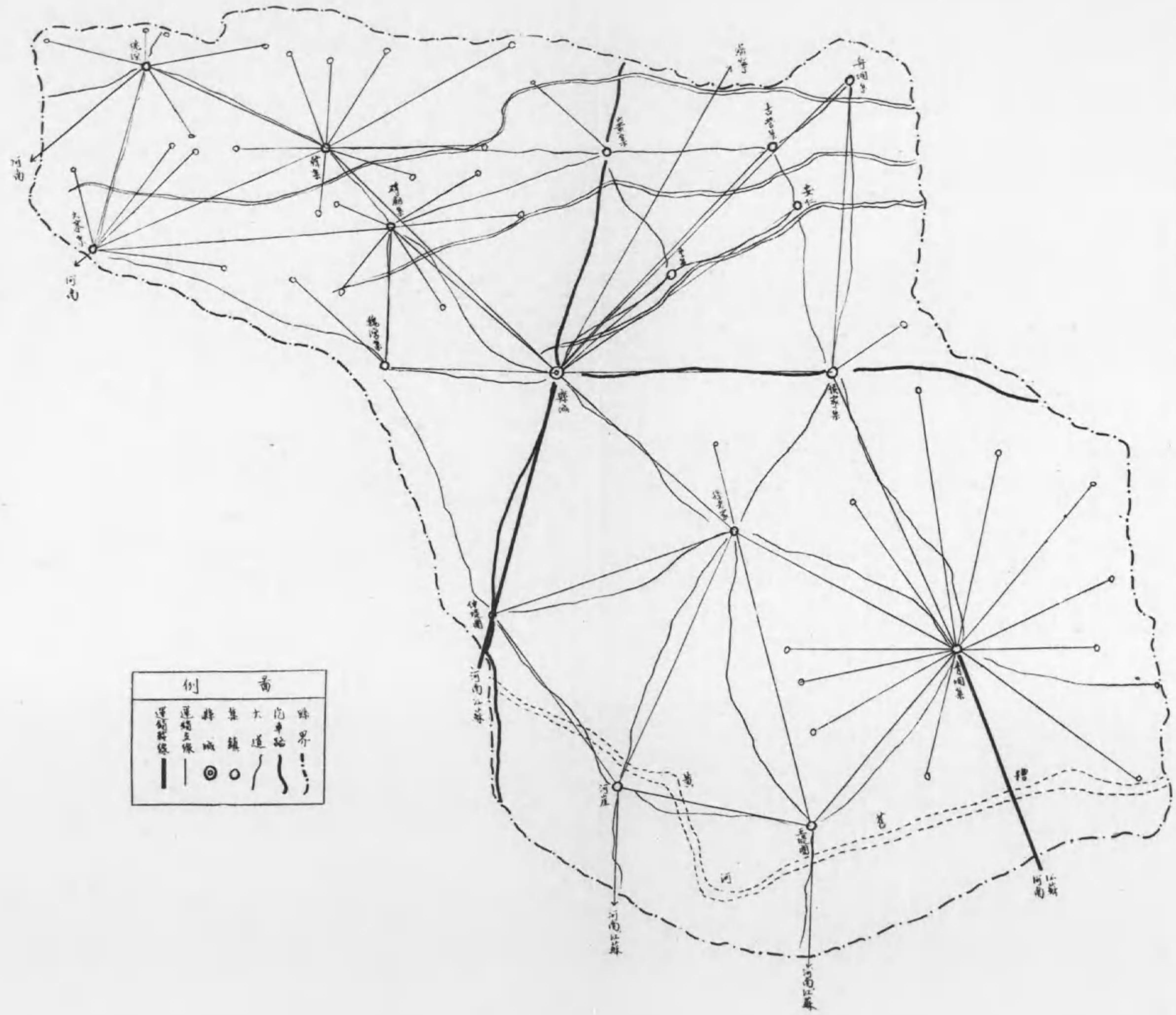


至らず、毎年米棉産量は一萬擔に満たず、前途樂觀を許さない。

(一) 概況

曹縣。曹縣には黄河舊道の遺跡あり、土壤は砂質壤土多く、アルカリ性に富むが、棉作に好適してゐる。但し地勢低濕にして水災を被り易い。植棉は東南部一帯が多く、殊に青堦集附近は地味肥沃にして米棉區域を形成してゐる。西北部之に次ぎ、其他の地方では村莊附近に散見せられるのみである。曹縣は魯南棉産縣の首位を占めてゐるが、最近では減少の傾向を辿つてゐる。本縣は南方隴海線を隔たる事僅かに數十支里で運輸は頗る便利である。但し棉種の改

曹縣棉花運銷路線及集散情況圖



例	
縣界	——
主要道路	——
集鎮	○
縣城	◎
運銷路線	——



良と生産の提唱は刻下の急務であり、根本的解決策は政府機關の指導援助に待たねばならない。現實の狀況に應じ、農民のために解決の方策を樹立してこそ始めて効果を期待し得るのである。

棉花の種類には「曹州浹花」、「本地大柴」、睢里司棉等數種があり、大半は粗絨である。中棉は隣縣へ運送販賣されるものが多いが、又他地方より收買に出張して来る客もあり、或ひは當地の軋花商の手を経て遠く徐州、濟寧等の諸地方へ販賣されるものもある。

全縣面積は一二、〇〇〇平方支里、悉く平野のみで山も大河も無く、氣候は大陸性、雨量は極めて少く、溫度は高い。七、八、九の三個月が雨期であるが最も多くて九九耗を超へない。土壤は概して肥沃ではなく、アルカリ性を帯びたるもの多く、壤土が六〇%、粘土が二〇%、砂土が一五%、アルカリ地が五%を夫々占めてゐる。

全縣を分つて一〇區となし、人口總數は五四〇、八二〇人、内男が二八二、七三三人、女が二五八、〇八七人を占め、戸數は一〇一、三三四戸である。

曹縣全體の耕地面積は二、三五四、一〇〇畝、農戶總數は八九、三四〇戸にして、一農戶の平均耕地面積は二六・五畝である。地價は上等地一〇〇元、中等地四〇元、下等地一五元位である。農戶の分配は、自作農が最多數にして五〇%を占め、半自作農が二〇%、小作農が二〇%、雇農が一〇%を占めてゐる。勞賃は極めて低廉で、日工が一角、月工が二元、年工が二〇元前後である。

荷澤。荷澤は山東省の西南部、河北省との境界に位し、本縣より北は郵城まで六〇支里、東北は鄆城まで一一〇支里、東は鉅野まで一四〇支里、東南は定陶まで四五支里、南は曹縣まで一一〇支里、西南は河南省の蘭封まで一八〇支里、西は河北省の東明縣まで六〇支里、西北は濮陽縣まで一六〇支里である。本縣は清朝時代には曹州府の管轄に

屬し、春秋時代には曹國の地となり、禹貢の荷澤と云ふ故名がある。本縣は河北、山東、河南三省の相接する地點に位し魯西の要地であり、人民は尙武の氣象に富み、慍悍にして闘ひを好み、清朝時代のかの有名なる「曹州教案」は當地で發生したのである。全縣人民の内軍人を正業としてゐるものが、全職業の五〇%以上を占めてゐる。

全縣は一、八四二村に分たれ、總戸數八五、六六六戸、人口總計四〇四、四〇六人である。縣城の戸數は三、五九三戸、人口は一六、五三九人である。住民は軍人を除く外農を業とするもの多く、自作農が最多數にして五〇%を占め、半自作農が三〇%、小作農が一二%、雇農が八%を占めてゐる。農民は耕種の旁ら、織蓆、化粧品製造、石灰製造、一輪車による荷物運搬等の副業を營んでゐる。全縣の耕地面積は一、五三七、五九一畝にして、農作物は小麥を大宗とし、大豆之に次ぎ、棉花は第三位にある。

左に主なる農産品の耕作畝數及産量を掲げやう。

農産品別	畝	産量 (擔)
小麥	八四〇、七二六	四二〇、三六三
大豆	八五四、五四九	一、五三八、一八八
棉花	四二、〇三六	三三、八八四
花生	一四、〇一二	二八、〇二四

荷澤の特産としては此外に牡丹、木瓜、乾柿、山楂、石榴、貢霜等があるが、その數量は僅少である。

本縣の土壤は、壤土が五〇%、粘土が二〇%、砂土が三〇%を占めてゐる。地價は旱田は比較的安く每畝最高(南

部)四〇元乃至六〇元、中等地二五元乃至四〇元、下等地一〇元乃至二五元である。之に反し水田は非常に高く、(北部)每畝最高三〇〇元、中等地二〇〇元、下等地一〇〇元内外である。

小作制度には、契約、金納、分租、口頭契約等數種があるが、舊來の習慣上口頭契約によるものが多い。「大種」は收穫物を平等に配分するが種子は小作人の負擔に歸し、「小種」では三分七分、花卉果樹等は二、八の割合、棉花は一対二或ひは二對一の割合で地主と小作人が分配するのである。

勞賃は、日工で一・五角乃至五角、月工が一元乃至二元、年工が二〇元乃至三〇元である。

要するに荷澤は地勢平坦にして一大農業地帯を形成してをり、以前土布の賣行き盛んなる頃には棉業は隆盛を極めてゐたが、土布業の衰微せる今日では棉花の賣行きはかゝしからず、近年は萎縮減少の趨勢を呈してゐる。従つて將來品種の置換と販路開拓の兩問題を解決せざる限り棉業の前途には大なる期待を持ち得ないであらう。縣の北部は黄河に臨み、南は隴海線を隔たる事僅かに一八〇支里、交通は便利と謂へる。棉産は東部が最も盛んで、南部の金塚集一帯が之に次ぎ、其他の地方は部落附近に僅かに栽培せられる程度で棉産地帯を形成する程に至らない。棉花の種類は本縣農場より配付した脱里司棉が割合に多く、中棉には「大柴棉」、「曹州淤花」等がある。本縣の棉花は土布紡織原料及中入用に供せられるのみで、遠隔の市場へは全然運送販賣せられない。

單縣。單縣の一般概況は曹縣と酷似してゐる。全縣面積は八、七〇〇平方支里、耕地面積は二、〇五四、九八四畝、農家總數は六二、五二八戸、毎戸平均耕地面積は三二・八畝である。地價は每畝最高五〇元、中等地三〇元、下等地二〇元である。氣候、雨量は曹縣に類似し、七八兩月は降雨量が多い。耕地はすべて旱田にして、山地、沼澤等はなく、従つて農産物の大宗は、麥、粟、棉花等である。全縣の戸口は六八、四五四戸、人口は四二三、五一八人で、この内男

が二二三、〇四〇人、女が二〇〇、四七八人を占めてゐる。  
 本縣の土壤は、壤土が五〇%、粘土が三〇%、砂土が二〇%を占めてゐる。  
 農戸は自作農が最も多く五六・九%を占め、半自作農が二二・四%、小作農が一二・五%、雇農が八・二%を占めてゐる。

小作制度は口頭契約が最も多い。本縣の小作契約習慣は期限を五個年としてゐる。若し時に小作人が全期間耕作を續行する事の出来ない場合は、小作地を他人に又小作し、その間小作料の差額を儲ける。

小作料納入方法は、官田はすべて金納により、個人の田地は産出せる農作物を以て納める。小作料は、官田は毎畝年最低六角、最高一元、個人の田地は毎畝年租糧（麥、豆、高粱）七〇斤である。小作料は麥後（夏五月）、秋後の二季に分ち半分づつ納入する。單縣の棉産地は縣南部郭村集、黃岡集、楊樓一帶で、其他の地方では殆んど栽培されてゐない。棉花の種類は概して「本地土棉」にして米棉はなほ試作の域を出でない。生産棉花は大部分當地方の土布紡織及中入用に供せられ、一小部分が江蘇の豐縣、徐州の二地へ販賣される。

定陶。本縣の東北部は低濕にして粘土多く、南部は比較的高地にして砂質壤土が多い。西部の喬樓、朱樓一帶及東部の西臺集、黃店一帶が主要棉區である。棉花の種類は脫里司棉、中棉等があるが、種子の混淆甚しいので速やかに改良を加へねばならない。本縣の土布紡織は久しく盛名を馳せ、所謂「陶布線條勻」の名により紡織の佳良を以て知られ今に至る迄なほ各地で歓迎されてゐる。生産せられた棉花は當地方の地場消費に供せられる外、徐州、濟寧等へも販賣される。

(二) 棉花の生産

甲、面積

魯南區は災害を被り易く、従つて各縣の棉田面積は常に激變を餘儀なくさせられる。一例を民國二二年にとれば、播種期には全棉田面積は五〇二、四〇〇畝であつたが、後水災があり收穫せる棉田は一六、五〇〇畝にして、僅かに播種面積の二三・一四%に激減した。水災の最も甚かつたのは曹縣で、播種當時の棉田面積は二四二、〇〇〇畝に達したが、廢田が實に二二一、〇〇〇畝に上り、收穫棉田は僅々二一、〇〇〇畝に過ぎなかつた。推して災禍の如何に大なるかを知り得るであらう。

茲に民國二二年に於ける魯南區各縣棉田面積の變遷情況を表示しやう。

縣	別	播種畝數	收穫畝數	無收穫畝數	無收穫棉田の占める百分率
曹	曹縣	二四二、〇〇〇	二一、〇〇〇	二二一、〇〇〇	九一・三二
定	定陶	六一、〇〇〇	三〇、五〇〇	三〇、五〇〇	五〇・〇〇
濟	濟寧	三二、五〇〇	三、一〇〇	三五、四〇〇	九四・四〇
單	單縣	二二、七〇〇	一五、〇〇〇	七、七〇〇	三三・九二
野	野縣	四九、〇〇〇	二二、四〇〇	二二、六〇〇	五〇・二二
郟	郟縣	六九、〇〇〇	二二、〇〇〇	四七、二〇〇	六八・二一
鄆	鄆縣	二〇、〇〇〇	一、五〇〇	一八、五〇〇	九二・五〇
鄆	鄆城	五、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	八〇・〇〇
合	計	五〇三、四〇〇	一一六、五〇〇	三八六、九〇〇	七六・八六

棉田面積は原來曹縣が最も多く、棉田増加の速度も該縣が最も早く、民國一七年前の同縣棉田面積は三〇萬畝前

後にして、一八年には三六萬畝となり、一九年には一躍して一一九萬畝となつた。其後の増減は極めて少く、その差は多くとも四、〇〇〇畝を超へなかつた。然るに民國二十二年に水災を被り、收穫せる棉田は僅かに二二、〇〇〇畝に過ぎず、その激減は全く驚異に値する。

民國二十二年の魯南區棉田面積は、山東省建設廳の調査に據れば左の如くである。

縣	別	耕種畝數	縣	別	耕種畝數
濰	濰	五〇〇	單	單	五〇
定	陶	四、〇〇〇	鉅	鉅	二〇
曹	縣	三四三、七九一	野	野	一二〇
城	武	五〇	計	計	三四八、五三一
合	合		合	合	

民國二十二年に魯南區は洪水に見舞はれた爲棉田は多く淹没し、二三年春は耕種不可能にして、加ふるに水災後の沖積土は植棉に好適せず、従つて棉花作付面積は著しく減少したのである。

魯南區では米棉の作付面積は極めて少く、大半は中棉である。中棉は抵抗力強く、繰棉率が高いから農民はその栽培を喜んでゐる。

乙、產 量

近年來山東の棉產量は棉田の増加につれて激増を來たした。中華棉業統計會の調査に據れば、民國七年の山東棉產量は七二萬餘擔(繰棉)に過ぎなかつたが、二〇年には二一五萬餘擔に増加した。併し魯南區は連年災害相繼ぎ、ために棉產は屢々減少する事がある。水災前の全區產量豫想は 一三五、六八四擔であつたが、黄河決潰以後の第二次豫想

では三五、九四三擔で、第一次豫想量より一〇萬擔弱の減少である。

左に魯南區各縣棉產の水災前後の情況を表示しやう。

縣	別	水災前第一次豫想量 繰棉(擔)	水災後第二次豫想量 繰棉(擔)	縣	別	水災前第一次豫想量 繰棉(擔)	水災後第二次豫想量 繰棉(擔)
濰	濰	一六、〇七五	七、三八〇	鉅	野	一八、七九五	六、三三六
定	陶	一七、〇七〇	八、五三五	野	城	一五、二八〇	三四六
曹	縣	六三、八〇〇	五、六二〇	野	計	一、一五五	三二一
城	武	四、四九七	二、九七〇	合	計	一三五、六八四	三五、九四三
單	縣	九、〇一二	四、四三五				

又二三年山東省建設廳の調査に據れば、魯南區各縣棉花產量は左の如くである。

縣	別	生 產 數 量 (實棉)	縣	別	生 產 數 量 (實棉)
濰	濰	四〇〇	鉅	野	一六
定	陶	四、〇〇〇	野	武	二九〇
曹	縣	二五七、八四三	野	計	九六
城	武	三〇	合	計	二六三、四〇五

本區の平年產量は約二〇餘萬擔である。(一九、二〇、二一、二二、二三の五箇年平均)

魯南區棉田の毎畝產量。山東の棉田は、米棉の生長を障碍する特殊の災害を除き、一般に米棉の產量が中棉より多く、畝當の差は一〇斤乃至三〇斤に上る。民國一九年濰澤の畝當米棉產量は中棉より四五斤(實棉)も多かつた。但し

中には中棉の収量と大差ないもの或は却つて中棉より少いものもあるが、その原因は氣候の激變により米棉の生長が阻礙された爲である。米棉の普通収量は畝當一〇〇餘斤であるが、中棉の最高収量は民國二〇年の夏津に於ける畝當一四〇斤(實棉)で、普通は畝當一〇〇斤位である。

當區の平均畝當収量は、曹縣は六〇斤乃至八〇斤、濰澤は七〇斤乃至一〇〇斤、定陶は七〇斤乃至九〇斤、單縣は六〇斤乃至八〇斤、鉅野は七〇斤乃至九〇斤、鄆城は七〇斤乃至八〇斤前後である。

丙、栽培法

山東三區の棉花栽培法は大體同様であるが、たゞ播種及收穫時期が稍々相前後してゐる。魯南區の氣候雨量は魯西區と相似し、春季の氣温上昇、秋季の氣温降下はともに魯北區より早い。且魯南區は中棉が多く従つて收穫期は可成り早いのであるが、時に天候の激變或は氣温が魯北區よりも低い事があり爲に收穫期が魯北區より遅れる事もある。播種期は魯北區よりも稍々早く穀雨節或は立夏節前後である。左に各縣の播種及收穫期一覽表を示さう。

縣	名	播種	收穫
鄆	鄆縣	穀雨節	立秋節より霜降節に至る間
鉅	鉅野	穀雨節	霜降節
定	定陶	穀雨節	霜降節
城	鄆城	穀雨節	處暑節より霜降節に至る間
曹	曹縣	穀雨節	立秋節後
單	單縣	穀雨節	霜降節
野	鉅野	立夏節	霜降節
縣	單縣	穀雨節より立夏節に至る間	秋分節より霜降節に至る間

收穫の早晚は氣候及品種に支配されるが、一般に米棉の成熟期は中棉より晚く、中棉の收花開始期は米棉より一日位早い。又米棉は六、七日置きに收花するが、中棉は四、五日置きに收花する。

丁、棉農收支の比較

魯南區の生産費及收益狀況は他の二區と稍々異り、本區は中棉が多く、生産費が高く賣價が安い。畝當生産費は約六元五角で、この内勞賃は二元八角を占め米棉の三元二角よりも少い。但し役畜費は米棉の數倍に達し、米棉の每畝所要役畜費は僅かに六角であるが中棉は二元六角を要する。畝當實棉產量は約七五斤で價格は九元に過ぎないが、米棉の畝當収量は一二〇斤で價格は一四元前後に達し、生産費を控除すれば、中棉の畝當純益は三元に過ぎないが、米棉は八元の利益があり、之を普通作物に比較すれば遙かに有利なのである。普通作物中では大豆が最も有利であるが、それでさへ畝當一元四、五角前後の純益をあげるに過ぎず、其他の高梁、小麥、粟等は全く相隔たる事遠いのである。普通作物は二年三作であるが、平均一年の收支は棉作一年の收支と大差がある。(詳細は第五章「生産費及價格」の項を参照せられたい)

戊、農民金融

魯南區農民の生産資金融通狀況は、魯東、魯西に相似してゐるが、銀行、銀號等の資金供給はなく、専ら個人貸借のみが行はれ、利率は月利二分乃至五分である。商店の貸出利率は平均月利二分である。民國二〇年楊子江の洪水の際には、華洋義賑會が沿岸數省に農村互助社を創立し、農民に低利資金の貸與をなし救済に努力した。この農賑(農民救済)が完了した後、互助社を改組して信用合作社としたが成績頗る佳良である。魯南區濰澤縣等では、民國二〇年黄河の出水後この前例にならひ華洋義賑會、中國銀行、民生銀行、縣政府等四機關合同の下に農村互助社を組織し



災民救済貸付を行った。

農村互助社の貸付は災害救済のためのみならず、更に一步進んで災害防備のためにも行はれた。貸付の対象となるものは、個人の信用を標準となし、その上各人左記三條件を具備して始めて借款し得るのである。

1、妥當なる用途を有する事。例へば耕牛の購入、家屋の建築、農具の修繕、肥料の購入、種子の取得、役畜の飼養其他必要とする經營費等。

2、生活維持費、例へば穀物の購入等。

3、日用必要な經費、例へば婚葬費、醫藥費等。

各鄉村の組織は大體同じであるが、貸付機關の性質が異なるため、貸付辦法も相異してゐる。華洋義賑會は農賑の辦理に關しては最も豊富なる經驗を有してをり、該社の制定したる規程により、各地は之を遵照執行してゐる。

前述せる華洋義賑會、中國銀行、民生銀行、青澤縣政府等四團體には、慈善機關、金融機關、金融機關にして政府より代辦を委託された機關、政治機關等の別がある。この四種の機關は夫々性質が相違してゐるためその辦法にも差異がある。互助社が組織されない前には、この四機關は聯絡會議を開いて三組に分れて辦理する事を議決した。華洋義賑會の貸付は義賑會農賑事務所を通じて實施し、中國銀行は辦理を鄉農學校に委託し、民生銀行及縣政府は貸付辦事處を共同組織し、同處をして一切の貸付事務を辦理せしめた。

中國銀行の貸付辦法は、鄉農學校に委託して先づ互助社を組織する。互助社は社員數を一〇人以上六〇人以下とし、社員の資格を規程し、連帶責任を負ひ、社長、副社長、書記各一人、監事三人乃至五人を選擧し、更に監事會を組織して一切の社務を監察する。互助社が成立したる後、貸付銀行より、詳細なる組織狀況、社員調査表記録、借

款額返款期日、使途及擔保物件等に關し審査質問を受ける。貸付銀行の審査に合格し、貸付を許可せられた後、借用證書に署名し、擔保物件を交付し、借入金を受領する。互助社は借入金受領後、更に各社員の借款情況及使途を調査し、同時に貸付者は依然辦事員の工作情況を監視調査しなければならない。

青澤農村貸付辦事處は、民生銀行の委託を受け組織成立したものである。

以上三種の機關の貸付利率は、華洋義賑會が月利四厘、中國銀行が月利八厘、民生銀行が月利九厘で、兩銀行はこの利息中より互助社の經費として二厘を扣除する事を許してゐる。互助社の農民に對する貸出利率は月利六厘乃至一分である。

右三種の辦法は、鄉農學校に委託辦理するものと自ら辦理するものととの區別がある。鄉農學校が代理して辦理すれば、地方の事情を熟知してゐるので優良なる社員及公正なる社長を得るの利があるし、自ら辦理する者は責任個所が明瞭にして、且つ農民に對し義賑の意義及合作の概要を説明し以て組織を完全にし行政上の惡習から免かれ、鄉村有力者をして行政を把持せしめない様にする利益がある。

三種の組織には各々缺陷がある。即ち鄉農學校が辦理すれば、事務は煩雜にして人員に限り有り、事業のため全力を打込む事が出来ず、若し鄉村内の有力者に代辦を依頼すれば組織の健全なる運営を期する事は不可能となるであらうし、自ら直接辦理するものは、地方の民情風俗、公正なる人士、社員の優劣等を審らかにせず、審査の完璧を期する能はず、所期の効果を收め難い。

農村互助社の貸付狀況。四團體は合計二六〇餘個處の互助社を組織し、貸付總數は一二萬元に達してゐる。華洋義賑會は崗峯郷、西河郷、同和郷等を擔當し合計五一社を占め貸付額は二萬元である。中國銀行は平陵郷、新成郷、寶

鎮郷等を擔當し合計五九社を占め貸款額は二九、三〇〇元である。民生銀行は永河郷、德仕郷、臨西郷、義聚郷、乾元郷、永綏郷、長明郷、西河郷の一部、靈金郷、巽德郷、離明郷、平陵郷の一部等を擔當し、合計一六社を占め貸款額は五〇、〇〇〇元である。縣政府は永河郷の一部、德仕郷の一部、臨河郷、義聚郷の一部、乾元郷の一部、永綏郷の一部、長明郷の一部、離明郷及平陵郷の一部等を擔當し、合計三八社を占め貸款額は一九、二八七元である。この内平陵、永河の西郷が社數最も多く、從つて貸款額も亦最も多い。之に反し巽德郷及離明郷は社數貸款額共に最も少い。茲に濇澤實驗區農村互助社規則、貸款規程、農村貸款手續大要、民生銀行鄉村建設研究院合辦農村貸款暫行辦法等の諸規程を掲げて参考に供しやう。

山東鄉村建設研究院濇澤實驗區農村互助社規則

- 一、名 稱 濇澤縣△鄉△莊互助社と稱す。(但し同一村莊に二個所以上の互助社在る時は地名の上に「第一」「第二」等の冠稱を附す)
- 二、社 址 本社を△鄉△莊門牌△號に置く。
- 三、趣 旨 本社は相互扶助の精神により共同して本社社員の農事の恢復及改良進歩を計り、自給自救に到達するを以て目的とす。
- 四、社員資格 左記三項を具備する者を以て合格となす。
  - 1、年齢二〇歳以上にして、代々本莊に居住し、戸主たる者、性別を論ぜず。
  - 2、品行方正にして農事にいそしみ、平素信用あり且つ鴉片吸飲、賭博等の不良なる嗜好無き者。
  - 3、一〇畝以上の耕地を所有せる者。

- 五、責 任 本社々員はすべて連帶責任を負ふものとする。
- 六、組 織 本社々員は一〇人以上六〇人以下とし、一社員は一戸を代表す。
- 七、職 員 本社に社長、書記各一人を置き、社員中より之を公選す。社長は本社々務を管理し、外部に對し本社を代表す。書記は文書會計等の事項を處理す。すべて名譽職とす。
- 八、成立及認可 本社の成立は本郷郷農學校指導の下に之を行ひ、本郷郷農學校に登録し、△號認可證を受領す。
- 九、會 議 本會は少くとも貸款分配の前後、及利息徵收の前後に各々會議二回を開き社務を討論するを要す。
- 一〇、本社規則は社長宣讀し、全社員同意したる後之に署名す。

濇澤農村互助社貸款規程

- 一、濇澤縣の災區農民にして、農村互助社章程に據り互助社を組織成立し、認可證を得たる者は、本規程の定むる所に依り、貸款辦事處に貸款を請求する事を得。
- 二、互助社が貸款を請求するには、該社各社員の借入希望額及用途を貸款請求書に詳細に記入する、但し一社員の借入額は二五元を超過する事を得ず、且その用途は生産費に限る。
- 三、前項の貸款請求書は、互助社の所屬する郷農學校より受領の上記入し、該郷農學校は同請求書の審査を行ふ。
- 四、貸款辦事處は貸款請求書を受領したる後、貸與すべきや否やを審査し、若し不當の點ありと認められた場合は貸與を拒絶す。
- 五、貸款辦事處は貸款をなすに當り、必要に應じ互助社に命じ永續有效なる擔保品を提出せしめる事を得。
- 六、各互助社員が借入金を受領したる後、その本社が用途と貸款請求書の記載と一致せざる點を發見したる際は、直

- ちはその貸款を回収し、その社員たる資格を取消す。
- 七、各互助社が、貸款の用途不當なる社員を自ら檢舉せざる前に、郷農學校成は貸款辦事處に於て發見した場合には該社の貸款全部を回収し、その認可證を取上ぐるものとす。
- 八、各互助社の貸款期限は一律に民國二三年七月三十一日までとし、期限滿了せば元金利息を取揃へて返還するものとす。期限の延長は之を絶対に許可せず。
- 九、各合作社に貸款返還未了の者ある際は、該社の各社員は連帶責任を負ふものとす。縣政府は未拂社員の何某たるを問はず、該社に對し追加返還を要求す。
- 一〇、各互助社は、期日迄に貸款を全部返還し得ざる者ある場合、その提出せる擔保品を競賣に附し、未拂金に充當する事を得。

荷澤縣農村貸款手續大要

- 一、山東省民生銀行と山東鄉村建設研究院と共同し、農村貸款合辦法一通を議定す。
- 二、研究院に於て荷澤實驗區農村互助社章程一通を議定し、民生銀行に送付し校閲に備ふ。
- 三、研究院に於て荷澤農村互助社貸款規程一通を議定し、民生銀行に送付し校閲に備ふ。
- 四、研究院荷澤に貸款辦事處を設立すれば、民生銀行は同時に第一次資金を繰出し貸出準備をなす。
- 五、荷澤災區一三郷の各郷農學校は前述各辦法、章程の大意を農民に説明したる後、希望者を指導し互助社組織を進行す。
- 六、農民に於て互助社を組織設立するには、郷農學校より互助社章程二通を受領し、規則に照して進行し、正規の記載をなし、一通を社に保管し、一通を郷農學校に届出るものとす。

- 七、郷農學校は互助社組織の進行を指導し、社員合格の可否、辦理の如何を嚴重に審査するを要す。互助社より許可を請求されたる際は、之が許可不許可を決定し、許可決定のものには認可證を發給するものとす。
- 八、互助社認可證を受領せば、同時に貸款請求書を受領し、貸款規程に遵照記載し、貸款辦事處に貸款を請求するものとす。
- 九、貸款辦事處、請求に接せば、認可證をよく検査し、手續に照らし貸款を行ふ。但し貸款を行ふ前に、係員を派してその組織狀況の如何を考査し、而る後に貸款を行ふものとす。

- 一〇、各互助社貸款を受領し、之を社員に交付せば、各社員の貸款用途貸款請求書の記載に適合せるや否やを注意しもし適合せざる者あれば、嚴重に取締るを要す。なほ各郷農學校は各該郷内の互助社に對し隨時考査をなし、社員社長に指示を與ふるものとす。

- 一一、貸款辦事處は、民國二三年六月初旬各郷農學校を通じ各互助社に償款催促通知書を發出し、同時に回収貸款領收證を準備、各郷農學校に發送備附くるものとす。
- 一二、各郷農學校は民國二三年六月以後、各該郷内互助社の經濟情況に注意し、互助社に命じ償款の準備をなさしむ。
- 一三、各互助社は七月三〇日迄に社員の貸款を全部回収し、その屬する郷農學校に納め、償款領收證を受領す。
- 一四、各郷農學校は八月五日迄に、該郷内互助社貸款を全部回収し、貸款辦事處に納付す。
- 一五、貸款辦事處は八月一日迄に、各郷互助社貸款を全部回収し、總決算を行ひ民生銀行に償款するものとす。

山東省民生銀行合辦農村貸款暫行辦法  
山東鄉村建設研究院

- 一、山東省民生銀行(以下本行本院と簡稱す)の行ふ農村貸款は、暫時荷澤縣を試辦區に指定す。
- 二、前條の貸款は五萬元を限度とし、本行より本院に分送、農民に轉貸す。
- 三、本院の前條貸款辦理は、農村互助社に限る。互助社の組織は別に之を定む。
- 四、互助社本院に貸款を請求せば、本院に對し期限満了の際元利取揃へ償款すべき責任を負ふ。本院は本行に對し、轉貸及び期限満了時に於せる回收及償款の責任を負ふ。
- 五、前條の貸款は、二二年一月より開始し、一律に二三年七月三十一日を以て償款期日となし、遅くとも九月三〇日を過ぐるを得ず。
- 六、本行より本院に支出したる金額に對しては、本院が各互助社へ貸付けたる日より利息を附し、月利八厘として計算す。
- 七、各互助社より本院に請求したる貸款に對しては、一律に月利九厘を以て計算し、差額の一厘は本院の貸款辦理雜費に充當す。
- 八、各互助社員よりその所屬各該互助社に請求したる貸款に對しては、一律に月利一分を以て計算し、差額の一厘は該社の辦事費用に充つ。
- 九、本院は貸款事務を取扱ふため、荷澤に辦事處を設置す。辦事員は本院及縣政府より臨時に派遣す。その組織は別に之を定む。
- 一〇、本行は貸出情況を隨時考査すると共に次回貸款準備の爲貸款辦理の際、行員一名を派遣して荷澤辦事處に駐在せしめ協力して事務を處理す。期限到來し元利を回收する際又同じ。

一一、前述せる貸款は、以上の辦法に依るの外、鄉村建設研究院正副院長全責任を負ふものとす。正副院長轉任の際には後任の正副院長其の全責任を繼續保證し、別に本辦法に署名し省政府に報告するものとす。

一二、本辦法は之を二通作成し、本院及本行各一通を保持し憑となす。

互助社成立以來今日に至る迄既に三年有餘を閲し、貸款實施以來非常なる好成绩を收めて來た。然るに組織及貸款方法が未だ完全ならず、時に世人の指摘を被り、加ふるに水災後中國銀行は貸款を回收し、華洋義賑會も救済を停止し、資金の來源は全く杜絶せられ、各社は漸次解散に趨く様になつた。最近魯南區縣政建設實驗區指導員王紹棠氏は互助社が農村經濟發展に極めて有効適切なるに鑑み、再び該區各縣に速やかに之を組織成立せしむる様命じた。農民にして經濟的困窮に陥つたものは、將來該社を経て貸款委員會に貸款を請求し得るであらう。貸款基金の來源は、各該縣の現有各種經費の節約及臨時に指定したる財源に俟つ。但し事實上の需要に基き銀行より借款し得るものとす。貸款委員會委員は、縣長、縣政府第二、三科長、指導員三人、縣黨部代表一人、地方の公正なる紳士二人を以て之を組織す。農村貸款委員會暫行簡章、農村互助社規章、及貸款辦法は既に省政府へ提出せられた。更に省政府の會議で議決の上法規專門委員會に提案し再審査を経て、近々の内に實施されるであらう。

金融流通處。荷澤等の縣が鄉村建設研究院實驗區に劃分された後、金融流通處は組織、章程も既に制定せられ、久しからずして成立するであらう。荷澤縣金融流通處資金の來源は、(一)、河口餘款一九、三八七元、(二)、積穀款一〇、〇〇〇元、(三)、鑿井貸款一、二六〇元、(四)、合作貸款四、五五六・七元、(五)、四科經費九四一・六四元、合計三六、一四五・三四元である。

若し前述の資金に不足を生じた時は、左記各財源を借用し得。(一)、建設費一〇、八二四・七五元、(二)、建設特捐四、

三六一・〇五元、(三)、農場收益二、五八七・九四元、(四)、林業存款七九・四四元、(五)、其他四科款九五・八一元、合計一七、九四八・九九元。

合作社。魯南區各縣合作社は現在組織中であるが、荷澤には既に信用合作社が八八個處成立し、社員は二、三五六人である。此の外に機織合作社一處、社員二人、機織卸賣合作社一處、社員一六一人、倉庫五處、雜穀在庫量一、五三二、七七八斤等がある。各社は己に荷澤貸款辦事處(即ち縣政府)及民生銀行より貸款を供給されてゐるがその數は極めて微少である。即ち民生銀行の倉庫貸款は三〇、〇〇〇元、貸款辦事處のそれは五、九一一元、貸款辦事處の機織合作社貸款は二、〇〇〇元、信用合作社貸款は四、〇〇〇元で、總計四一、九一一元に過ぎない。現在荷澤縣及其他に於ける各種合作社は、未だ組織が完成せず、社數も少いため縣費で充分賄つてゆけるが、やがて近い將來に各互助社合作社の組織が充實擴大された際には、各金融機關と商議し大規模の貸款辦法を樹立せねばならない。その際に於ける魯南一四縣の所要資金總額は約一、〇〇〇、〇〇〇元に達するものと推定される。

魯南區の濟寧、嘉祥、金鄉、魚臺、鉅野、鄆城、汶上、東平、郵城、荷澤、定陶、城武、單縣、曹縣等一四縣はすべて實驗區の指導に従ひ、行政專員公署が一切を統率してゐる故、各縣の施設は大同小異で、今一例を荷澤に取り説明したるを以て、全區の狀況は推して之を察すべく、一々此處に詳述するの煩を避けやう。

(三) 棉花の運送販賣

甲、集 散 情 況

魯南區の棉花は地元消費に當てられる外、河南及江蘇省徐州に販賣せられ、或は上海等へも轉賣される。左に各縣別の集散概況を述べやう。

荷澤。本縣の棉産は極めて少く、年來土布の賣行不振にして棉花の購買力旺盛ならず、棉産は減少しつつある。本縣は、北は黃河に臨み、南は隴海線を隔たる事僅かに百數十支里にして交通は便利である。併し棉産量少く、當地方及近隣地方の土布紡織や中入用に供せられる外、他地方へ進出する餘力を有してゐない。

曹縣。曹縣は魯南區に於ける最も著名なる棉産地にして、秋の收穫期には當地へ收買に来る外客が絡繹として絶えない。縣東南部の青堦集は棉産の最も豊富なる地方にして、棉種はすべて中棉に屬し、當地方の軋花販の手により、徐州、濟寧等へ販運される。

定陶。定陶の土布は盛名を馳せる事既に久しく、紡織の優秀なる事は今に至る迄各地で讚美されてゐる。本縣も棉産豊富にして、地元の消費に供せられる外徐州、濟寧等へ販賣される。主なる棉區は、西部の喬樓、朱樓、東部の西臺集、黃店等である。

單縣。本縣の主要棉區は、南部の郭村集、黃岡集、楊樓等である。棉種は殆んど中棉に屬し、米棉は未だ試作の域を脱しない。生産棉花は大部分當地方の土布紡織及中入用に供せられるが、一小部分が江蘇の豐縣、徐州等へ販賣される。

郵城、鄆城、鉅野、城武等は棉産極めて少く、民國二二年黃河の災害により棉田は多く淹没して了つた。棉花は全部地元消費に當てられる。

乙、移 出 數 量

魯南區の棉花は産額多からず、現地消費以外は多く徐州、上海、河南等の各地に仕向けられる。近年屢々災害に見舞はれた爲産量激減し、移出數量にも正確なる統計はないが、一年約五、六萬擔にして、二〇年前毎年二〇萬擔(繰

棉)以上を移出したのと比較し、全く隔世の感がある。

丙、運送方法及運賃

魯南區の棉花は北部へはあまり運出されず、たゞ一部分が濟寧經由津浦線方面へ出廻る外、大部分は隴海線により徐州を経て、上海或は河南へ運送される。運賃は濟南へ運ぶのと上海へ運ぶのとほぼ相等しく一俵二元前後である。河南へ運出するものは一俵約五角前後である。左に各縣運送情況を示さう。

縣	別	仕	向	地	運	送	方	法
曹	曹	濟寧、鄆城、河南	河南へは隴海線により、鄆城、濟寧へは大車により運ぶ					
單	單	濟寧、商邱、河南	河南へは隴海線により、濟寧、商邱へは大車により運ぶ					
武	武	河南、曹縣、金郷、魚臺	河南へは隴海線により、其他はすべて大車により運ぶ					
鉅	鉅	濟寧、兗州、河南	大車による					
定	定	金郷、嘉祥	河南へは隴海線により、其他はすべて大車により運ぶ					
野	野		大車による					

要するに棉花の運送方法には二種あり、一つは鐵道一つは大車による輸送である。但し鐵道運輸によるものが最も多い。魯南區の棉産區域は曹縣を中心とし、他縣も相當の産量はあるが地元の土布紡織及中入用に供せられる外移出は極めて少く、たとへ移出するとしても一度曹縣に集荷されたる後、隴海線により各地へ運出されるのである。曹縣は隴海線を去る事僅かに數十支里であるから、大車により驛まで搬出し、汽車に積換へて發送するのに大變便利がよい。魯南區の荷澤、郵城一帶の雜穀、雜貨の運輸には黄河の水運が利用されてゐるが、棉花のみは水路によらない。その原因は曹縣が黄河を隔たる事遠きためである。

第二章 市場

(一) 濟南棉花市場

一、市場の歴史

元來濟南市及附近一帯は全然棉花を産出しないのであるが、三大棉區の棉花はすべて此處に集貨され、ために濟南は山東省棉花の最も重要な集散市場となつてゐるのである。又河北省の威縣、南宮、吳橋、清河、成安、寧津、廣平、磁縣、邯鄲、南皮、永年、鉅鹿、東光、趙縣、寧晉、肥鄉、隆平、冀縣、大名、深縣、東鹿、棗強等諸縣、及び河南省の彰德、臨漳、武安、鄭州、新鄉等諸縣の棉花も當地に出廻り、濟南は單に山東の重要棉花市場であるのみならず實に河北、河南、山東等三省棉花取引の樞軸をなしてゐるのである。往時濟南に出廻る棉花は、専ら各産地の小本花販(小資本の棉花店)により販送せられ、その取引數量も極めて微々たるものであつた。宣統元年に堂邑の「花販」王協三は各花販の利用に供するため濟南に復成信花行を設立し、各花販のため宿泊の設備をなした。之が濟南花行の濫觴である。其後花行は續々と設立されたが、いづれも取引額少く、正式の棉花市場は存在しなかつた。當時棉花の主要販路は日本の大阪一個所に限られ、輸出货量も毎年一〇萬擔を超えず、花行も五、六戸に過ぎなかつた。民國八年に至り濟南に魯豐紗廠が、同九年青島に華新紗廠が相前後して創立され、濟南に集る棉花は日に月に激増を來たし遂に正式の棉花市場となつた。歐洲大戰後棉價高騰し、棉花栽培による利益大となり爲に各地とも棉産漸く増加し、一方政府は力を盡くして米棉を奨励したため各縣の米棉田は漸次増加した。民國一〇年濟南の花行は一二戸に増加したが、棉花の移出高は五〇萬擔を超えず、この内日商隆和公司が二〇萬擔を占めた。民國一一年上海申新紗廠は濟南へ派遣員を置き棉花の買付を

なし、かくて販路は漸く擴大され、越へて民國一三年に至るや濟南の花行は二〇戸に達した。又同年には青島に日商紗廠が二工場、中國紗廠が一工場成立したため、同年取引總額は七〇萬擔以上に上つた。一五年張宗昌山東に入るや遂に内戦勃發し、商業は停頓し交通は中斷され、爲替は取組不能に陥り、申新紗廠も棉花購入に來濟する事が出來ず、加ふるに隆和公司も缺損續きのため遂に破産停業し、ために濟南棉花市場は一大打撃を被つて萎微沈滞し、五十餘戸の花行は殆んど倒産して餘す所僅かに五戸となつた。民國一八年に至るや内亂も全く平靖に歸し、申新紗廠も再び買付に來るし、上海幫も袂を連ねて來濟し夫々出張所を開設して收買した。中國銀行では此の時期に棉業貸款（花行に貸付けるのであつて農民に貸出しせず）を開始した。之がため市場の情勢は一轉し同年の棉花取引額は一躍八〇萬擔に達した。一九年の棉花市場は更に躍進を続け同年取引高は一〇〇萬擔となり、二三年には更に飛躍的發展を遂げて取引高は一六〇萬擔を突破した。濟南の棉花取引は最初粗絨物のみであつたが民國一五年以後は米棉が取引の大宗となり、近年は殆んど全部米棉のみとなつた。青島に日商紗廠が創立されてより濟南は青島紗廠の唯一の原料供給市場となり、濟南へ入荷する棉花も日と共に増加し、かくして今日では國內の重要棉花市場となつたのである。

## 二、濟南棉花市場發達の由來

### 1 位置の優越

濟南は北緯三六度四五分二四秒、東經一一七度八分一三秒の地點に位し、東方には海港を控へ、西は黄河に接し、北に京津の地を擁し、南は江蘇、安徽に連り、中原の要地である。津浦、膠濟兩線が開通して以來交通は至便となり遂に南北諸省往來の通衢となり近代的大都市となつた。清の光緒三〇年に西關に商埠地が開かれて以來、道路は整備し、商店は櫛比し、年と共に殷賑になつた。濟南は海を距たる事稍々遠く、氣候は半海洋性にして、夏はあまり乾燥

せず、冬は又寒からず、城内至る所に泉が湧出して適度の濕氣あり、雨量も適當にして、且つ土地高きため潮濕の弊も乾燥の患も無く、北支の何處よりも快適にして地の利に恵まれてゐる。

### 2 交通の便利

濟南は山東全省の交通の樞軸をなしてゐるのみならず、全國南北交通の要道にして、陸路に鐵道、省道、縣道の聯絡あり、水路に黄河、小清河あり、其他電報、電話、郵便等の設備に至るまで何れも完備してゐるのである。

### 三、棉花出廻經路及品質數量

濟南に出廻る棉花の産地は河北、山東、河南の三省であるが、その運輸經路により之を東路、西路に分つ。

1 東路。齊東、鄒平、濱縣、蒲臺、章邱、博興、廣饒、利津、高苑等の各地を包括してゐる。本路による集荷量は毎年約四〇萬擔にして、大部分は膠濟線により青島へ運送される。棉花の品質佳良にして、多く脱里司種に屬し價格も高く每擔五〇元乃至五七元位である。之に次ぐものは章邱の「特産米棉」にして、四〇番手綿糸の原棉として使用される。價格は純米棉より一擔につき四元位安い。

2 西路。臨清、高唐、清平、夏津、恩縣、武城、堂邑、館陶、邱縣、冠縣、及び河北省の南宮、吳橋、清河、冀縣、威縣、趙州、寧晉、廣平、成安等諸縣を包括し、又河南省の彰德、臨漳、武安等の諸縣の棉花も多く濟南に出廻はる。本路による集荷は比較的多く、民國一〇年以來毎年平均一〇〇萬擔の出廻量を有し、價格は魯北の長絨米棉より稍々安い。この中、河南彰德棉が優良で、每擔の價格は四七元乃至五一元である。南宮の純陽米棉も極めて佳良にして彰德棉と相伯仲してゐる。夏津米棉、臨清の尖塚米棉等之に次ぎ、高唐、清平、臨清等の普通米棉更に之に次ぐ。西路の平均毎年出廻數量は合計一二〇萬擔にして、山東省が七割、河北省が二割、河南省が一割を占めてゐる。此外南路即ち曹縣、單縣一帶の

棉花は、直接龍海線により河南方面へ販運せられ、更に津浦線により南方各省に運銷せられ、濟南へは出廻らない。

#### 四、棉花の販路及數量

濟南の棉花は市内の各紗廠にて消費される外、大部分青島及上海に移出され、年平均集貨量は一二〇萬擔である。その中青島へ運銷されるものが八〇萬擔、上海へ運銷されるものが二〇萬擔、各紗廠で消費されるものが二〇萬擔を占めてゐる。膠濟線により青島へ輸送されるものは一〇〇斤につき運賃八角、津浦線により上海へ輸送されるものは一〇〇斤につき運賃約三元である。

#### 五、市場の組織

濟南の棉花市場は天津の棉花市場と同じく、嚴密にして完全なる組織なく、棉花取引はすべて花行で行はれる。但し取引は繰棉に限られてゐる。花行は奥地の花客と棉花買付代理人の雲集する所である。左に市場を構成する要素に關し少しく説明を試みよう。

1 經紀人。經紀人(仲買人)の職務は買方と賣方との中に在つて取引の仲介をするのである。賣買兩者は元來一面識も無きため、互に自己の利益は圖らんとし取引價格が一致し難く、支那の俗諺に有る「當中無人事不成」の如く經紀人が中に立つて仲介の勞を執らなければ取引は成立し難い。この仲介斡旋が經紀人の基本職務にして、此種職務が敷衍して遂に顧客に代り賣買に當る様になつたのである。奥地原始市場の棉花店の如きは、常に花客に代り棉花の收買をなし手數料を取つてゐる。經紀人は取引の紹介をなす外、賣買兩者のために秤をかけ以て態度の公平を保持し、なほ貨物の受渡、代金の決済につき責任を負ふ。經紀は以上の職務を執行し、その報酬として手數料を取るのであるが、濟南終點市場に於ける經紀の職務と報酬は原始市場に於ける夫れと些か異つてゐる。濟南の經紀業は大別して二種に

分たれる。一つは税を納め營業許可證を下附されてゐる者、即ち所謂「牙行」或は「牙紀」であり、一つは税を納めず營業許可證を下附されてゐない商行(普通の商店)である。牙行は、顧客に代り賣買に當る性質のものであつて、固定資本を有せず、又固定店舗も無い。若しこの種の業務を營まんとする時には、先づ政府に申請して營業許可證の下附を乞ひ、定額の税を納めたる後始めて營業を開始し得るのである。その名稱には往々にして本人の姓名を用ひ、別に屋號を附けないものがある。その營業區域は一村、一鎮、一集市等に限られてをり、その手數料は普通一分五厘である。商行は之と異り、固定資本を有し、又固定店舗も有し、その納める税は「牙税」ではなくて「營業税」である。顧客に代り賣買に當る外、時には荷主に代り代金の立替をなし、或は自ら取引をなすもので、營業額も大きい。濟南棉花市場の經紀は商行の性質に屬し、その經紀人に左の三種がある。(一)花客。毎年各地方より來濟する花客は五百餘店に上り、すべて花行に宿泊し、自ら棉花取引を營む外に、花行、紗廠、洋行等に代り奥地より棉花を收買し手數料を取得する。専ら經紀のみを事とし自らの賣買を兼營しない者は、濟南の棉花市場に於ては極めて少數で、多くは自ら收買販賣等をもなし、花行、紗廠、洋行等と直接取引をしてゐる。(二)跑合。専ら花行と紗廠、花行と洋行、洋行と紗廠との間に在つて紹介斡旋するを職務とし、その間に於て手數料を取得するものである。併し此種の經紀人は濟南に於ては更に少く、多くは各花行の跑街者(外交員)がこの機能を兼任してゐる。(三)花行の跑街者。花行自身が濟南棉花市場の重要な經紀人であつて、すべての賣買の成立、取引の斡旋等は花行の跑街者が之を一手に占有してゐる。花行は之に毎月給料を與へ、彼等は別に手數料を取らない。實質的には花行の職員であつて花行の外に在つて、取引を一手に引き受けてゐるのである。

2 花行。濟南の花行は、商埠地一帯に多く聚在してゐる。之は津浦、膠濟兩鐵路に近く、棉花の出入に便利なた



めである。濟南の花行は棉花市場組織の中心層を形成し、すべての取引は此處で行はれる。濟南全市に一八戸の花行があり、一方では顧客に代り賣買をなし手数料を取得し、一方では自ら營業を兼營し、繅棉を收買して、棉花購入代理人、紗廠、洋行等へ轉賣し利潤を得てゐる。

左に民國二四年現在の濟南の花行を表示しやう。

濟南棉花市場花行一覽表

花行名稱	資本(元)	經理	成立年次	營業地點
復成信東	三萬	劉賓	民國八年	二馬路緯七路西
復成信西	三萬	高念	民國八年	二馬路緯七路西
同義成花	五萬	張心	民國七年	二馬路緯七路西
崇實東	三萬	黃子	民國二年	二馬路緯七路北
公益棧	三萬	曲黃	民國二年	二馬路緯七路
義申花	五萬	翟東	民國二年	四馬路緯四路
協記棧	三萬	翟靜	民國二年	四馬路小緯四路
濟西棧	一萬	張冠	民國二年	二馬路緯七路
新魯義棧	二萬	馬冠	民國二年	四馬路小緯六路
東興棧	一萬	王明	民國二年	五馬路緯九路
義興棧	二萬	李昌	民國二年	三馬路緯六路
崇實西	三萬	范崇	民國二年	二馬路緯八路北
東祥貨棧	一萬	李瑞	民國二年	三馬路緯七路
裕貨棧	一萬	崔李	民國二年	三馬路緯七路
裕貨棧	一萬	崔李	民國二年	三馬路緯六路

花行名稱	資本(元)	經理	成立年次	營業地點
森昌棧	一萬	張敬	民國二年	二馬路緯七路西
晉昌棧	三萬	張玉	民國二年	七馬路緯六路
同昌棧	一萬	劉屏	民國二年	一馬路緯七路東
中棉棧	一萬	張潤	民國八年	二馬路緯二路

花行の内部組織は、獨資商店(個人資本)も合資商店も同様で、掌櫃(經理)、司帳(會計)、跑街、招待等に分たれ、規模の大なるものは一店に職員五十餘名、見習二十餘名を雇傭してゐる。資本は一萬元乃至五萬元のもの多く、五萬元を超えるものは寥々たるものである。併し毎年の廻轉資金は數十萬元に達するものもある。毎年所要經費は、大なるものは二萬元以上小なるものは一萬元前後で、その内中棉歴記が最も多く毎年約六萬元前後の支出がある。中棉歴記は中國銀行の經營に係り、資本豊富にして、職員俸給も高く、諸雜費が他店より斷然多いからである。

花行が賣方と買方との間に立ち、仲介人としての働きをする以上、棉花跑合人は一見不必要の如く思はれるのであるが、棉花取引の繁忙なる際には跑合人も缺くべからざるもので、賣買兩者間を奔走し價格を商論し取引の折衝斡旋に當るのである。

市場の賣方には奥地の花客及花行を包括してゐる。花客は一方では奥地原始市場より棉花を收買し、一方では濟南終點市場で之を賣却し、直接には兩地の異なる價格を利用して利益を得、間接には各地の棉花價格を平衡に保つ役目をしてゐるのである。花行の主要業務は花客及棉花購入代理人のため取引上の利便を計るに在り、その效用に左の三つがある。

甲、奥地棉花濟南移入に關する一切の手續の代辦。即ち鐵路局への貨車の請求、保險手續、棉花の倉入、檢驗の交

涉等に當る。

乙、資金の融通。即ち入庫したる棉花を直ちに販賣する事が出来ず、而も花客が資金を要する事急なる時には花行に依頼し銀行より擔保付貸出を受ける事が出来る。但し借款額は在庫棉花の市價の七〇%を超過する事は出来ない。花行の營業が發達するか否かは、銀行或は銀號より資金の敏活なる供給をうけ之を運用廻轉し、顧客に充分なる満足を得るや否かに依つて定まるもので、利益の多寡は取引數量の多寡によつて定まる。時に花客の需むる金額があまり巨額に上らない場合には、花行自ら融通をなし利息を取らない。但しこの方法は密接な關係を有する花客及棉花購入代理人に對してのみ適用されるのであつて、その融通金額の大小は、兩者の關係の深淺と個人の信用を標準とする。

丙、棉花の代理販賣。顧客に代り棉花の販賣に當るのは花行の重要業務にして、此種業務はすべて花行内の跑街者が之を擔當する。濟南棉花の主なる取引先は、濟南各紗廠、青島の日華各紗廠、上海各紗廠等にして、各紗廠の棉花購入代理人及洋行(青島の日商紗廠は直接中國花行より棉花を購入せず洋行が代辦する)は濟南棉花市場の大顧客である。

濟南花行の收入は天津棉花貨棧のそれと稍々異り、天津棉花貨棧の收入には、手数料、貸款利息、棉花市價騰落による利得の外倉庫保管料があるが、濟南花行は然らず、その收入は、代客賣買による手数料、棉花の市價騰落による利得、火災保險代理による割戻金、貨車請求に附隨する餘利、及毛花(採取せる見本棉花、荷造改装に伴ひ生ずる僅少の餘剩棉花等)の積蓄による利得等である。棉花を花行へ寄託する際には、倉敷料を要せず、たゞ手数料一分二厘(取引成立後賣買手数料として一〇〇元につき一元二角)及秤力(秤をかける手数料)を毎擔につき二分支拂ふのみである。

花客及棉花購入代理人が花行へ宿泊するには毎日食費五角を要するが宿賃は不要である。濟南花行中には自ら棉花賣買を營んでゐる者が極めて多く、時には相場の騰落により利益を得る事もあるが、做存(買置)、做空(先物賣買)をして缺損し、倒産する者もある。最近濟南花行が漸次減少しつつあるのも、之が主要原因の一をなしてゐる。左に最近三年間に於ける濟南各花行の取扱數量を表示しやう。

民國二十一年濟南各花行集散棉花依數統計表

月 份	一 月 份		二 月 份		三 月 份		四 月 份		五 月 份		總 數
	出 貨	入 貨	出 貨	入 貨	出 貨	入 貨	出 貨	入 貨	出 貨	入 貨	
復成信	七九二七	八〇〇〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	五七二九八
西記	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	二六四〇	一三二二〇
同義成	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	一一一〇
通聚	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	五六一	二七二〇
福義	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	二七二〇
興裕	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	四八四	一三二二〇
中裕	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	二七二〇
昌行	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	三六六	一三二二〇
中歷	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	一三二二〇
棉協	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一三二二〇
記東	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	三三七	一三二二〇
實振	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	一三二二〇
興成	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	一三二二〇
新義	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一三二二〇
魯慶	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三二二〇
利源	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一三二二〇
總 數	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	五七二九八	一三二二〇

第三編 棉花の運銷

全年入貨合計	全年出貨合計	十二月份			十一月份			十月份			九月份			八月份			七月份			六月份			
		出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	
九六六	八四〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
全年在貨合計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

民國二十二年濟南各花行集散棉花債數統計表

月份	行名	一月份			二月份			三月份			四月份			五月份			六月份						
		出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在	出	入	在				
...	東復成	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	西成同	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	義成同	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	裕中	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	新益	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	義新	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	協記	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	興中	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	實記	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	同昌	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	慶祥	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	裕大	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	榮花	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	豐行	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	森昌	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	東興	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	濟興	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	西成	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	振興	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	裕昌	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	總數	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

第二章 市場

全年入貨合計	全年出貨合計	全年在貨合計	七月份		八月份		九月份		十月份		十一月份		十二月份		全年入貨合計	全年出貨合計	全年在貨合計			
			在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨				在貨	入貨	出貨
			二〇八一	四三三	二四二	二〇八一	四三三	二四二	二〇八一	四三三	二四二	二〇八一	四三三	二四二				二〇八一	四三三	二四二

民國二十三年濟南各花行集散棉花依數統計表

月份	一月份		二月份		三月份		四月份		五月份		六月份		全年合計
	在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨	在貨	入貨	出貨	
復成	八五五	二〇二〇	四〇九	八二〇	四〇九	八二〇	四〇九	八二〇	四〇九	八二〇	四〇九	八二〇	一〇九二〇

計	七月份		八月份		九月份		十月份		十一月份		全年入貨合	全年出貨合	計
	入貨	在貨	入貨	在貨	入貨	在貨	入貨	在貨	入貨	在貨			
全年入貨合	797,835	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	7,978,350	30,094,260	79,783,500
全年出貨合	797,835	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	812,127	3,009,426	7,978,350	30,094,260	79,783,500
計	1,595,670	6,018,852	1,624,254	6,018,852	1,624,254	6,018,852	1,624,254	6,018,852	1,624,254	6,018,852	15,956,700	60,188,520	159,567,000

濟南棉業同業公會。濟南棉業公會は民國一二年棉商張繼林及現濟南商會々長張叔衡兩氏の發起により組織成立したものである。當時張繼林氏は、各花行より一定の率により毎年資金を醸出せしめ、濟南に棉業銀行を設立しやうと計畫したが、人心一致せず遂に成立に至らなかつた。濟南の花行一八戸は全部同會會員にして、會内に執行委員一五名を設け、この一五名中より常務委員五名を互選し、更に主席一名を推選し、此外文牘、書記、常年法律顧問各一名を選挙し、花行同業の利益の擁護、營業上の弊害矯正に努めてゐる。各花行は毎日の棉花入出貨數量、在貨量を隨時同會に報告し、同會は之により統計資料を作成する。而してこの報告は、火災に遇つた際、保險會社に對する保險金の拂受に確實なる證據となるのである。

棉業公會の經常經費及臨時經費は各花行が按分負擔し、會員の報告せる棉花依數により、一俵につき一分五厘の會費を納める。その報告數量は、保險證に基き定められる。公會の年末決算の際もし赤字が出たならば、各花行は更に追加負擔する。

濟南の各花客も同業者共同利益を擁護する目的を以て駐濟棉商聯合會を組織してゐる。會内に執行委員一五名を設け、委員中より常務委員五名を互選し、更に主席一名、文牘、書記、常年法律顧問各一名を選出して、同會の一切の公共事項を辦理してゐる。

3 洋行。棉花の買方には、濟南各紗廠、貿易商、上海青島各紗廠の代理人、及當地小棉花店がある。濟南各紗廠の取引は、すべて各花行の跑衛者或は跑合人と各紗廠の責任者とが直接商談してゐる。但し青島の日商紗廠は花行或は花客との直接取引をなさず、濟南の日本棉花洋行に委託購買せしめてゐる。この際紗廠は一擔につき手数料五角を出し、洋行は花行或は花客と取引成立したる後、青島に轉送して各紗廠に棉花を引渡すのである。然るに近年來棉花

に對し混水或は夾雜物混入の惡弊絶へず、洋行は常に紗廠の指摘を被り、これが爲己むを得ず便法を案出し、洋行と花行と契約書を訂立し、洋行の手を經ず、花行或は花客より直接青島へ運送し紗廠へ引渡す事とし、若し棉花が見本と相違した場合には紗廠はその受入を拒絶する事を得る様に取り極めた。即ち洋行は中間人或は紹介人としての位置に立ち、直接賣買はしないのである。

濟南には小棉花店が二十餘戸あるが、その確實なる棉花出入統計はない。彼等は何れも小賣店を兼營し、直接消費者へ販賣してゐる。取扱棉花は殆んど産地より直接仕入れたもので、當地各花行より仕入れる事もあるがその數量は極めて少い。

左に濟南の主なる棉花洋行を表示しやう。

洋行名稱	國別	經理名	營業地點	成立年次
日本棉花棧	日本	酒見	四馬路號七路	民國一三年
東棉洋行	同	長島	一馬路號七路	一四年
瀛華洋行	同	藤	一馬路號七路	一四年
大華洋行	同	富	三馬路號六路	二〇〇年
瑞豐洋行	同	石	一馬路號六路	二〇〇年
東裕洋行	同	東	三馬路號七路義興花行內	一九〇年
大塚洋行	同	大	三馬路號七路	二二年
米倉洋行	同	米	三馬路號七路	二二年
吉誠洋行	同	誠	二馬路號七路	二四年
永榮洋行	同	張	五馬路緯八路東興花行內	二二年

此外日商の鈴木洋行、土橋洋行、江商洋行、日信洋行、義昌洋行、集成洋行、立元洋行、儀騰洋行、及張店の永豐洋行、公順祥洋行、和順泰洋行、德泰洋行、三信成洋行、益豐田洋行等も濟南に臨時に出張所を開設し、棉花を收買してゐるがその取引額は少量であつて、而もその性質は臨時的なもので、半永久的營業を行つてゐないので表の中には記入してない。

4 紗廠。濟南市には紗廠が三工場ある。魯豐紡織股份有限公司、成通紡織公司、仁豐紡織公司が夫れである。三工場は何れも華人經營である。魯豐が資本最大で、成立最も早く、民國八年資本一八六萬元を以て創設された。設備としては蒸汽エンジン二基、及混棉機、打棉機、梳棉機、練條機、粗紡機、精紡機、捻合機、荷造機等が合計五一八あり一番手、二番手、六番手、一〇番手、一二番手、一六番手、二〇番手、三二番手等の、太糸、中糸を紡いでゐる。成通廠は民國二一年資本金一五〇萬元を以て設立された。二、六八〇馬力のタービン發電機一基、打棉機、梳棉機、練條機、粗紡機、精紡機、捻合機、荷造機等が合計二六〇あり、一〇番手、一二番手、一六番手、二〇番手等の糸を紡いでゐる。

仁豐廠は成立最も晩く、民國二三年六月一二日に操業を開始した。紡機一二、六七〇錠を有し、綿糸の日産能力は四六棚である。資本金は成通廠と同じく一五〇萬元である。左に濟南紗廠概況一覽表を示さう。

濟南紗廠統計表

社名	所在地	成立年月	資本(元)	錠數	原動力	每年原棉消費量(擔)	綿糸生産量(包)	商標
魯豐紡織股份有限公司	城北林家橋	民國八年一〇月	1,860,000	2,680	蒸氣	70,000	110,000	吉羊

成通紡織公司	北商埠	民國二二年四月	1,500,000	150,000	電氣	500,000	150,000	三義、聘賢
仁豐紡織公司	北商埠	民國二三年六月	1,500,000	130,000	電氣	300,000	100,000	紡車、太山、蜘蛛

註 民國二三年魯豐は原棉四萬擔を成通、仁豐は各々二萬擔を消費した。

濟南には右三工場の外、厚德貧民工廠が貧民救済の目的を以て民國九年慈善捐處よりの出資四六、三五五元を資本として創設せられた。同工場には打棉機、梳棉機、粗紡機、精紡機、捻合機等合計二九の設備あり、製品は主として麥粉袋用に供せられてゐる。

三工場の綿糸年生産量は合計四、五萬包に達し、その価格は合計七百餘萬元に上る。魯豐がこの内の五〇%、其他の二廠が合せて五〇%を占めてゐる。販路は山東省内が主で、特に魯南、魯東及津浦線一帶に賣行が多い。原棉は多く臨清、夏津、恩縣、城武、商河、鄒平、威縣、濰縣、濰縣等の諸縣生産棉であるが陝西、河北、河南等の棉花も一部分混用されてゐる。原棉の年所要量は一四萬擔に上る。今粗絨物細絨物を平均して一擔四二元として計算すれば、この価格は五百八十餘萬元に達する。

上海より棉花購買のため派遣員を來濟せしめる紡績會社には、申新紗廠、永安紗廠、大成紗廠及民豐紗廠等があり、無錫よりは廣勤紗廠が來濟する。之等派遣員の棉花購入法は、花行より購買するか或は棉商(即ち花客)に委託購買する。此の外上海棉花問屋數戸は濟南に臨時出張所を開設して棉花を買付け、南方に輸送する。

日商の山東に於ける經濟勢力は全く驚異に値するものがある。即ち青島の九紡績會社、紡機五十餘萬錠、資本合計一億餘元の内、僅かに華新のみが華商自營に係るもので、他の八社は悉く日商の經營である。九社の合計綿糸日産能力は七百餘捆にして、三分の一が海外に輸出される外、殘餘はすべて山東で消費される。濟南のみの一日の綿糸消費

は三〇〇捆にして、南は鄒縣、滕縣、臨沂、西は大名、廣平一帶、北は南宮、東は濰縣等の諸縣はすべて、山東棉糸の消費地である。青島九社の日産七百餘捆及濟南三社の日産百六十餘捆の外、以前天津の綿糸で滿洲方面へ販賣されてゐたものが滿洲國の關稅改正により同方面へ行かず山東へ販路を求めた様になつたため競争激甚を極め、価格は日に下落するに至つた。

5 打包廠(荷造工場)。濟南には打包会社が二社ある。その一つは中國打包公司にして、中國銀行が民國二一年冬之を創立した。資本金は三〇萬元、水壓機一臺、一二〇馬力の火力エンジン一基を有し、一時間に四五〇磅依を二五依プレスする能力を持ち、山東新興事業の一つである。同公司成立以來棉花の運輸は非常に便利になつた。他の一つは申新打包公司であつて、資本金は一八萬元、申新紗廠の設立に係る。最初は専ら申新紗廠濟南辦事處の棉花プレス用に供してゐたが、其後開放して一般のプレスをも引受けてゐる。火力エンジン轉動の水壓プレス機一臺を有し、毎日三〇〇磅依二〇〇餘依をプレスする能力を有してゐる。

打包(プレス)手續及費用。奥地より運送せられて來た棉花はすべて一五〇斤依であるが、上海、無錫等へ轉送するには運賃の節減を計る爲二五〇磅の硬依に改装せねばならない。青島へ輸送するには距離も近く、積卸しに手数がかゝらず、運賃も大差無い爲別に改装しない。

打包費は、「純貨」、「配合貨」、「上棧貨」の三種により夫々相異つてゐる。「純貨」は其他の手續を要せずたゞ打包費一依につき一元を要するのみである。「配合貨」は配合手續を要し、打包費は一依につき一元一角である。以上兩種は包装すると直ちに出貨される。「上棧貨」の打包費は一依四元にして、倉敷料、保險料、入庫料、出庫料、包装材料、荷主の食費等一切を含んでゐる。但し打包公司としては入庫後に關しては全責任を負ふが、出庫後は何等の責任も負はな

い。南方行の棉花は全部改装されるが、この改装費は一〇〇斤につき一元五角である。

6 倉庫業。濟南には専門の倉庫業者は無い。堆棧(倉庫)が一二〇戸あるが、いづれも兼營に係る。例へば花行が顧客のため棉花を保管する如き、或は糧穀問屋の穀物倉庫、茶莊の茶倉庫、驛の附屬荷卸場等の如くである。最近中國、交通、上海等の銀行が正式倉庫を設置したが、多くは抵當付貸出に使用されるのみで、倉庫專業の性質のものはない。

濟南堆棧には左の五種類がある。(一)金融堆棧。各銀行等金融機關の經營に係り、その目的は擔保付貸出にあり、擔保品の保管を主要業務となし、普通貨物の保管も兼營してゐる。濟南には各銀行の自家用倉庫の外、中國、交通、上海三銀行の經營する三行倉庫があつたが、民國二三年七月三行倉庫は上海、大陸兩銀行の兩行倉庫に改組された。固定資本金は五萬元、流動資金は一萬元で、内部組織は主任、會計、外交各一名、倉庫管理員二名よりなるが、外に苦力頭二名を置き貨物の運搬、入出庫の責任を負はせてゐる。

三行倉庫の業務。(甲)。貨物倉入手續は、先づ倉庫管理員の點檢を受けたる後倉庫に入れ、倉荷證券に記入し、主任及會計の署名捺印を経たる後、所要費用を納付する。倉敷料は貨物引取りの際支拂ふ。保管期間は普通二三個月間位である。(乙)。擔保付貸出。貨物を倉庫に預入れた後、荷主は倉荷證券及保險證書を銀行に持參し、之を擔保として借款する事が出来る。この手續はすべて荷主が自らせねばならない。借款利率は月利一分乃至二分にして、期限は最高六個月、普通は一個月乃至三個月である。

(二) 工場商號の堆棧。洋行及工場等の堆棧で、自家生産品或は自家販賣商品を保管するを主要任務とし、他貨は取扱はない。

(三) 鐵路堆棧。鐵路局の經營に係る。停車場附近に設けられ、貨物を保管する性質のものではなく、一時貨物を預つて置く一種の倉庫である。期限内に荷物を引取らなければ、保管料を徴せられる。津浦、膠濟兩線の「貨場」等は是に屬する。

(四) 運送堆棧。此種の倉庫は運送會社の設立に係り、貨物保管を主要任務とするものではなく、貨物の運送に便ならしめるため設けられたのである。貨物保管期限は一個月以内とし、保管料を徴しない。但し期限内に貨物を引取らなければ、運送會社は貨物を競賣に附し、その損失を補填する。

(五) 商店堆棧。此種の倉庫は貨物保管を專業とするものではなく、貨物卸賣商或は旅店等の顧客の貨物を保管するものである。花行等は是に屬するものである。花行は倉敷料を取らず、たゞ代客賣買の手敷料を取るのみである。要するに濟南の倉庫業は未だ萌芽期に在り、嚴密なる組織なく、銀行は倉庫を有してゐるが、専ら擔保付貸出のため設けたのであつて、専門倉庫業者とは稱し難い。

7 保險業。濟南には保險會社が大小合計二十餘戸あり、すべて上海、天津、外國各保險會社の支店又は代理店である。毎年の保險收入は約五〇萬元に達する。洋行の保險部等の如く兼營のものが比較的多く、保險専門業者はこの内一六戸である。華商の保險會社には中國銀行保險部、太平保險公司、安平保險公司、寶豐保險公司等がある。

濟南市華商保險會社一覽表

社名	成立年次	資(本)額	本社所在地及名稱	保險種類
中國銀行保險部	民國二十一年	一二萬五千元	上海、中國保險公司	水災、火災



太平保險公司	民國二十一年	一〇萬元	上海、太平保險公司	水災、火災
安平保險公司	民國二十一年	五萬元	上海、安平保險公司	水災、火災
寶豐保險公司	民國二十一年	一〇萬元	上海、寶豐保險公司	水災、火災、自動車、傷害

註 資本額は濟南各社支店につき調査せし數字に依る

外商保險會社は一〇戸あるが、英商揚子保險公司、南英商保險公司、英商保豐保險公司、英商巴勒保險公司、英商老公茂保險公司の五戸が最大である。日商保險會社は二戸あり、三井保險公司及海上保險公司である。左に外商保險會社一覽表を示さう。

濟南外商保險會社一覽表

社名(華稱)	國別	本 社	名(英文名稱)	年保險契約高(元)	年保險收入額(元)	保險種類
揚子保險公司	英		Yan-tze Insurance Association Ltd.	11,000,000	10,000	水災、火災
南英商保險公司	英		South British Ins. Co., Ltd.	14,000,000	2,000	水災、火災
保豐保險公司	英		Licenses & General Insurance, Ltd.	11,000,000	1,000,000	水災、火災
巴勒保險公司	英		North British & Mercantile Insurance Co., Ltd.	1,000,000	50,000	水災、火災
老公茂保險公司	英		Commercial Union Association Co., Ltd.	11,000,000	1,000	水災、火災
友邦保險公司	米		Asia Life Insurance Co.	4,000,000	20,000	生命
保宏保險公司	英		New Zealand Insurance Co., Ltd.	11,000,000	11,000	水災、火災
華康保險公司	英		Prudential Underwriters.	11,000,000	10,000	水災、火災
西澳洲保險公司	英		Western Australian Ins. Co., Ltd.	不詳	不詳	水災、火災
黑海保險公司	英		Black Sea & Baltic General Insurance Co., Ltd.	不詳	不詳	水災、火災

三井保險公司辦事處	日	Mitsui Bussan Kaisha Ltd.	11,000,000	不詳	水災、火災
海上保險公司	日		不詳	不詳	水災、火災

濟南の華商、外商各保險會社の保險の種類は、水災、火災兩保險が最も多く、生命、自動車、傷害保險等が之に次ぐ。運送保險を兼營してゐる會社もあるが、その數は極めて少い。一般に棉花保險は安全性を缺く事業なるを以て、保險業者は之が經營を喜ばず、民國二三年に花行數戸が保險に入らうとして拒絶された事もあつたが、最近各社の競争激甚となり爲に大抵の會社で棉花保險も引受けてゐる。棉花保險では「軋花」(繰棉)が最も危険である。民國二三年濟南全市の繰棉業者中火災に遭つた者が五戸あり、二二年には中棉公司が火災にかゝり、保險會社は保險金六萬元を支拂つた。民國十九年には崇實花行が火災に遭ひ、三井保險會社は保險金三六萬元を支拂つた。民國二〇年には棉花火災のため支拂はれた保險金額は一九萬元に達した。これがため各保險會社は非常に困惑し、花行の保險證書記入、花行の設備等に對し嚴重なる規定を設けた。

保險手續及費用

(甲) 火災保險。火災保險事業は競争極めて激烈で、保險會社職員が熱心に各方面に運動勸誘してゐる。屢々保險に加入する者は、保險會社より印刷したる保險請求書(Application Form)を一冊貰ひ常に備へて置き、貨物を倉入すれば加入者が自ら之に貨物名稱、數量、價格等を記入し、保險會社に持參する。保險會社は社員を派して實地調査をなし、合格すれば規定の料金を徴收し、保險證書を作製交付し、即日効力が發生する。一般加入者は保險會社より請求書を買ひ、之に記入して保險會社に持參する。其後の手續は前記の場合と同様である。

花客の棉花が花行に運ばれた後、花行は規則通り保險の代辦をする。保險代辦の簡章を左に説明しやう。

- A、保険料は小俵大洋八分、中俵大洋一角二分、大俵大洋一角六分にして、保険證書と引替へに之を支拂ふ。(一〇斤以下のものを小俵とし、一六〇斤以下のものを中俵とし、一六〇斤以上のものを大俵とす)
- B、顧客は保険證書を受領したる後之を保存し、他日の證據とする。
- C、顧客の貨物が保険に加入した後、火災に遇つた場合には保險會社より保險金の支拂を受ける事項に關し、本行(代辦せる花行)と公會とは完全に辦理すべき責任を負ふ。
- D、凡て顧客の貨物を賣却或は他所に移轉したる時は、貨物運出の當日保險證書を返却し保險を取消すものとす。若し返却せざる時は、本行は保險を既に解除したものと認定し、保險證書は無効に歸す。
- E、顧客の貨物の保險事項に關しては、保險證書を證據となすは勿論なるも、本行の賬簿及摺擬(メモ)も、すべて調査の上證據としての效力を有す。
- F、保險證書は、荷主が之を保存し、移轉或は其他の用に供するを得ず。
- 棉花保險料は價格を標準となし、一、〇〇〇元を單位とする。棉花保險料には左の五種がある。
- A、繰棉。實棉を繰棉する際に機械の磨擦等により火災を發生し易い。故に保險料も特別高く、一、〇〇〇元の棉花につき三元六角である。
- B、野積棉花。普通花行の野積棉花は多くこの保險に屬する。但し包裝せられた棉花に限る。散棉は火災にかゝる可能性大なるため取扱はれない。保險料は一、〇〇〇元につき二元四角である。
- C、鐵筋コンクリート建築物内保管棉花。此種の建築物内に保管してある棉花は、火災に遇ふ機會が比較的少く、燃焼可能性も小なるため保險料も最低にして、一、〇〇〇元につき一元二角である。

D、普通倉庫保管棉花。此種の倉庫は鐵筋コンクリートの倉庫よりは危険性が大きい、之を野積に比較すれば遙かに危険性が少い。故に保險料は鐵筋コンクリート倉庫保管棉花より高く、野積棉花よりは安く、一、〇〇〇元につき一元八角である。

E、運送保險。此種の保險業務は、以前はすべて日商保險會社が經營し、華商外商各保險會社は之を引受けるものが極めて少なかつた。最近華商各保險會社も漸次運送保險を取扱ふ様になつた。保險料は棉花一、〇〇〇元につき青島行は六角五分、上海行は一元二角である。

民國二三年濟南各保險會社(中國、日本、英國、米國各社を含む)の保險料總收入は一〇〇、〇〇〇元にして、此の内棉花が一五、〇〇〇元を占め、總收入の一五%を占めてゐる。

(乙) 水災保險。濟南は海を去る事稍々遠い。従つて水災保險は極めて少く、多くは青島で經營されてゐる。加入者は貨物引換證或は郵便小包の領收證を證據とし水災保險請求書と共に保險會社へ送付する。會社は請求書に依つて保險證書を作製し、所定の保險料を徵收する。保險料の標準はまち／＼で一定せず、なほ割戻金等は公開されない。

山東省の保險業は、多くは代理店又は支店なるため、本社に對して保證人を立て、契約書を締結し、保證金を納めなければならぬ。期限は一年、二年等不同で、期限満了後兩者が同意すれば、引續き契約する事が出来る。保證金は一定の限度無く、營業の多寡によつて異り、普通毎月の營業額が二、〇〇〇元を超過するものは保證金を四、五千元納めなければならぬ。代理店と本社と契約したる後、保險證書はすべて本社より發給せられ、該代理店は毎月末保險證書及同月内の帳簿面を一回報告し、翌月一五日に同月分の保險收入を本社に郵送する。但しその記帳方法には一定の規則あり、保險證書額面の半分を標準とする。代理店の従事員及經費は、代理店自身の責任に歸し、本社とは無

關係である。保険金の支拂に關しては、本社が責任を負ひ代理店とは無關係である。

8 運輸公司。

(甲) 概況。山東の主なる運送業者は濟南、青島、芝罘、濰縣、泰安、周村等の各地に分布散在してゐる。濟南は山東に於ける陸路交通の中心地にして、鐵道、自動車路はすべて同地を聯繫點となす。各地方へ販賣される山東の主要農産物も、先づ最初に濟南へ集まつた後、各縣へ轉送されるのである。運送業を大別して次の二種とす。(一)鐵道運送業。(二)大車運送業。前者はすべて運輸公司と稱せられ、顧客に代り鐵路局と貨車繰りの折衝をなし、貨物を青島、上海、天津及其他各地へ運送する。後者は運貨棧と稱せられ、顧客に代り奥地の貨物を濟南へ、濟南の貨物を奥地へ大車を以て輸送してゐる。

(乙) 組織。濟南の運輸公司は、合資のもの、獨資のものが各々相半ばし、營業所は經一路、膠濟及津浦兩停車場附近に集中してゐる。比較的大規模のもの即ち滙通公司、悅來公司、捷運公司、利興公司、大中華公司、中華公司等數戸は倉庫の設備を有し、顧客の貨物積卸の際の用に充てゝゐる。其外小規模の業者が二十餘戸あるが倉庫の設備は無し。

濟南の運送業者は又南北兩帯に分たれ、南帯は江蘇、浙江兩省の運送業者の支店にして「南公司」と稱せられ、その運輸路線は津浦線南段、及京滬、滬杭兩線を主となし、運輸先は上海である。北帯は山東及河北兩省人の開設した公司であつて、「北公司」と稱せられ、その營業範圍は津浦線北段を主となし、膠濟線之に次ぎ、津浦南段及隴海線等更に之に次ぐ。山東人の經營する運送公司の營業圏は膠濟沿線に限られてゐる。「南公司」の代表的なものを二三取り上げて左にその營業額を示さう。

公司名稱	全年營業額 (單位：噸)
中華公司	一、二〇〇
捷運公司	一、二〇〇
大中華公司	一、三〇〇
滙通公司	一、二〇〇
利興公司	一、三〇〇

(丙) 業務。山東に於ける運輸公司の業務は、鐵道沿線にあるものは、顧客に代り貨物の積卸を辦理するのみであるが、水陸兩方面の運輸のある地方では、貨物の積卸及運輸の代辦の外、通關事務を兼營する。海路運送される貨物に對しては、運輸公司是通關、貨物引取、貨物積込、倉入等一切の手續を代辦する。

大車運貨棧は、東西南北四帯に分たれ、各鄉村に夫々一定の顧客があり、貨物の運送、積卸等を代辦してゐる。左に濟南運輸公司の主要業務を列記してみやう。

A、運送手續の辦理。荷主が貨物明細書を運輸公司に渡し、領收證及貨物引換證を受了したる後は、運輸公司が貨物運輸の全責任を負ひ、荷主はたゞ相當時日經過後目的地にて貨物引換證と引換へに貨物を受取ればよいのである。

B、擔保貸出の辦理。顧客が一時的資金の缺乏を來たし、運轉不能に陥つた時には、運輸貨物を擔保に運輸公司より借款するか或は運輸公司に委託し銀行より金融を受ける事が出来る。この際借款し得る金額は普通貨物市價の七割にして、特に懇意なる間柄で信用厚き顧客は市價の一〇割融通を受ける事が出来る。期限は約二週間で利率は九厘乃至一分五厘、平均一分である。

(丁) 手續及費用。貨物の運輸は、鐵道沿線では運輸会社が直接顧客に代り積込み、運送する。顧客は先づ運輸会社に貨物の種類、數量、運送地點、荷受人姓名、商標、保險に加入の有無(まだ保險をかけてないので加入手續の代辦を運輸会社に委託する事も可)、等に關し説明し、運輸公司是運賃及手数料を計算し、兩者同意したる後、貨物を秤にかけ、貨物證を顧客に交付する。顧客は之を荷受人に發送し、貨物が到着したる時貨物證と引換へに貨物を受取るのである。

運賃の多寡は距離の遠近及交通の便不便を標準とする。汽車輸送は運賃明細表の通り計算し、大車運輸は普通一〇〇斤につき一〇〇支里毎に一元八角乃至二元を要し、大車への積卸は一車につき三角乃至三角五分である。運送途中の車夫の宿賃食費はその自辦とす。鐵道運輸は、四〇噸積貨車により、濟南より上海迄運送するに一車八二〇元乃至八三〇元の運賃を要し、八日間であらう。

苦力賃は一〇噸につき二元である。この外公會々費四〇噸につき四元を要する。構内保險は、一週間を一期限とし一萬元毎に七元を要し、顧客の負擔である。

#### 9 金融機關。

A、沿革。濟南は山東に於ける交通の中心地で、同時に全省金融の樞軸をなしてゐる。金融機關は銀行と銀號の二種に分たれる。銀行は清朝末期民國初年濟南に大清銀行(現在の中國銀行)及交通銀行があつたが、その營業範圍は極めて狭く、政府の稅收及公金を取扱ふに過ぎず、一般社會の金融は錢莊を中心として行はれた。中華民國成立以來國內の銀行業は漸次發達し、山東方面も時勢の赴く所に従ひ長足の進歩をとげた。この當時青島は未だ回收せられず、銀行業の 屏は濟南を中心とした。民國元年より一三年に至る間、濟南に設立せられた銀行は、本店及支店を合し十八

行に達した。然るに民國一三年張宗昌が山東の實權を掌握するや、省幣及軍用票を濫發し、遂に金融恐慌を惹起し、銀行の取付騒動が頻發し、倒産せる銀行も多數に上つた。平素信用厚き山東商業銀行でさへ、民國一七年二個月に互つて紙幣兌換を中止し停業する状態であつた。民國一八年北伐完成後軍事平定し、商工業は逐次恢復し、銀行も捲土重來諸般の準備を整へて再び開業した。其後數年間に山東に於て恢復及新設せる銀行は二十餘行の多きに上つた。正に銀行復興時代とも謂ふべきであらう。

左に濟南銀行業の盛衰狀況を今少し掘り下げて詳述してみよう。

民國になつて、大清銀行が中國銀行と改稱された外、新銀行が相繼いで設立された。民國二年には山東銀行が創立されたが、本行は官銀號より民營に改組されたもので、一四年に至り張宗昌の山東省銀行の名稱と混同し易いとの故を以て、再び山東商業銀行と改稱され、更に青島、周村、上海、天津等各地に支店を設け、その業務は堅實なる發展をとげ、濟南金融界に重要な地位を占めてゐる。續いて民國四年には通惠銀行、工商銀行、民國五年には中國實業銀行、齊魯銀行、民國七年には東萊銀行、當業銀行、民國八年には大陸銀行、上海銀行、豐大銀行、民國九年には懋業銀行、民國一〇年には邊業銀行等が設立された。然るに當時青島は尙日本の管轄下に在り、膠濟線も未だ回贈されず日商橫濱正金銀行、濟南銀行、朝鮮銀行等三行の勢力頗る優勢にして、華商銀行の勢力はまだ微弱なるものであつた。青島を接收するに及び各銀行より發行されたる紙幣は津浦、膠濟兩線沿線に流通し、濟南の經濟界は頓に活況を呈するに至つた。引續き民國一一年には道生銀行、山左銀行、民國一二年には勸業銀行、鹽業銀行、明華銀行、民國一三年には泰豐銀行等が相前後して設立され、銀行業の最盛時代を現出した。民國一四年には前述せる如く張宗昌の治下に紙幣を濫發し、市場に流通する山東省銀行紙幣九百萬元の市價は四割以下に暴落し、省公債二千萬元は殆ん